

高齢者の社会参加に関する 聞き取り調査実施業務

報 告 書

平成 28 年 3 月

株式会社ノーザンクロス

目 次

第1章 業務概要

1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
3. 業務実施フロー	5

第2章 調査・分析結果のまとめ

1. アンケート調査実施概要	7
2. インタビュー調査実施概要	23
3. 調査対象事業の現状と課題	41

第3章 まとめと提言

1. 総論	65
2. 各論～既存の取組の可能性を引き出すために	73

第4章 事例文献調査

1. 事例調査の視点	81
2. 事例調査	82

資料1 アンケート調査集計結果

1. 調査方法および回収結果（再掲）	91
2. 集計結果に関する留意事項	91
3. 調査集計結果	92

資料2 アンケート調査票・依頼状

1. シニア大学在学学生	125
2. シニア大学卒業生	130
3. 介護サポーター	137

第1章 業務概要

1. 調査目的

少子高齢化により、地域社会の担い手が減る中で、元気な高齢者が引き続き健康を保ちながら、地域社会を支える重要な一員として、積極的に活躍していくことが求められている。

こうした状況をふまえ、より多くの高齢者の社会参加を促進するために、高齢者が魅力を感じる社会参加活動の内容や、具体的な行動につながるきっかけ、条件を把握することを目的として、調査を実施した。

2. 調査概要

社会参加の意欲が高いと考えられる高齢者を対象に、アンケートやインタビュー等の手法を用いて調査を行い、高齢者が社会参加に至る環境的・心理的条件を抽出した。

(1) 調査対象事業について

調査は、札幌市で実施している高齢者の社会参加を促進するための取り組みである「札幌シニア大学」と「介護サポートポイント事業」への参加者を対象に実施した。調査対象事業の概要は以下のとおりである。

項目	札幌シニア大学	介護サポートポイント事業
目的	● 地域活動リーダーを育成すること ● 高齢者の社会活動を促進し、生きがいの向上を図ること	● 高齢者自身の社会参加活動をつうじた介護予防の促進 ● いきいきした活力ある地域づくり
対象	● 60歳以上 ● 2年間継続して学習できる健康な方	● 65歳以上の市民 要介護者は除く（要支援1・2は対象）
概要	● 1学年約100名、2年制 ● 各月2～3日、年間約50講座開講 ● 1日2講座、1講座につき1.5時間程度の授業を実施 ● 講座受講は全員で行い、研修・体験講座等は各区グループ単位で行動し、発表等を行う。 ● 学生が役員となり、日ごろの授業や修学旅行、卒業前の自治会祭等の進行管理を行う「自治会活動」がある。	● 介護サポーター研修を受講すると「介護サポーター」に登録することができる。介護の資格は不要 ● 実際に活動を始めるときは、介護サポーターを受け入れている特別養護老人ホーム・併設デイサービス、老人保健施設・併設デイケアに活動を申し出る ● 活動を行うと、ポイントが付与され、申請に応じ換金ができる。
運営	札幌市老人クラブ連合会	札幌市社会福祉協議会 ボランティア活動センター
所管	札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課	

(2) アンケート調査

①目的

- 既に交流・社会参加活動を行っている高齢者の活動を始めたきっかけや、活動への意識・意向、やりがいなどについての考え方の傾向を分析する。
- アンケートへの回答と併せて、定性的なデータを聞き取るために実施する「ヒアリング調査」への協力者を募集する。

②実施実績

調査対象者	調査時期	実施方法	配布数	回収数	回収率
シニア大学在学学生	H27.11.20	シニア大学講義終了後に、直接配布・回収	80 件	62 件	77.5%
シニア大学卒業生 (H25・H26 年度)	H27.11.14 ～11.30	郵送配布・回収	175 件	82 件	46.9%
介護サポーター	H27.10.27	フォローアップ講座終了後に直接配布・回収	82 件	74 件	90.2%
計			337 件	218 件	64.7%

③調査項目

調査対象者	共通項目	事業限定項目
シニア大学 在学学生	●フェイス項目 (居住区・年代・性別・同居者・居住形態・就業形態・前職就業形態・余暇時間・外出頻度)	●シニア大学での学びが役立っているか ●シニア大学で得られたこと ●受講期間への評価
シニア大学 卒業生 (H25・H26 年度)	●活動の状況(調査対象事業を除く) ●活動を始めたきっかけ ●活動時期と当時のライフイベント	●町内会・老人クラブ加入・活動状況(卒業生のみ) ●卒業年度(卒業生のみ)
介護サポーター	●活動をしている理由 ●調査対象事業受講前後の活動 ●活動をしている中での課題・問題 ●活動に関する自由回答 ●今後受講したい講座 ●ヒアリング調査への協力可否	●介護サポーター フォローアップ講座の 評価

(3) インタビュー調査

①目的

アンケート調査から得られた定量的な結果を参考にして、インタビュー調査を行い、「活動」するに至った経緯や理由、心理的状況、調査対象者のライフイベントなどの定性的データを取得し、今後の高齢者の社会参加促進に係る施策立案に活用する。

②実施実績

アンケート調査の際に、インタビュー調査の協力依頼文による案内を実施し、協力同意が得られた対象者に調査を実施した。

なお、シニア大学卒業生については 20 名程度の募集に対し、40 名の応募があったため、年齢・性別を考慮の上、抽選を行った。

調査対象・調査名	調査方法	実施日時		実施会場	参加者数	
シニア大学在学学生 「いきいき生きる！ シニア大学生 インタビュー ～あなたの体験を お聞かせください～」	個別インタビュー	①H28.2.4	11:00～12:30	※個別インタビューのため、会場は対象者の希望でそれぞれ設定	各 1 名	
		②H28.2.4	13:30～14:30			
		③H28.2.9	10:00～11:30			
		④H28.2.9	13:30～14:45			
		⑤H28.2.15	10:30～11:45			
		⑥H28.2.15	13:30～14:30			
		⑦H28.2.15	15:30～17:45			
		⑧H28.2.16	11:00～11:45		計 8 名	
シニア大学卒業生 「札幌シニア大学 卒業生座談会」	グループインタビュー	①H28.1.25	10:30～12:30	弊社会議室	5 名	計 16 名
		②H28.2.10	10:30～12:30		5 名	
		③H28.2.14	13:30～15:30	TKP 札幌ビジネスセンター「ミーティングルーム 5E」	6 名	
介護サポーター 「介護サポーター 座談会」	グループインタビュー	①H27.12.13	10:00～12:00	TKP 札幌ビジネスセンター「ミーティングルーム 5E」	4 名	計 13 名
		②H27.12.13	13:30～15:30		4 名	
		③H27.12.16	13:30～15:30	弊社会議室	5 名	

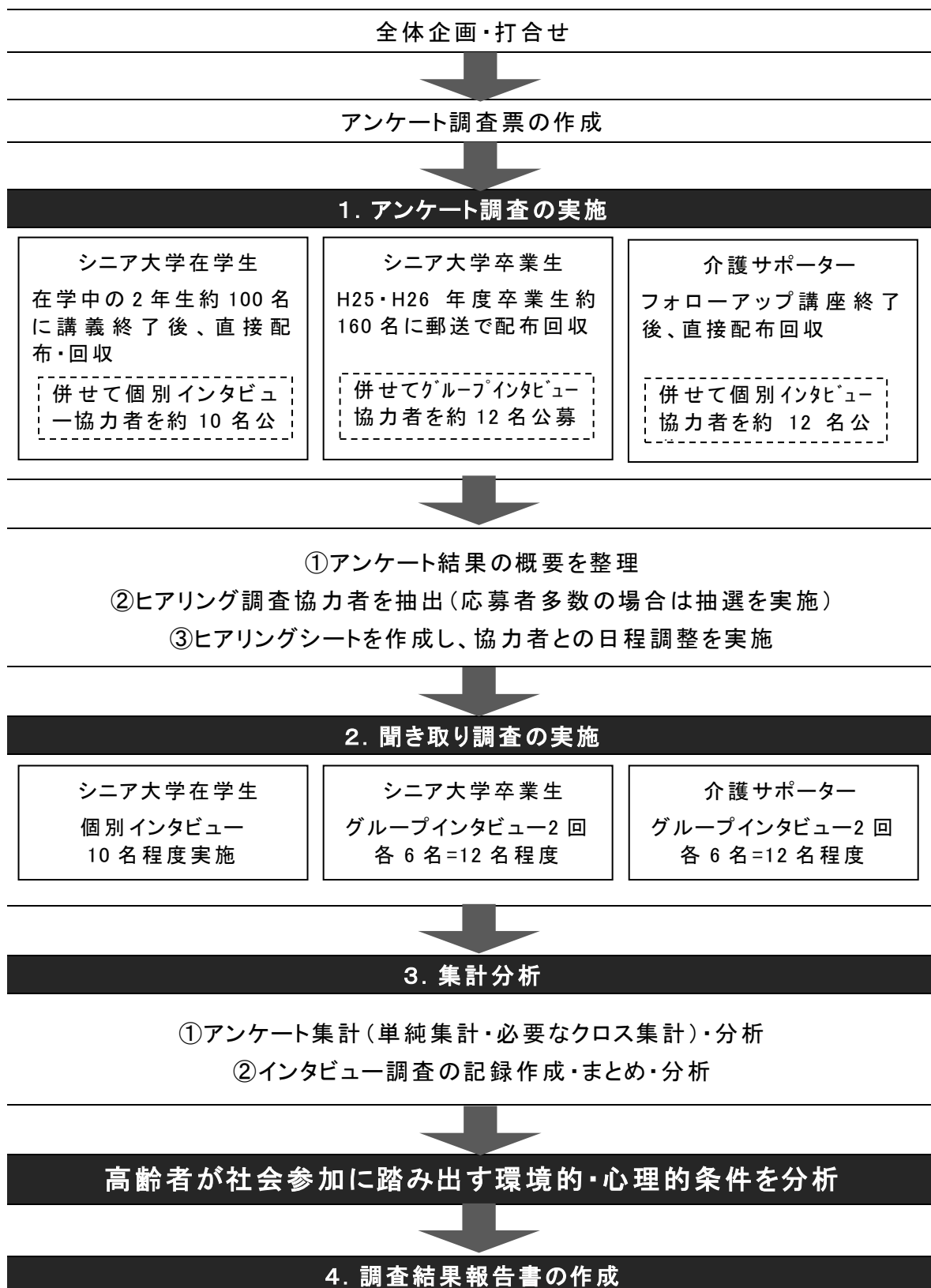
③調査項目

調査項目
1)「シニア大学受講、介護サポーター登録」のきっかけ・理由
2)活動を始めた時期と、そのころのライフイベント
3)活動を始めて良かったこと
4)現在の活動状況
5)現在の活動をしている理由・やりがい
6)活動をはじめるときの課題・問題
7)活動の課題・支障
8)まわりに孤立している方がいるか、孤立対策をどう考えるか

④インタビュー調査のようす（グループインタビュー）



3. 業務実施フロー



第2章 調査・分析結果のまとめ

本章では、まず、アンケート調査に基づき調査対象事業の参加者の傾向を把握した上で、インタビュー調査に基づき交流・社会参加活動に至る過程と現在の状況について分析を行う。併せて、これらの調査から判明した調査対象事業の現状と課題を把握する。

1. アンケート調査実施概要

本節では、アンケート調査の結果を利用して調査対象事業参加者の属性及び交流・社会参加活動の状況を概観する。なお、アンケート調査には本節で取り上げる事項以外にも、調査対象事業そのものについての設問があったが、これについては本章第3節で分析を行う。また、アンケート調査の全ての設問の集計結果については巻末の資料集に掲載する。

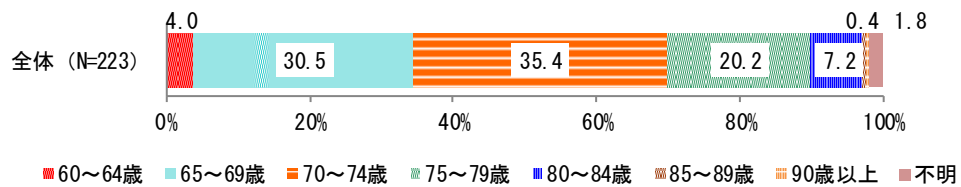
(1) 調査対象事業区分別の回答数

調査対象者	配布数	回収数	回収率
シニア大学在学学生	80 件	62 件	77.5%
シニア大学卒業生 (H25・H26 年度)	175 件	82 件	46.9%
介護サポーター	82 件	74 件	90.2%
計	337 件	218 件	64.7%

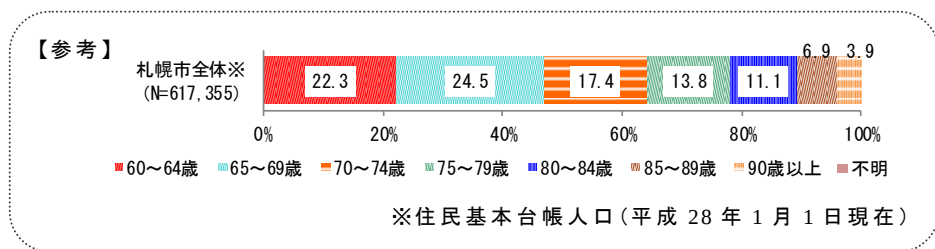
(2) アンケート回答者の特徴（属性・生活状況）

① 年齢構成

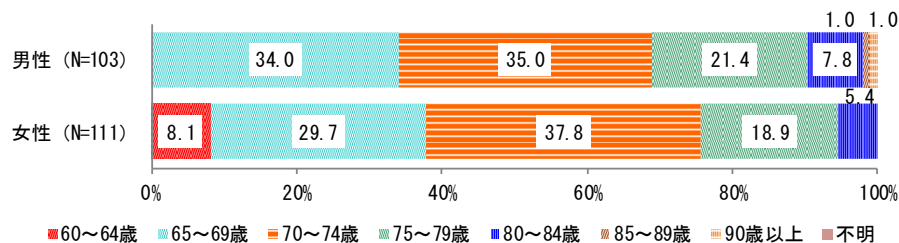
介護サポーターの対象年齢が 65 歳以上となっていることもあり、札幌市全体の 60 歳以上人口の年齢構成より、65～74 歳の割合が高い傾向がある。



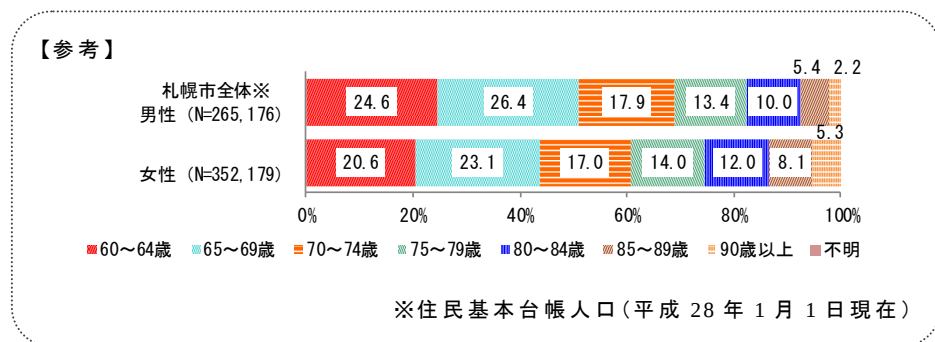
【図 1】年齢構成



性別で年齢構成をみると、調査協力者に 65 歳未満の男性は含まれていない。

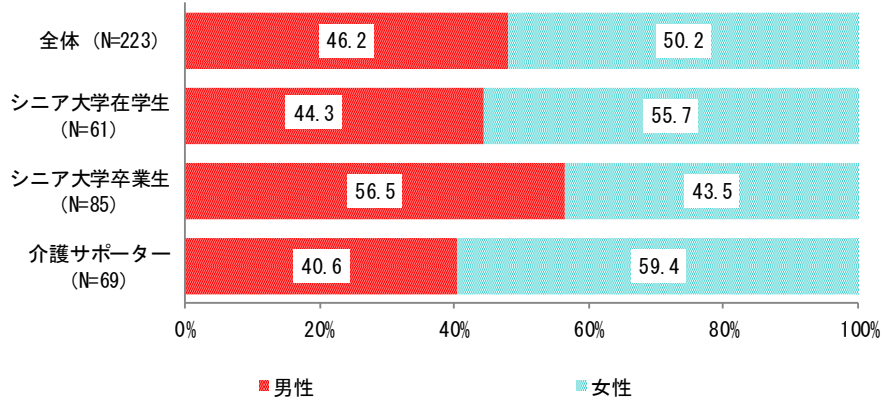


【図 2】性別 × 年齢構成



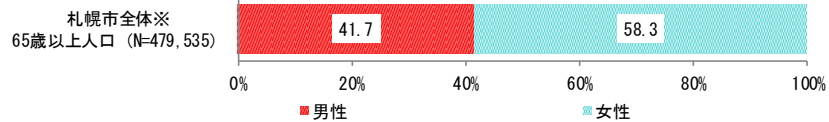
②性別

調査対象者では女性がやや多いが、札幌市全体より男性の割合が若干高い。事業別でみると、シニア大学卒業生は男性が、シニア大学在学学生・介護サポーターでは女性が多い。とくに介護サポーターでは、女性が男性より2割程度多くなっている。



【図3】調査対象事業×性別

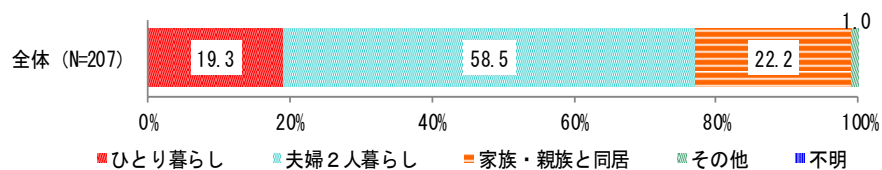
【参考】



※住民基本台帳(平成28年1月1日現在)

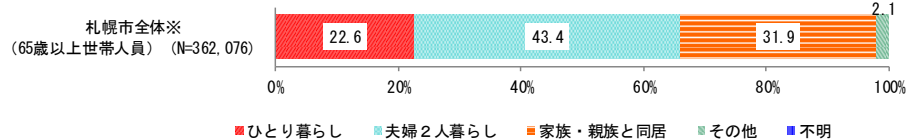
③同居状況

「夫婦2人暮らし」の割合が高く、「ひとり暮らし」「家族・親族と同居」の割合が低くなっている。



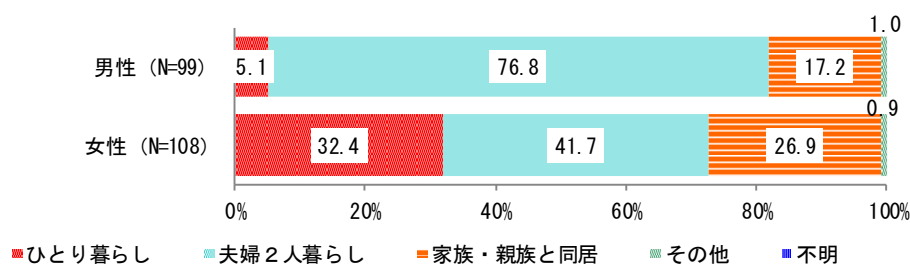
【図4】同居状況

【参考】

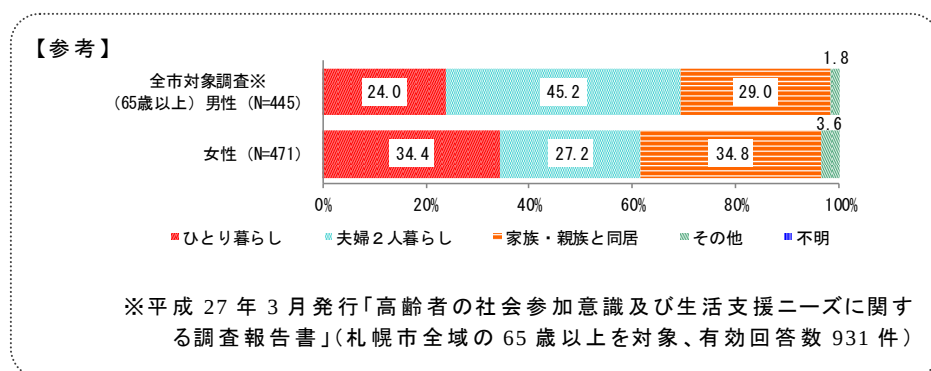


※国勢調査(平成22年10月1日現在)

性別でみると、男性は「ひとり暮らし」の割合が低く、「夫婦 2 人暮らし」の割合が高い。

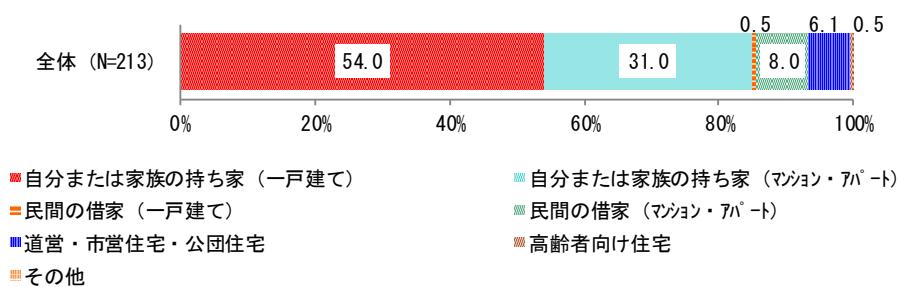


【図 5】性別 × 同居状況

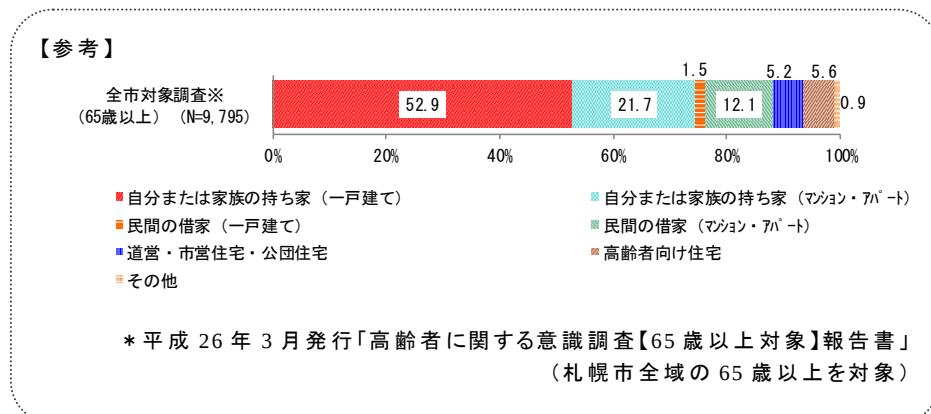


④居住形態

本調査では持ち家率が比較的高く、別調査と比較すると、とくにマンション住まいの割合が高くなっている。

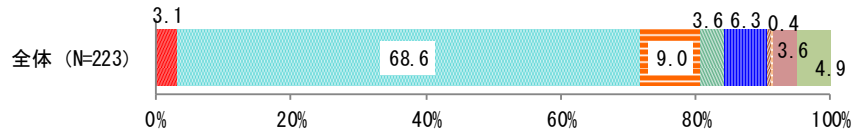


【図 6】居住形態



⑤ 職歴

職歴がある人の割合が約 85%、正社員経験者が 7 割弱を占めている。

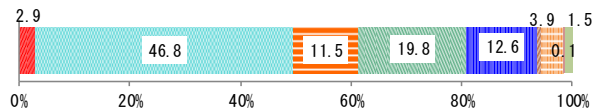


■ 経営者・役員 ■ 正社員 ■ 非正規職員 (パート・アルバイト含む) ■ 自営業・自由業 ■ 主婦・主夫 ■ 内職 ■ 無職 ■ その他 ■ 不明

【図 7】職歴

【参考】

全国対象調査※
(60歳以上) (N=3,893)

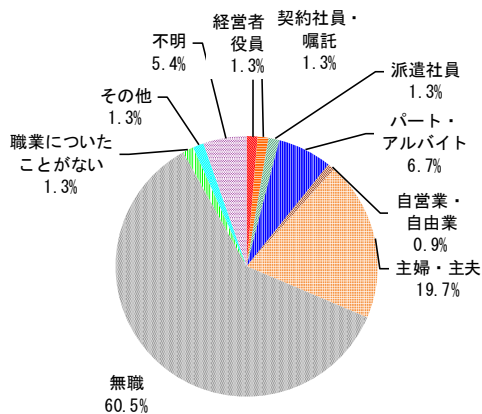


■ 経営者・役員 ■ 正社員 ■ 非正規職員 (パート・アルバイト含む) ■ 自営業・自由業 ■ 主婦・主夫 ■ 内職 ■ 無職 ■ その他 ■ 不明

※平成 27 年 3 月、内閣府発行「高齢者の日常生活に関する意識調査結果報告書」(全国の 60 歳以上対象)

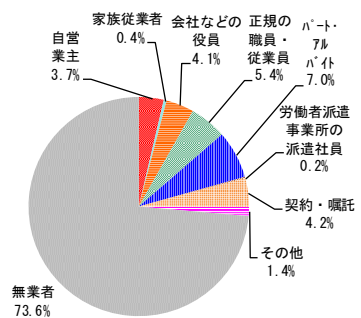
⑥ 現在の就業状況

現在も働いている有職者の割合は約 12%となっている。



【図 8】現在の就業状況

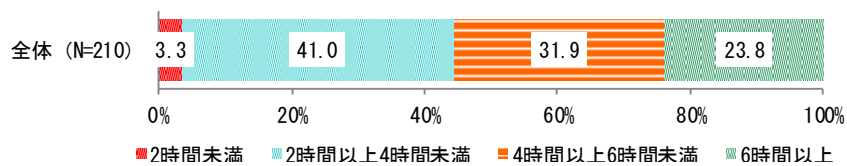
【参考】



※就業構造基本調査(平成 24 年 10 月 1 日現在)(札幌市全体 60 歳以上に編集)

⑦現在の余暇時間

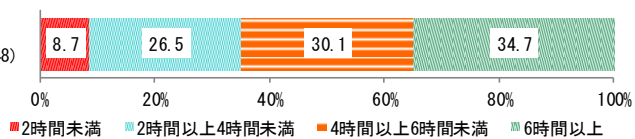
余暇時間が4時間未満と少ない（多忙な）人の割合が高い。



【図 9】現在の余暇時間

【参考】

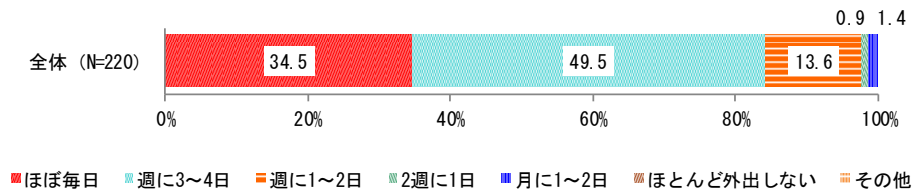
全市対象調査※
(65歳以上) (N=848)



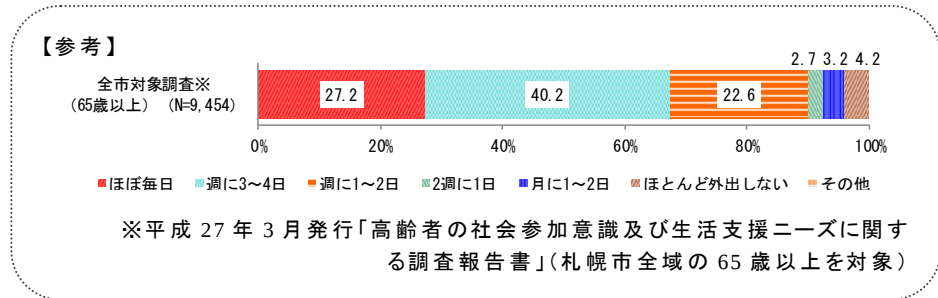
※平成 27 年 3 月発行「高齢者の社会参加意識及び生活支援ニーズに関する調査報告書」(札幌市全域の 65 歳以上を対象)

⑧外出頻度

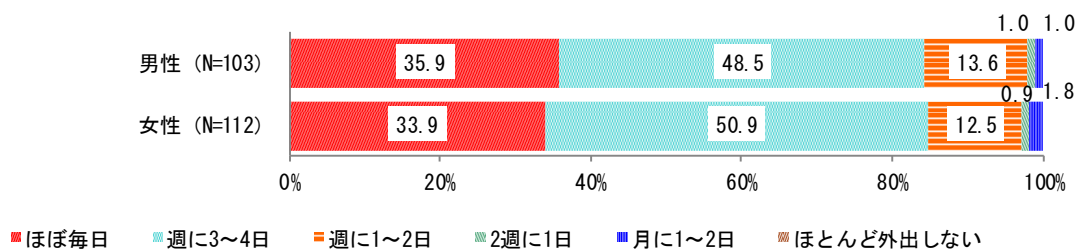
週に4日以上外出している人の割合が高い。



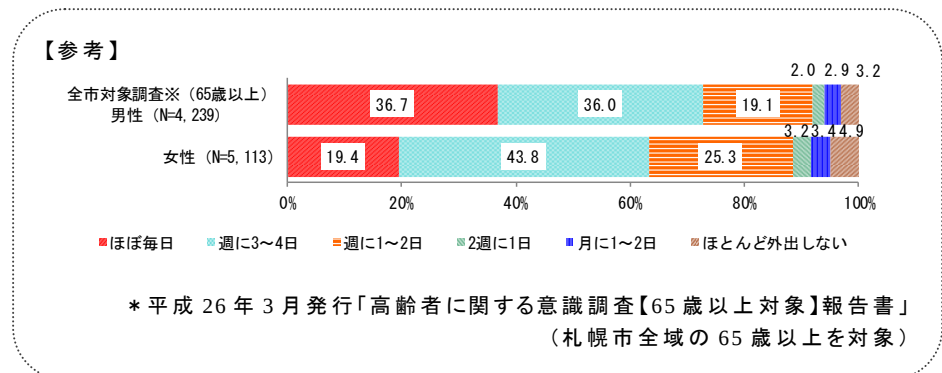
【図10】外出頻度



男性・女性ともに、札幌市全体より外出頻度が高い。



【図11】性別×外出頻度



(3) 交流・社会参加活動の状況

①調査対象事業以外の活動内容

- 1) 全体としては「スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動」の割合が高い
- 2) 「町内会・自治会」の活動に参加している女性の割合は男性に比べて少ない
- 3) シニア大学参加者は「町内会・自治会」に参加している人の割合が高い
- 4) シニア大学卒業生は「町内会・自治会」「老人クラブ」「同好会・サークル活動」
とも参加している人の割合が最も高い
- 5) 介護サポーターは「ボランティア・社会貢献活動」に参加する人の割合が高く、
「町内会・自治会」や「老人クラブ」に参加している人の割合は低い

【表 1】性別・調査対象事業別×活動を始めた時期のライフイベント

	町内会や自治会の活動	老人クラブの活動	ア シ ニ ア バ イ ト 世 代 向 け の 仕 事 ・	そ の 他 の ボ ラ ン テ ィ ア や 地 域 活 動 、 社 会 貢 献 活 動	学 習 ・ 教 養 を 高 め る 講 座 ・ 教 室	ス ポ ー ツ や サ ー ク ル を 楽 し む 同 好 会 ・ サ ー ク ル 活 動	健 康 増 進 ・ 介 護 予 防 の た め の 教 室	そ の 他	特 に し て い な い
全体 (N=207)	40.1	28.5	9.7	37.7	29.5	42.0	21.7	5.3	1.0
男性 (N=97)	44.3	30.9	15.5	36.1	30.9	44.3	19.6	3.1	1.0
女性 (N=106)	34.9	26.4	4.7	39.6	29.2	39.6	23.6	6.6	0.9
シニア大学在学学生 (N=60)	43.3	28.3	8.3	35.0	33.3	40.0	21.7	6.7	0.0
シニア大学卒業生 (N=82)	48.8	41.5	9.8	35.4	29.3	46.3	23.2	3.7	2.4
介護サポーター (N=65)	26.2	12.3	10.8	43.1	26.2	38.5	20.0	6.2	0.0

②活動を始めたきっかけ

- 1) 全体としては「広報さっぽろ」の割合が高い
- 2) 男性は「新聞・テレビ・ラジオ」の割合が女性より高い
- 3) シニア大学参加者は「友人・知人の誘い」の割合が高い
- 4) 介護サポートポイント事業参加者は「友人・知人の誘い」「活動を実際に見て」の割合が低い

【表 2】性別・調査対象事業別 × 活動を始めたきっかけ

	広報 さっぽろ を見て	公共 施設の 掲示板・ 配布物	公共 施設で 紹介を 受けて	新聞や テレビ・ ラジオ・ 雑誌な どの 報道で	地域 情報誌 を見て	友人・ 知人に 誘われ て	家族・ 親族に 勧めら れて	活動 団体か ら誘わ れて	活動 を実際 に見て 、イベ ントに 参加し て	そ の 他
全体 (N=196)	51.0	28.6	8.2	14.8	12.8	28.1	4.1	13.8	12.2	6.6
男性 (N=95)	52.6	31.6	8.4	23.2	13.7	27.4	6.3	12.6	10.5	6.3
女性 (N=96)	49.0	26.0	7.3	6.3	12.5	30.2	2.1	15.6	13.5	7.3
シニア大学在学学生 (N=53)	50.9	32.1	7.5	11.3	5.7	34.0	9.4	11.3	11.3	
シニア大学卒業生 (N=82)	53.7	20.7	8.5	19.5	22.0	30.5	3.7	18.3	18.3	6.1
介護サポーター (N=61)	47.5	36.1	8.2	11.5	6.6	19.7		9.8	4.9	13.1

③活動開始時期の出来事（ライフイベント）

- 1) 全体としては「特に何もなかった」の割合が高い
- 2) 男性は女性よりも「退職」の割合が高く、女性は男性よりも「家族や友人との死別」の割合が高い
- 3) 介護サポートポイント事業参加者は「特に何もなかった」の割合が低い

【表 3】 性別・調査対象事業別 × 活動を始めた時期のライフイベント

	就職した	転職した	職場の環境が変わった	起業・独立した	退職した	配偶者が退職した	結婚した	転居した	子どもが生まれた
全体 (N=184)	0.5	1.1	0.5	0.0	26.1	2.2	0.0	5.4	0.5
男性 (N=87)	1.1	2.3	0.0	0.0	39.1	1.1	0.0	5.7	1.1
女性 (N=93)	0.0	0.0	1.1	0.0	14.0	3.2	0.0	4.3	0.0
シニア大学在学学生 (N=50)	0.0	2.0	0.0	0.0	30.0	6.0	0.0	6.0	2.0
シニア大学卒業生 (N=74)	0.0	0.0	0.0	0.0	21.6	0.0	0.0	2.7	0.0
介護サポーター (N=60)	1.7	1.7	1.7	0.0	28.3	1.7	0.0	8.3	0.0
	子どもが入園・入学した	子育てが落ち着いた	子どもが独立した	親と同居した	親の介護が始まった	自分が病気になった	家族や友人と死別した	特に何もなかった	その他
全体 (N=184)	0.0	6.5	4.3	2.2	8.7	8.2	11.4	35.9	18.5
男性 (N=87)	0.0	3.4	3.4	2.3	9.2	10.3	3.4	31.0	18.4
女性 (N=93)	0.0	9.7	5.4	2.2	7.5	5.4	19.4	39.8	19.4
シニア大学在学学生 (N=50)	0.0	8.0	2.0	4.0	12.0	8.0	4.0	34.0	20.0
シニア大学卒業生 (N=74)	0.0	4.1	1.4	0.0	4.1	8.1	13.5	43.2	23.0
介護サポーター (N=60)	0.0	8.3	10.0	3.3	11.7	8.3	15.0	28.3	11.7

④活動をしている理由

- 1) 全体としては「人との交流が充実」「人の役に立っていると感じられる」の割合が高い
- 2) 女性は男性に比べて「活動自体が楽しい」の割合が高い
- 3) シニア大学参加者は「人との交流が充実」の割合が高い
- 4) 介護サポーターは「人の役に立っていると感じられる」の割合が高く、「人との交流が充実」の割合が低い

【表 4】性別・調査対象事業別×活動をしている理由

	時間的な余裕がある	収入が得られる	活動自体が楽しい	活動を通じて人との交流が充実している	地域や社会、人の役に立っていると感じられる	能力や技術を身につけられる	責任や義務感、人間関係への配慮のため	その他
全体 (N=202)	42.6	4.5	31.7	61.9	54.0	16.8	21.8	9.9
男性 (N=98)	45.9	4.1	23.5	65.3	55.1	12.2	24.5	10.2
女性 (N=99)	40.4	4.0	40.4	59.6	53.5	20.2	19.2	9.1
シニア大学在学学生 (N=57)	47.4	3.5	31.6	70.2	42.1	17.5	21.1	1.8
シニア大学卒業生 (N=83)	41.0	3.6	33.7	71.1	53.0	10.8	19.3	13.3
介護サポーター (N=62)	40.3	6.5	29.0	41.9	66.1	24.2	25.8	12.9

⑤ 感じている課題・問題

- 1) 全体としては「経費がかかる」「人との交流が少ない」「忙しい」の割合が高い
- 2) 男性は「経費がかかる」「責任が大きい」、女性は「忙しい」「人との交流が少ない」「人間関係がわずらわしい」の割合が高い
- 3) シニア大学在学学生は「忙しい」の割合が高く、「人との交流が少ない」の割合が低い m
- 4) シニア大学卒業生は在校生と比べて「人との交流が少ない」の割合が高いが、「人間関係がわずらわしい」の割合は同程度
- 5) 介護サポートポイント事業参加者は「人との交流が少ない」の割合が高く、「人間関係がわずらわしい」の割合は比較的低い

【表 5】 性別・調査対象事業別 × 活動をしている中での課題や問題

	活動内容が多く、忙しい	期待していない より、収入が	思ったより経費がかかる	活動について家族や周囲の理解が得られない	活動を通じた人との交流が 少ない	地域や社会、人の役に立っているように思えない	能力や技術を身につけることができない	責任が大きい	人間関係がわずらわしい	その他
全体 (N=136)	19.9	6.6	24.3	3.7	22.1	13.2	7.4	15.4	18.4	19.1
男性 (N=77)	16.9	3.9	29.9	2.6	20.8	14.3	10.4	18.2	15.6	16.9
女性 (N=55)	23.6	9.1	16.4	3.6	25.5	10.9	3.6	10.9	23.6	23.6
シニア大学在学学生 (N=38)	39.5	5.3	28.9	7.9	7.9	10.5	10.5	21.1	21.1	10.5
シニア大学卒業生 (N=60)	18.3	3.3	23.3	1.7	21.7	11.7	5.0	18.3	20.0	31.7
介護サポーター (N=38)	2.6	13.2	21.1	2.6	36.8	18.4	7.9	5.3	13.2	7.9

(4) 調査対象事業参加者の概要まとめ

①調査対象事業参加者の傾向

- 1) 65～74 歳が中心（65.9%）
- 2) 「夫婦 2 人暮らし」が過半を占め、男性の「ひとり暮らし」の割合が低い
- 3) 持ち家率が高い
- 4) 職歴がある人が 8 割以上、正社員経験者が 7 割弱
- 5) 現在も働いている人が 1 割強
- 6) 余暇時間が少なく、頻繁に外出する多忙な人の割合が高い

②交流・社会参加活動の状況（データのまとめは右頁）

【表 6】 全体・性別・調査対象事業別の交流・社会参加活動の状況

設問	区分	状況
調査対象事業以外の活動内容	全体	「スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動」の割合が高い
	性別	男性の方が「町内会・自治会」の活動に参加している割合が高い
	※	シニア大学参加者は「町内会・自治会」に参加している人の割合が高い
		「町内会・自治会」「老人クラブ」「同好会・サークル活動」に参加している人の割合が最も高いのはシニア大学卒業生
		介護サポートポイント事業参加者は「ボランティア・社会貢献活動」に参加する人の割合が高く、「町内会・自治会」や「老人クラブ」に参加している人の割合は低い
活動を開始したきっかけ	全体	「広報さっぽろ」の割合が高い
	性別	男性の方が「新聞・テレビ・ラジオ」の割合が高い
	※	シニア大学参加者は「友人・知人の誘い」の割合が高い
		介護サポートポイント事業参加者は「友人・知人の誘い」「活動を実際に見て」の割合が低い
開始時期の出来事	全体	「特に何もなかった」の割合が高い
	性別	男性は「退職」の割合が高く、女性は「家族や友人との死別」の割合が高い
	※	介護サポートポイント事業参加者は「何もなかった」の割合が低い
活動をしている理由	全体	「人との交流が充実」「人の役に立っていると感じられる」の割合が高い
	性別	女性は「活動自体が楽しい」の割合が高い
	※	シニア大学参加者は「人との交流が充実」の割合が高い
		介護サポーターは「人の役に立っていると感じられる」の割合が高く、「人との交流が充実」の割合が低い
課題・問題を感じている	全体	「経費がかかる」「人との交流が少ない」「忙しい」の割合が高い
	性別	男性は「経費がかかる」「責任が大きい」、女性は「忙しい」「人との交流が少ない」「人間関係がわずらわしい」の割合が高い
	※	シニア大学在校生は「忙しい」の割合が高く、「人との交流が少ない」の割合が低い
		シニア大学卒業生は在校生と比べて「人との交流が少ない」の割合が高いが、「人間関係がわずらわしい」の割合は同程度
		介護サポートポイント事業参加者は「人との交流が少ない」の割合が高く、「人間関係がわずらわしい」の割合は低い

※調査対象区分別

【表 7】 全体・性別・調査対象事業別の交流・社会参加活動の状況（まとめ）

男女別の特徴				調査対象事業別の特徴								
項目		男性	女性	項目		シニア大学		介護 サポーター				
						在学生	卒業生					
調査対象事業以外の活動内容	全体 ①同好会・サークル活動（42.0%）②町内会・自治会（40.1%）③ボランティア・社会貢献活動（37.7%）											
	町内会・自治会		44.3%	>	34.9%	町内会・自治会		43.3%	<	48.8%	>	26.2%
						生きがい・趣味活動 老人クラブ		28.5%	<	41.5%	>	12.3%
						同好会・サークル等		40.0%	<	46.3%	>	38.5%
						ボランティア・社会貢献活動		35.0%	≒	35.4%	<	43.1%
活動を開始したきっかけ	全体 ①広報さっぽろ（51.0%）②公共施設の掲示板・配布物（28.6%）③友人・知人の誘い（28.1%）											
	新聞・テレビ・ラジオ等		23.2%	>	6.3%	知人・友人の誘い		34.0%	>	30.5%	>	19.7%
						活動を実際に見てイベントに参加して		11.3%	<	18.3%	>	4.9%
活動開始時期の出来事	全体 ①特に何もなかった（35.6%）②退職した（26.1%）③その他（18.9%）											
	退職		39.1%	>	14.0%	特に何も無かった		34.0%	<	43.2%	>	28.3%
	家族や友人と死別		3.4%	<	19.4%							
活動をしている理由	全体 ①人との交流が充実（61.9%）②人の役に立っていると感じられる（54.0%）③時間的な余裕がある（42.6%）											
	活動自体が楽しい		23.5%	<	40.4%	人との交流が充実		70.2%	≒	71.1%	>	41.9%
						人の役に立っていると感じられる		42.1%	<	53.0%	<	66.1%
活動をしている中で感じている課題・問題	全体 ①経費がかかる（24.2%）②人との交流が少ない（22.7%）③忙しい（37.7%）											
	費用・責任に関する項目					活動で忙しい		39.5%	>	18.3%	>	2.6%
	経費がかかる		29.9%	>	16.4%							
	責任が大きい		18.2%	>	10.9%							
	時間・人間関係に関する項目					人との交流が少ない		7.9%	<	21.7%	<	36.8%
	活動で忙しい		16.9%	<	23.6%							
	人との交流が少ない		20.8%	<	25.5%							
	人間関係がわずらわしい		15.6%	<	23.6%	人間関係がわずらわしい		21.1%	≒	20.0%	>	13.2%

2. インタビュー調査実施概要

本節では、インタビュー調査の整理・分析を通じて、調査対象事業参加者が交流・社会参加活動に参加するまでの過程及び現在の活動の状況を、一連の流れ（ライフコース）として把握する。さらに、この一連の流れの過程に着目して、高齢者の社会参加の促進につながる可能性のある要素を考察した。

(1) インタビュー対象者の概要

①調査対象事業区分別の人数

調査対象者	調査方法	参加者数
シニア大学在学学生	個別インタビュー	8 名
シニア大学卒業生	グループインタビュー	16 名
介護サポーター		13 名
合計		37 名

②年齢・性別

項目	男性	女性	合計
60-64 歳	0	3	3
65-69 歳	7	4	11
70-74 歳	5	6	11
75-79 歳	2	5	7
80-84 歳	3	2	5
85-89 歳	0	0	0
合計	17	20	37

(2) 整理・分析の手順

①インタビュー内容の整理

分析に先立ち、インタビューにより聞き取った内容を一人ずつ、以下の項目に分類して整理した。

- 1) 職歴
- 2) ライフイベントと交流・社会参加活動の状況
- 3) 調査対象事業参加のきっかけ
- 4) 調査対象事業で得たもの
- 5) シニア大学・介護サポーターへの提案／社会参加促進に向けたアイデア
- 6) 高齢者の孤立について感じること
- 7) 老人クラブについて感じること
- 8) 町内会について感じること

なお、分類項目については、調査目的から導出したものに、調査協力者から言及の多かった「7) 老人クラブ」「8) 町内会」を加えて設定した。

②共通の要素に沿った整理分類と模式図化

整理したインタビュー内容から社会参加活動の過程に係る共通の要素を抽出した上で整理・分類を行い、模式図化して分析を行った。

(3) 分析の結果と考察

①調査協力者の社会参加の過程

調査協力者から聞取ったインタビュー内容を、調査対象事業への参加の過程に着目して整理したところ、以下の3グループに分類できた。また、分類した3グループの社会参加活動の過程をまとめた模式図を次頁以降に示す。

- 1) 在職中から情報収集を行ったり、退職後間もなく行動を起こしたりするなど、積極的に交流・社会参加活動を探求する中で調査対象事業に参加したグループ

⇒仮に【セカンドライフ探求グループ】と呼ぶ

- 2) 在職中や退職前後の早い時期に町内会やボランティア等の活動を開始し、役職や複数の活動への関与など重責と多忙を経験した後、活動への関わり方に課題や物足りなさを感じて調査対象事業に参加したグループ

⇒仮に【第2ステージ準備グループ】と呼ぶ

- 3) 親族の病気・怪我や死、自身の病気や突然の失職などにより、健康や心の支えなどの喪失などを経験し、失意からの回復と将来設計の見直しの中で調査対象事業に参加したグループ

⇒仮に【喪失体験乗り越えグループ】と呼ぶ

なお、分類は、多くの調査協力者から共通の傾向を把握するための便宜上のもので、必ずしも本人の自己認識に合致するものではない。

また、以下の分析では、グループ毎の傾向について述べるが、調査協力者一人ひとりの経験・行動・感情が、全ての段階においてグループ全体の傾向に当てはまるものではないことを申し添える。

A 「セカンドライフ探求グループ」の「活動」のみちすじ

14 人
(37 人中)

内訳：性別

男性 8 人
女性 6 人

調査区分別

札幌シニア大学 在学生 5 人
同 卒業生 8 人
介護サポートポイント事業 1 人

参加段階

事前準備・意識醸成

探求の開始

対象事業への参加

参加の影響

参加にいたる「行動や経験」

その「影響」

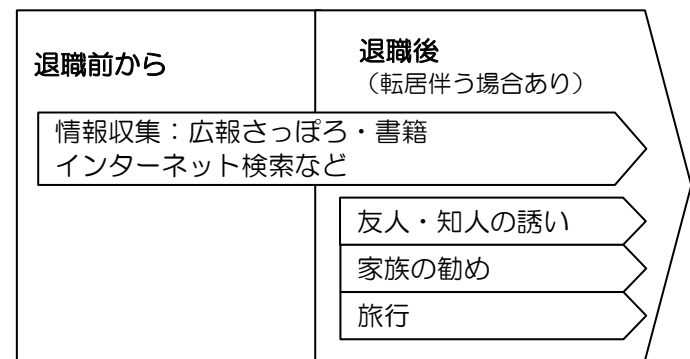
ヒアリングからの事例

その他の視点

発見

退職前からの準備・退職後のきっかけ

- 退職が近づくと、積極的に情報収集を開始
- 退職を機に「家族や友人・知人に社会参加を勧められる」「旅行に出る」…など



将来への期待や不安と共に 「社会参加」への意欲とイメージがわく

- 老後生活への不安・焦燥
- 自由な時間への意欲・期待
- 地域社会への参加欲求

意欲・イメージ

定年後役職者として在職し、最後の1年間はゆとりがあり、退職後の生活を検討した。講座等を受講して心の準備を整え「退職後、趣味がないとまずい」「1年のんびりするとだめになるかも」と自覚。

定年を迎えて、「自分の好きなことをしよう」と決めた。そのころから「歩こう」と思っていた。

退職後は町内会の福祉の手伝いをしたいと思い、地域で相談するうちに老人クラブを紹介された。

転勤族で全国を駆け巡り、定年が近くなった頃から「広報さっぽろ」に注目。シニア大学の募集記事を見つける。「地元と接点をもてる、会社と関係のない人付き合いができるのでは」と思った。

環境の変化

- 定年の延長や役職就任により、仕事を続けながらも時間の余裕が生まれる。
- 配偶者との時間が増える。
- 子・孫との同居の開始やUターン等での転居。

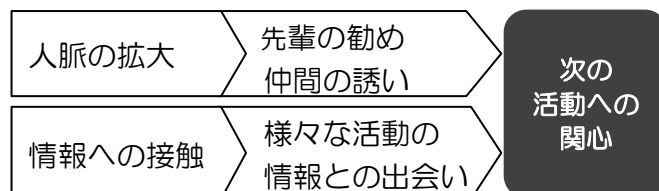
退職後間もない社会参加活動の開始

- あらかじめ調べてあった活動へ申し込む。
- 身近な活動に接触し、参加してみる。

シニア大学への申込み

- 地域での活動
 - ・町内会・自治会・老人クラブ等
- ボランティア活動
 - ・施設ボランティア・健康づくり支援等
 - ・高齢者支援等
- 学習活動
 - ・高齢者大学など
- 健康づくり活動

ネットワークと関心の広がり



NPO に入会して活動。先輩から「若いだから勉強すれば」とシニア大学の入学を勧められる。

ウォーキング団体の運営や施設ボランティア活動で活躍。高齢者大学を受講しシニア大学を知る。

老人クラブでシニア大学の受講経験がある先輩に出会い、入学を勧められる。

シニア大学の受講を申し込む。

住環境・立地の影響

近隣に町内会館がある、居住しているマンション内で交流があるなど、住環境のすぐまわりの活動から始める事例もある。

対象事業への参加

- 基礎的な知識・情報の学習・交換
- 社会参加活動の場の見学・体験
- 仲間との出会い

札幌シニア大学

- ・2年制（1学年約100名）
- ・月2～3日、年間約50講座開講
- ・全体で講座受講＋各区グループで体験・研修
- ・学生自治会が授業・自治会祭等の管理実施

介護サポートポイント事業

介護サポーター研修を受講し、自ら調整して施設ボランティアを行う。介護資格は不要

自分に合った活動を見出し 取組んでいくための基礎力を獲得

- 高齢社会や介護に関する基礎的な知識
- 活動の現場に関する参加経験や情報
- 将来に渡り協力・交流を続けられる仲間
- グループ運営やボランティアのスキル

シニア大に参加。同期生と交流を楽しむ。自治会役員として運営にも携わる。「本当に人は様々で意見も様々」。

シニア大に参加。「お弁当を持って行って、お昼休みに交換したりして楽しい」「シニア大学に入って、色々なことに関心を寄せるようになった」。

シニア大学では女性と男性が協力して自治会運営にあたる。「在学中は女性が強く、男性がかしこく立ち回ってくれていたという雰囲気」。

自治会役員になり自治会祭の進行管理を担当。「予想外にエネルギーを使ったがその活動が楽しかった」。

家族・周囲の反応

家族（主に配偶者）が社会参加活動に理解し、歓迎することもある一方で、妻の頻繁な外出を望まない夫もいる。また、配偶者と共に活動を開始する人もいる。

活発な交流と幅広い活動への参加

- 同窓会やサークル活動などの交流活動が活発
- 地域課題の解決から自己の興味・関心の追求まで様々な活動に参加すると共に、さらなる活動への意欲をもつ人もいる。

交流活動

- ・シニア大学出身者の同窓会・同好会
- ・趣味・サークル的活動

町内会

- ・役員として活動
- ・健康づくり活動や交流活動の運営

健康づくり活動

- ・ウォーキングサークル運営

老人クラブ

- ・リーダーとして活躍
- ・サロン運営
- ・高齢者の訪問活動

仕事

- ・シルバー人材センター登録

学習活動

- ・学習サークル役員
- ・各種施設の講座

ボランティア・地域貢献活動

- ・介護施設で特技を活かした活動
- ・NPOで高齢者支援や環境保全活動
- ・地域のサロン運営

卒業後は、今までのNPO活動に加えて、シニア大学同窓会は続けたい。「入口は広くしておきたい」。

今まで取り組んできたウォーキング団体の参加者の体力が落ちてきている。その方たちと少しだけ歩いて公園でのんびりおしゃべりするようなことをしたい。

町内会福祉部役員・老人クラブリーダーとして活躍。シニア大学同期生が、在宅介護となった配偶者の麻雀の相手をするために訪ねてくれる。「それが本当に今の自分の宝」。

同窓会活動や健康づくり活動に取り組む。「友達の輪が広がっている。今もシニア大学関係者と過ごす時間が多い。」「退職後に行く所ができて良かった」。

●退職前から退職後の生活を計画する方の存在
適切な時期の情報提供等の働きかけにより、円滑な社会参加が進む可能性が考えられる。

●退職後の旅行の活用可能性
退職後の旅行中に、地域社会における人の暮らしぶりや交流に関心が向き、社会参加への意欲が湧く事例があった。

●身近な地域活動が社会参加の入口となる事例
老人クラブや地域の団体が、新たに社会参加する人たちに、参加のための情報や機会を提供することで、退職世代と地域の団体の双方に有益な関係が生まれる可能性が考えられる。

●シニア大学に見る「地域デビュー」支援機能
シニア大学では、仲間とのグループ活動や交流、様々な社会参加活動のことを知る機会などが、受講生の「地域デビュー」を後押ししていると考えられる。

場の特徴

- ①公募により開かれた参加機会
- ②幅広い講座内容
- ③対等な人間関係
- ④グループワークの機会

受講成果

- ①幅広い知識
- ②活動との接点、参加の情報
- ③交流する仲間
- ④組織運営などのスキル

一人ひとりに合った
社会参加活動の発見

B 「第2ステージ準備グループ」の「活動」のみちすじ

9人
(37人中)

内訳:性別

男性 5人
女性 4人

調査区分別

札幌シニア大学 在学 2人
同 卒業生 4人
介護サポートポイント事業 3人

段階

活動への参加・経験の蓄積

転機

調査対象事業への参加

参加の影響

参加にいたる「行動や経験」

その「影響」

ヒアリングからの事例

発見

壮年期・在職中の活動開始・継続

- 退職以外のきっかけで活動を開始し、活動歴や、役職経験を重ねる。
- 役職の兼務や複数の団体への参加により、重責を担い、多忙な生活を送る。

在職中の出来事（状況）

- ・転勤生活の終了
- ・親族の介護・看護の終了

地域での活動

町内会・福まち・民生委員・老人クラブ等
ボランティア、NPO等の活動
社会福祉や施設ボランティア、清掃活動等

活動経験から問題意識が醸成される

活動経験の蓄積

実践的な知識・スキルの取得

活動意義の実感

活動への課題認識

10年間に渡る親族の介護（在宅・施設とも）の終了とともに、誘われて老人クラブ・町内会・福まち活動・社会福祉ボランティアを一気に始める。町内会では6年間見守り活動に取り組む。「これからの町内会の役割はどんどん難しくなっている」。

退職後、親族を介護。親族が亡くなった頃、町内会の班長に。世代交代を経て会長となり、名簿やマニュアルの整備など運営改善を進める。

退職前から町内会福祉部の役員を務め、5年前から民生委員に就任。

40歳代から民生委員と協力しつつ町内会活動に取り組む。

活動状況や気持ちの変化

- 新たな課題や、学びの機会と出会う。
- 自身の体調不良、又は周囲の協力により多忙だった活動が減少する。

- ・友人・知人の誘い
- ・学習活動からの刺激（高齢者大学など）
- ・情報との出会い（パンフレット）

- ・自身の体調不良と回復
- ・仲間の理解・協力による既存活動の負担減少
- ・役職退任・役割の減少・活動の一時休止 等

親族の怪我

対象事業参加のための条件が整う

- 意欲の醸成
直面している課題や、以前からの問題意識を掘り下げるための学習意欲が醸成される。
- 時間の捻出
新たな活動に時間を割くことが可能となる。

友人に誘われ、シニア大に参加を決める。両立が難しいため、町内会活動は休むことにした。

シニア大学のパンフレットの「地域社会のリーダー養成」という言葉に惹かれる。町内会の協力と運営改善の成果により時間を捻出しての受講が叶う。「それまでの経験から、今後町内会はどうしていくのが良いかと思っていた」。

シルバーセミナーを受講し物足りなさを感じる。広報さっぽろを見て「町内会を良くしていくヒントが無いか」と考え、シニア大学に応募。

親族が怪我で車いすを利用した際にどうしたらいいのかわからなかった。当時、別件で通っていたボランティアセンターの職員から介護サポーター講座の受講を勧められた。

調査対象事業へ参加

- 従来の活動を離れた場所から振り返り、客観化・相対化する。
- 多様な参加者との交流・協働による学びを得る。

札幌シニア大学

- ・2年制（1学年約100名）
- ・月2～3日、年間約50講座開講
- ・全体で講座受講＋各区グループで体験・研修
- ・学生自治会が授業・自治会祭等の管理実施

介護サポートポイント事業

介護サポーター研修を受講し、自ら調整して施設ボランティアを行う。介護資格は不要

活動を広げるヒントと実践力を獲得

- 集団での議論の進め方
- 様々な人とのコミュニケーションの取り方
- 他の地域などの取組みの情報

活動への新たな意欲が湧く

- 今まで取り組んでいた活動の強化改善
- 新たな活動への興味

シニア大で、活動の事例、話し合いの方法、行事の行程の組み方、コミュニケーションの取り方などを学び、「これまで関わってきた活動について、組織体制を客観的にみられるようになった」。

シニア大学で交流を楽しむと共に、他の地区の情報を聞き、仲間を得て決意を新たにす。「町内会をなんとかしたい。シニア大で新しい仲間ができたのが一番支えになっている」。

自治会祭でオレオレ詐欺の寸劇を行う。経験が卒業後の活動に活きると共に、卒業後も続く仲間ができる。

介護サポーターとしての活動は1回のみ。介護サポーター講座で得た知識を日頃の活動に活用。

活動の第2ステージの展開

- 学習経験を活かし以前からの活動の課題解決・高度化に取り組む。
- 今までの活動経験と学習成果を新しい活動に活かす。
- 活動のペースを見直す人もいる。

ボランティア活動

- ・福祉施設・高齢者施設での活動
- ・認知症支援
- ・生活支援
- ・スポーツ指導員 等

町内会・民生委員

- ・地域課題に取り組む
- ・地域団体・人材・高齢者施設等との連携強化
- ・子育て支援
- ・地域内のボランティア育成

老人クラブ

- ・役員として活躍
- ・シニア大学で得た知識を活かす

交流活動

シニア大学出身者の同窓会・同好会

健康づくり活動

ウォーキングの指導

少し休んで、シニア大の同窓会に参加したい。シニア大学でできた縁や知識を老人クラブに活かしていきたい。

「卒業後は町内会活動に力を入れる」。高齢者の見守り、地域内の高齢者施設との連携、子どもの見守り、加入率の向上などに注力していく。

町内会役員及び民生委員として、高齢者問題と子育て支援に取り組む。子育てサロンでは、寸劇の経験を活かし、手品で子どもを惹きつけながらお話をしている。「学校に上がる前に、子どもたちに大切な事を教えたい」。

町内会役員として社会福祉協議会とも連携しながら地域へ情報発信を行うと共に、高齢者への戸別訪問や、生活支援活動に取り組む。「地域の皆さんの『御用伺い』をしながら生きていきたい」。

●ステップアップを目指す中核的人材の存在

町内会などで活動の中核を担う経験をもつ人が、問題意識をもって調査対象事業に参加している。このことから、ある程度経験を積んだ人材に向けたステップアップの支援が、優れた地域活動のリーダー育成につながる可能性が考えられる。

●シニア大学ステップアップ効果

シニア大学では、講座の内容そのものの以外にも、普段と違う人たちとの交流、幅広い情報交換やグループ活動などが受講生のステップアップに功を奏している。

参加段階

参加にいたる「行動や経験」

その「影響」

ヒアリングからの事例

発見

意識の醸成

喪失の体験

転機

対象事業への参加

参加の影響

互助的な活動の経験

地域の活動や親族の介護など助け合いを要する経験をしている人が多い。

職業

・医療や介護・福祉関連施設
・公務員
地域活動・ボランティア等
・町内会・自治会、老人クラブ
・民生委員
・社会福祉ボランティア
・その他のボランティア
親族の介護

互助意識の形成

互助活動の意義を体験から理解している。

仕事と並行してスポーツを楽しむ。

退職後に町内会の手伝いをしつつ、民生委員としても活動。

介護ヘルパーの資格をもち、福祉施設での勤務経験がある。

老後も仕事を続けるために介護資格を取得し、高齢者施設で 1 年間仕事。

心の支えや健康の喪失

- 生活の張り合いや心の支えを失う出来事があり、ひきこもりがちになる。
- 健康状態の悪化から、療養生活を余儀なくされる。
- これらに伴い、転居が必要になり、知人・友人と疎遠になることもある。

生活の変化

・介護の終了
・親族の病気・死去
・自身の病気
・リストラ・倒産
・変化による転居

社会との接点減少

・虚脱状態
・ひきこもりがち
・社会参加活動の抑制
・療養生活

失意からの回復

- ・失意の中で、虚脱状態が続くことに危機意識を募らせる。
- ・喪失体験と対峙し、今後の生き方や社会参加の方向性を決断する人もいる。

定年退職を迎える頃に命に関わる病気が分かり、「何かしなくては」と考える。「スポーツを続けたい、地域活動にも参加したい」と思う。

介護をしていた両親が前後して亡くなり虚脱状態に。民生委員の活動で出会う出来事に、気持ちが落ち込むようになる。

62 歳で倒れて 3 ヶ月入院。障がい者手帳を持つようになる。「お先真暗」と思った。

配偶者が病気になり、介護後死去。40 年住んでいた関東から札幌へ戻る。転居後、一人になりがち。

きっかけを得る

- 時間の経過、体調の回復と並行して、行動への意欲が少しずつ湧き始める。
- 同じころ、友人や広報さっぽろなどにより情報がもたらされる。
- 自分と似た体験を乗り越えた人に刺激を受けることもある。

・友人の誘い
・リハビリ関係者の助言
・情報との出会い（広報さっぽろ等）

・体調の回復
・リハビリの開始

自分と似た体験を乗り越えた人との出会い

社会参加活動の再開へ踏み出す

調査対象事業への参加を決心する。

広報さっぽろでシニア大学の募集記事を見る。「今しかできない」「高校しか出ていないので大学にも通いたい」。

「このままではいけない」と考えていたときに、広報さっぽろのシニア大学の記事に出会い、民生委員を辞めて入学。

社協の職員にリハビリを兼ねたボランティアを勧められ、様々な活動に取り組む中で、より重い障がいを抱える人に出会う。「自分も頑張らなければ」。

久しぶりの北海道を知るために旅行に出るが疲れを覚える。違う方法で地域を知ろうと考えた折に広報さっぽろで介護サポーターを知り「これだ」と思った。

●意欲回復期の情報との出会い

意欲の回復時期に情報と出会うことが、行動のきっかけとなる。情報との接点が増える中、広報さっぽろや周りの働きかけの重みが増している。

対象事業へ参加

- 人との交流、社会との接点の増加
- 仲間からの刺激
- 新たな心の支えや生きがいの探索。

札幌シニア大学 2 年制(1 学年約 100 名)
・月 2～3 日、年間約 50 講座開講
・全体で講座受講＋各区グループで体験・研修
・学生自治会で授業・自治会祭等運営管理を実施

介護サポートポイント事業

介護サポーター研修を受講し、自ら調整して施設ボランティアを行う。介護資格は不要

社会参加への復帰と目標の発見

- ・外出習慣が付き、社会参加や人との交流の重要性を実感。
- ・仲間から刺激を受け、目標や取り組みたい活動と出会う中で、生きがいを見出す。

仲間との交流や自治会祭を楽しみながら、自分より高齢の仲間の生き生きとした姿に触発される。「まさに青春だった」「シニア大学に入っていなかったら、病気で死ぬことばかり考えていたかもしれない」。

シニア大学の研修で老人クラブの見学に行き、活動に興味を持つと共に役員の女性に憧れる。「生き生きしておられて、『学んだことを教えてね』と言われたのも素敵だなと思った」。

リハビリとして障がい者支援、観光振興などに加えて、介護サポーターに登録。「病気になったことで、健常であった時には分からなかったことが分かるようになった」「残りの人生を活かしたい」。

介護サポーター講座の会場で、近所の病院のチラシを見かけて見学に行き、デイサービスのボランティアとして活動することになった。

●過去の支え合いの経験が、将来の地域貢献活動へつなげる可能性

本グループの 14 名中 10 名が、過去に介護・看護・地域活動などを通じて「誰かを支え」た経験がある。加えて自身が何らかの喪失を経験する中で「支えられる」経験をもつことも推測され、これらの経験がその後の地域貢献や福祉的な活動につながっている可能性が考えられる。

社会参加と地域貢献の両立を目指す

将来の夢や希望をもって、活動に取り組み、活動の幅が広がる。

ボランティア活動

- ・高齢者・障がい者施設での活動
- ・認知症支援活動
- ・介護予防・健康づくり活動
- ・その他（子どもの見守り、障がい者支援、がん患者支援等）

町内会・老人クラブ

- ・企画を立案し団体を活性化
- ・孤立防止・交流促進活動

個人での活動

- ・近隣の支援が必要な人への声かけや日常の交流・気遣い
- ・孫の保育園のイベント手伝い

仕事 シルバー人材センター

さらなる活動への意欲

- ・シニア大学の仲間とボランティアチームづくり
- ・ボランティアに生きる資格の取得

スポーツを続けながら、病気に関する語り部の活動に取り組む。「いろいろとやりたいことがあるので、町内会は少し待ってほしい」。

老人クラブに入り、多くの会員が参加できる取組を企画する。また、老人クラブでグループをつくり、外に出てこない高齢者を個別に訪問している。この結果、会員数が増加した。

入院中に興味をもつようになった音楽の話題で、ボランティア先の若いスタッフとの交流を楽しむ。

こだわりのいろいろな施設でお手伝いをしたい。間口を広げていって、将来的には仕事につながると嬉しい。

②グループ別の調査対象者の概要

グループ分類後の調査対象者の参加事業・性別・年齢は以下のとおりである。

項目	1 セカンドライフ 探求グループ	2 第2ステージ 準備グループ	3 喪失体験乗り越え グループ
調査対象事業			
シニア大学在学学生	5	2	1
シニア大学卒業生	8	4	4
介護サポーター	1	3	9
性別			
男性	8	5	4
女性	6	4	10
年齢			
60～64 歳		1	2
65～69 歳	5	2	4
70～74 歳	3	4	4
75～79 歳	5	1	1
80～84 歳	1	1	3
85～89 歳			
90 歳以上			
合計 37 名	14	9	14
特徴	「シニア大学」関係者が大半を占める。	調査対象事業による差異は見られない。	「介護サポーター」が大半を占める。

③交流・社会参加事業への参加から現在までの流れ

各グループの交流・社会参加事業への参加から現在までの流れの大きな傾向は、以下のとおりまとめることができる。

1) セカンドライフ探求グループ

- a)退職前後に積極的に情報収集を行うほか、周囲からも刺激を受け、早い時期に社会参加の意欲が醸成される。
- b)退職後間もなく行動を開始。事前に調査対象事業を把握して申し込む人がある一方、地域の身近な活動に参加する中でネットワークが広がり、調査対象事業のことを知る人も多い。
- c)調査対象事業を通じて得た仲間や情報を生かして、その後の活動を充実させている。

2) 第2ステージ準備グループ

- a)退職と関係なく、在職中、あるいは退職後の早い時期から地域活動やボランティア活動に参加し、重責を担う中で活動への問題意識をもつ。
- b)掘り下げたいテーマや学びの機会に出会うと共に、場合よく活動の負担が軽減され、調査対象事業へ参加できる条件が整う。
- c)調査対象事業を通じて、普段の活動を離れた場所で、幅広い情報に触れ、新しい仲間と交流する経験を経て、今までの活動を向上させる取り組みや、未経験の活動に挑戦していく。

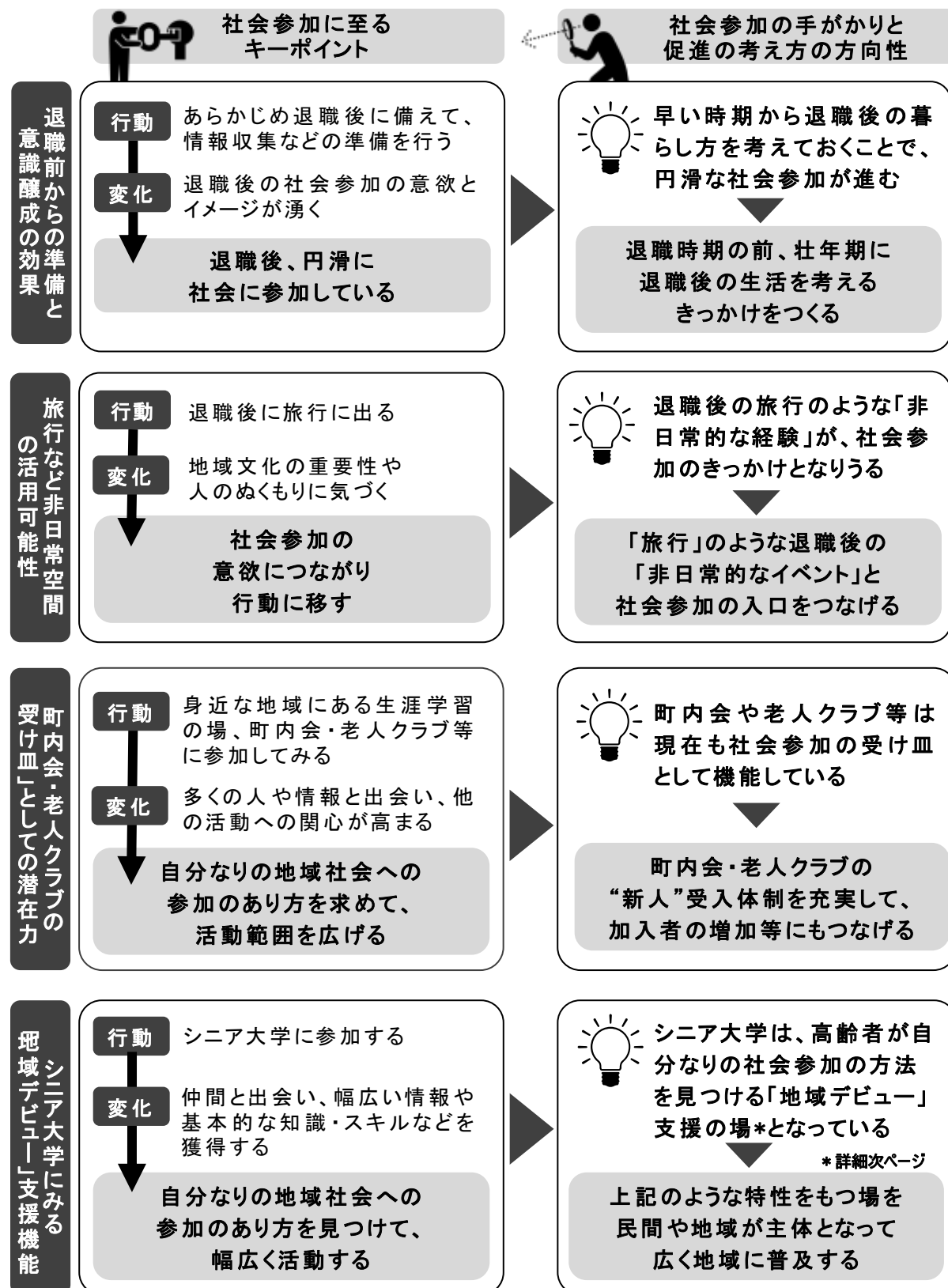
3) 喪失体験乗り越えグループ

- a)仕事や地域活動、ボランティア活動などに取り組んでいた生活が、親族の死や介護の終了などにより一転。生活の張り合いや心の支えを失い引きこもりがちになる。
- b)情報との出会いや友人の誘いをきっかけに調査対象事業へ参加する。
- c)調査対象事業への参加をきっかけに目標や楽しさを見出し、自らの交流と地域貢献が両立する社会参加の方法を追求し始める。

④考察～各グループに見る社会参加促進の手がかり

ここでは考察として、各グループに見られる一連の社会参加の過程から、参加に繋がる手がかりを見出し、参加促進に向けた考え方の方向性を提示する。

1) セカンドライフ探求グループからの考察



場の
特長

a)開放された参加機会

転勤族など地域社会に縁の薄かった人も、同じ条件で参加できる

b)普遍的なテーマ

ライフワークとして追求するテーマや専門的な知識を持っていなくても気後れすることなく参加でき、幅広い知識・情報を得て、自分にあった活動の方向性を探ることができる。

c)対等な人間関係

上下関係の無い対等な人間関係を基本とするため、交流を楽しむことができ、友人関係に発展しやすい。

d)協働の機会

自治会祭など、グループで共通の課題に取り組む機会が設けられており、コミュニケーションや組織運営の能力向上につながると共に、卒業後も続く仲間関係を醸成しやすい。

⇒①多様な参加者が②幅広く学ぶと共に③対等に④協働の経験を積むことができる場

場の
特長が
持つ
可能性

■個人への影響

個人に適した活動を見出し取組んでいくための基礎力の獲得

- ①広い知識
- ②既存の活動との接点・参加の情報
- ③交流する仲間
- ④組織運営などのスキル

■集団への影響

交流のみならず、目的に向かって組織的に活動できる小集団の創出

- ①組織活動のノウハウ
- ②共通の基礎知識・課題認識
- ③多様な技術・知識を持つ人材
- ④仲間意識・信頼関係

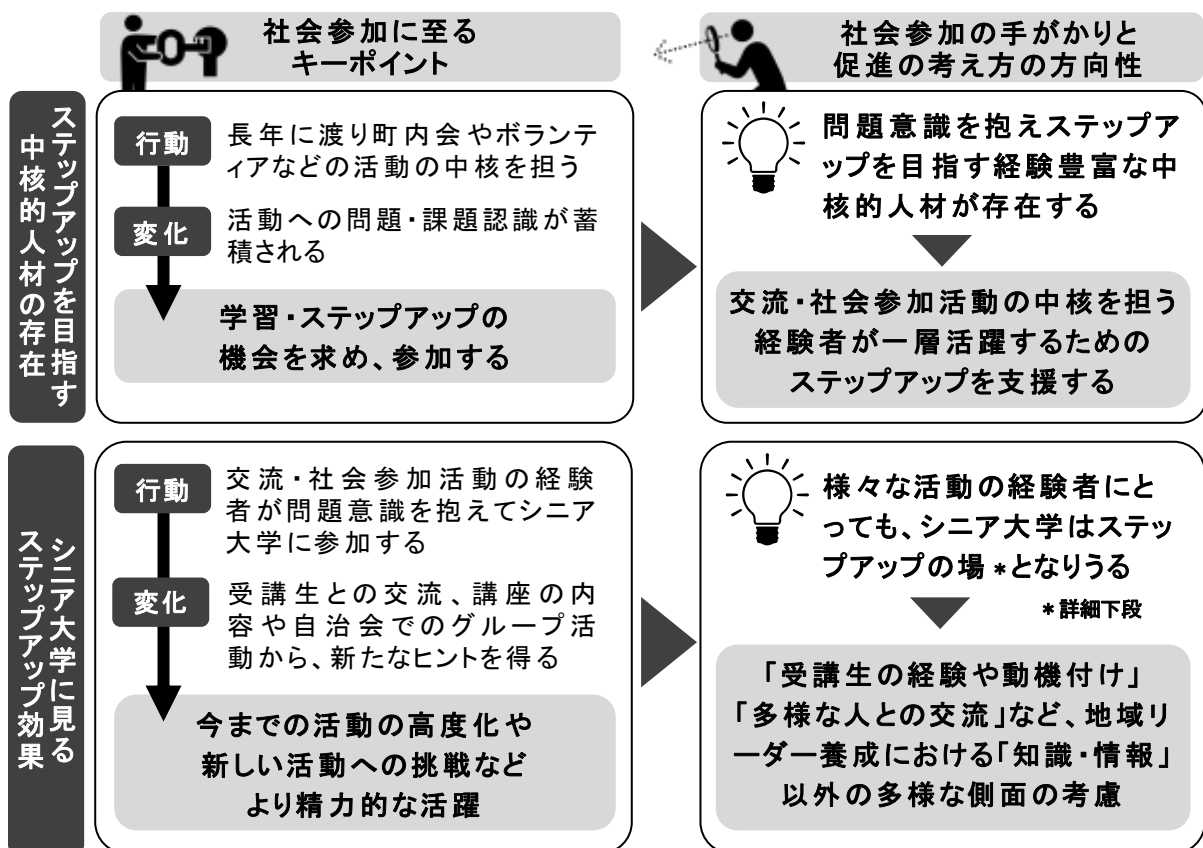
■地域デビューへ

- 個人として交流・社会参加活動に参加
- グループとして交流・社会参加活動を実施

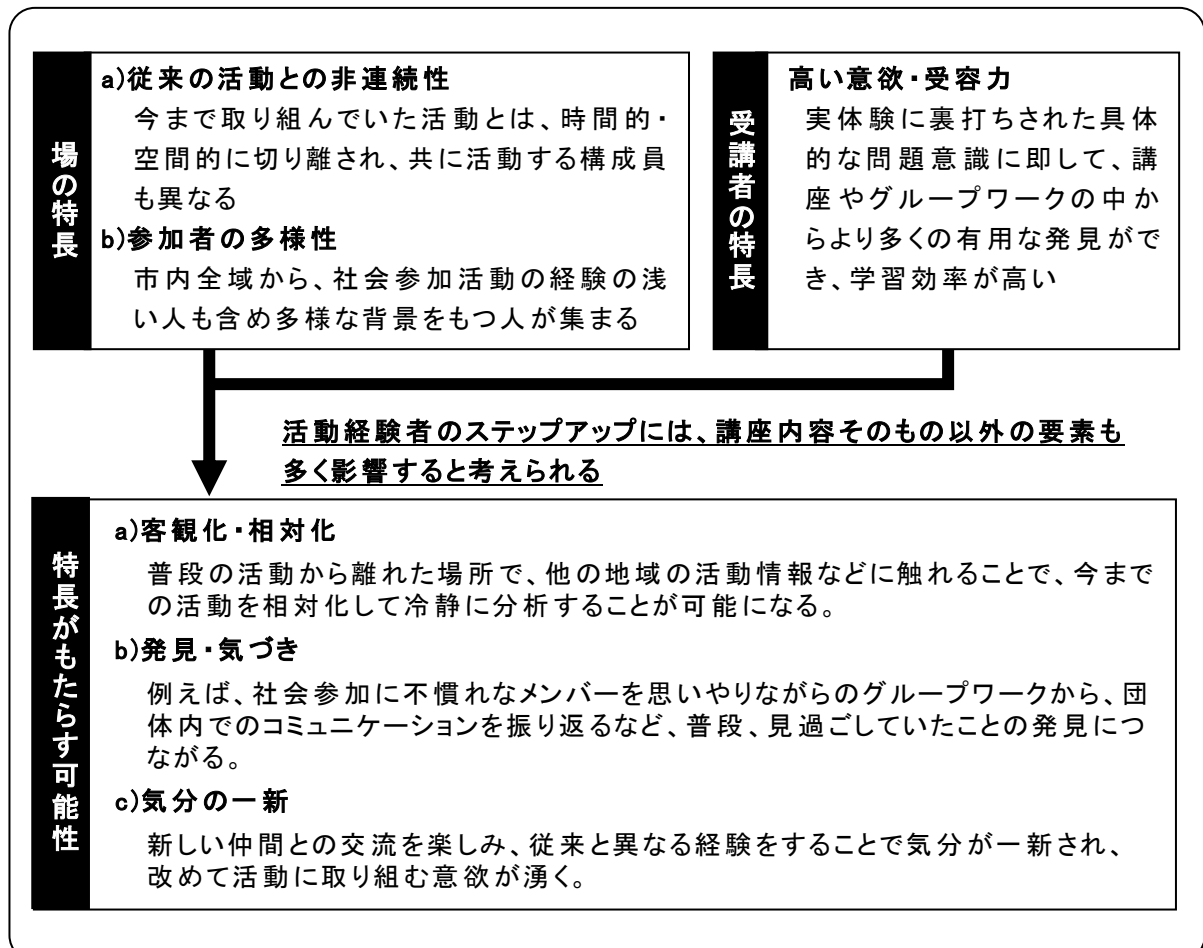
■場の可能性を活かすにあたっての留意事項

- シニア大学は本来「地域デビュー」を支援することを目的とした事業ではなく、また多くの高齢者の「地域デビュー」の場を行政が提供することは、財政面からも適当とは考えがたい。
- もし、民間や地域社会の団体が、上記のような特性を持った場を提供することができたならば、より多くの退職者が円滑に交流・社会参加活動に移行できる可能性につながると考えられる。

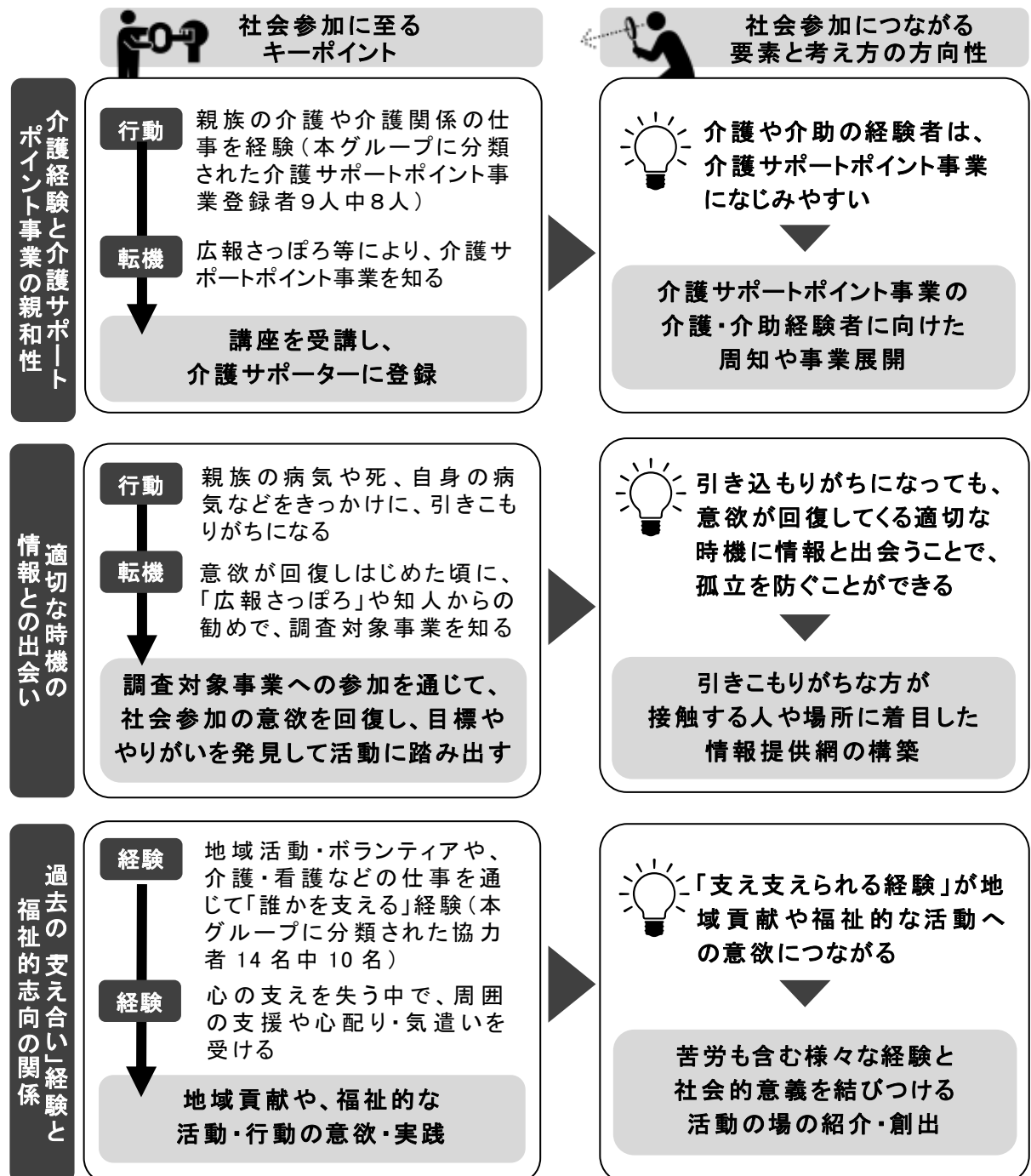
2) 第2ステージ準備グループからの考察



*シニア大学の「ステップアップ機能」の考察



3) 喪失体験乗り越えグループからの考察



(4) 第2節のまとめ

本節では、インタビュー調査で聞き取りした内容を元に、高齢者が交流・社会参加活動に取り組む一連の流れ（ライフコース）を把握し、その過程において、高齢者の社会参加の手がかりを抽出し、促進に向けた考え方の方向性を提示した。

発見	調査対象事業への参加コースは大きくは3種類 ①セカンドライフ探求グループ → 退職後すぐ行動 ②第2ステージ準備グループ → しばらく活動した後参加 ③喪失体験乗り越えグループ → 失意の経験乗り越えて参加
考察（社会参加の手がかりと、促進に向けた考え方の方向性）	セカンドライフ探求グループ
	●退職前からの準備と意識醸成の効果 退職時期の前、壮年期に退職後の生活を考えるきっかけをつくる
	●旅行など非日常空間の活用可能性 「旅行」のような退職後の「非日常的なイベント」と社会参加の入口をつなげる
	●町内会・老人クラブの「受け皿」としての潜在力 町内会・老人クラブの“新人”受入体制を充実しつつ、活動の活性化を図る
	●シニア大学に見る「地域デビュー」支援機能 シニア大学のような「地域デビュー」支援機能を民間や地域主体で普及する
	第2ステージ準備グループ
	●ステップアップを目指す中核的人材の存在 活動の中核を担う経験者が一層活躍するためのステップアップを支援する
	●シニア大学に見るステップアップ効果 地域リーダー養成において、講座の内容以外の多様な側面も考慮する
	喪失体験乗り越えグループ
	●介護経験と介護サポートポイント事業の親和性 介護・介助経験者に向けた周知や事業展開も考える
	●適切な時機の情報との出会い 引きこもりがちの方が接触する人や場所に着目した情報提供網の構築
	●過去の「支え合い」経験と福祉的志向の関係 苦労も含む様々な経験と社会的意義を結びつける活動の場の紹介・創出

3. 調査対象事業の現状と課題

本節では、調査対象事業である「札幌シニア大学」と「介護サポートポイント制度事業」について、調査から明らかになった現状と課題を整理し、併せて、調査結果を利用して課題の背景について考察する。

(1) 札幌シニア大学

①調査結果の概要

1) 価値

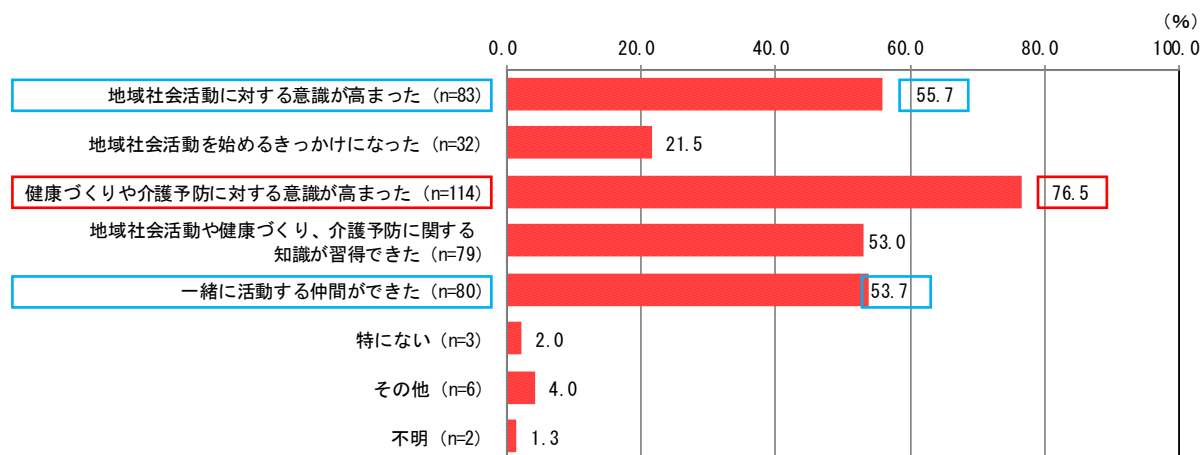
a) 「活動をしている理由」(MA : N=202、単位%)

【表 8】調査対象事業×活動をしている理由

	時間的な余裕がある	収入が得られる	活動自体が楽しい	活動を通じて人との交流が充実している	地域や社会、人の役に立っていると感じられる	能力や技術を身につけられる	責任や義務感、人間関係への配慮のため	その他
全体 (N=202)	42.6	4.5	31.7	61.9	54.0	16.8	21.8	9.9
シニア大学在学学生 (N=57)	47.4	3.5	31.6	70.2	42.1	17.5	21.1	1.8
シニア大学卒業生 (N=83)	41.0	3.6	33.7	71.1	53.0	10.8	19.3	13.3
介護サポーター (N=62)	40.3	6.5	29.0	41.9	66.1	24.2	25.8	12.9

シニア大学受講者が「活動をしている理由」は「活動を通じて人との交流が充実している」が最も多い。

b) 「シニア大学で得られたこと」(MA : N=86)



【図 12】シニア大学で得られたこと

シニア大学で得られたこととして、「健康づくりや介護予防に対する意識」、「地域社会活動に対する意識」、「一緒に活動する仲間」が評価されており、これに「地域社会活動や健康づくり、介護予防に関する知識」が続いている。

c) 「シニア大学で学んで役に立った講座」(アンケート) (FA : N=178)

【表 9】シニア大学で学んで役に立った講座(自由回答)

項目	件数	主な回答
健康づくり・介護予防 介護や認知症について	55 (30.9%)	●健康づくり・健康管理・食生活等について(27 件、15.2%) ●ウォーキング・フィットネス・パークゴルフ等の運動(17 件、9.6%) ●介護・認知症の問題や施設等について(11 件、6.2%)
高齢者の日常生活 に役立つこと	48 (27.0%)	●生き方・生きがいづくり・ライフデザインについて(20 件、11.2%) ●エンディングノート記入法等、終活や断捨離について(8 件、4.5%) ●法律・相続・社会保険等(8 件、4.5%) ●高齢者の消費者問題やまちの安全安心について(5 件、2.8%) ●各区地域資源情報(2 件、1.1%)
自治会活動・自主研究・施 設見学	27 (15.2%)	●施設見学[介護施設・病院等、原子力・水力発電](13 件、7.1%) ●自主研究(5 件、2.8%) ●自治会活動(5 件、2.8%) ●老人クラブ訪問(4 件、2.2%)
地域活動・ボランティア について	25 (14.0%)	●地域活動やまちづくりについて(10 件、5.6%) ●ボランティア活動について(10 件、5.6%) ●日ごろの見守り活動・孤立防止等について(5 件、2.8%)
学び・講演	9 (5.1%)	●アイヌ民族の歴史(2 件、1.1%) ●コミュニケーション・リーダーシップ論(2 件、1.1%) ●相田みつをについて(2 件、1.1%) ●講演[チーム三浦]に学ぶ(1 件) ●星について(1 件)
友人・仲間との交流	6 (3%)	●2 年間で共に学ぶ仲間ができた ●同窓会にも継続して、人とのつながりが広がっている・・・など
その他	14 (7.9%)	●広く浅く知識を得ることができた ●特定の講座ではなく、講座全般を通じて役だっている ●特に役だっているものはない・・・など

健康管理・食生活やウォーキング・フィットネスの運動などの「健康づくりや介護予防、介護や認知症について」、次いで高齢者の生き方、終活・断捨離、相続問題などに関する「高齢者の日常生活に役立つこと」など、実際的でノウハウを学ぶことができる講座が評価されている。

d)「シニア大学で得たこと」(インタビュー)

1) 友人・仲間との交流、刺激

- 普段の生活では出会えない人と出会うことができた。
- 卒業後も同窓会などを通じて交流が続き、友人・仲間・日ごろの活動の支えができた。
- 同窓会の中で、ウォーキング同好会などをつくって、サークル活動も楽しめるようになった。
- 他地区の地域資源情報や趣味の情報を交換しあうことで、日々の楽しみが増えた。
- 同級生と「青春」を味わうことができた。
- 年を取ると利害関係のない友だちをつくる場は少なくなるが、シニア大学はその場だった。

2) 目標、活動のきっかけ

- 自分の活動テーマを見出した。新たな目標を見つけることができた。
- 皆さんに触発され、色々なことに興味をもって、楽しい生活ができています。
- 「何かをしたい」という気持ちが生まれた。自分にはまだまだできることがあると思った
- 地域でサロンを開くきっかけができた。
- 自分の住む地域の町内会や老人クラブの活動をもっと良くしていきたいと思った。
- シニア大学の同級生の存在と学んだ経験が自分たちの地域やその他の活動をしていくときの、支えになっている。
- シニア大学の「老人クラブ見学研修」を通じて、活動の充実した老人クラブを知ることができ、卒業後に入会。運営にも携わり充実した生活ができています。

3) 社会参加活動に関する情報

- 各区の活動事例を知ることができ、活動の参考になった。
- 自分の地域での活動を客観的に見られるようになった。

4) 能力・スキルの向上

- 区単位のグループ研修で行われるワークショップや自治会活動の運営の経験により、対応力やコミュニケーション能力が向上した。
- 「自治会祭」で行われる区単位のグループごとの発表で、人を引きつける方法や、企画のつくり方を学ぶことができた。

5) 幅広い知識・教養

- ノーベル賞受賞者や国際山岳医による講座が面白かった。

6) 外出習慣

- シニア世代のひきこもり・孤立防止に役立つ。
- 定期的に外出する機会・習慣がついた。
- 毎回楽しみで行くのがいやだと思えなかった。

2) 要望

a) 「シニア大学に取り入れられたら良いと思う講座」(アンケート) (FA : N=87)

【表 10】シニア大学に取り入れられたら良いと思う講座(自由回答)

項目	件数	主な回答
健康づくり・介護予防 介護や認知症について	12 (13.8%)	●運動の講座やクラブ活動の実施(5件、5.7%) ●介護・認知症等について(4件、4.6%) ●健康管理・食生活等について(3件、3.4%)
高齢者の日常生活 に役立つこと	12 (13.8%)	●生き方・生きがいづくり・ライフデザインについて(8件、9.2%) ●高齢者の消費者問題やまちの安全安心について(4件、4.6%)
シニア大学の自治会活動 自主研究・施設見学	8 (9.2%)	●参加・体験型の講座(5件、5.7%) ●討議・対話・グループワーク(3件、3.4%)
地域活動・ボランティア について	20 (23.0%)	●町内会・自治会・老人クラブの活動事例や活性化について(11件、12.6%) ●日ごろの見守り活動・孤立防止等について(3件、3.4%) ●活動で生かせる技術[企画づくり・プレゼン等](2件、2.3%) ●活動参加に向けた支援(2件、2.3%) ●病院や高齢者施設等での実習・ボランティア体験(2件、2.3%)
学び・講演	25 (28.7%)	●音楽・歴史・文学について(6件、6.9%) ●自然・気象・環境・宇宙について(5件、5.7%) ●大学らしい専門的な講座(4件、4.6%) ●国際・経済について(4件、4.6%) ●心理学・コミュニケーションについて(4件、4.6%) ●著名人の講演(2件、2.3%)
友人・仲間との交流	2 (2.3%)	●受講者同士の親睦をはかる機会を増やしてほしい(2件、2.3%)
その他	8 (9.2%)	●今のままで良い(5件、5.7%) ●講師の質の向上(2件、2.3%) ●1年目と2年目で同じ講座がある(1件、1.1%)

- 「地域活動・ボランティアについて」「学び・講義」に関する要望が多い。
- 「地域活動・ボランティアについて」は、町内会・自治会活動など地域活動の改善に向けたノウハウ取得や、各地の実践者との意見交換、活動で生かすことができる技術(企画づくり・プレゼンテーション等)の実習など、より実践的な内容や、地域での研修などが求められている。
- 「自治会活動・自主研究・施設見学」でも「参加・体験型の講座」「討議・グループワーク・対話」など、受講者が主体的に参加できる授業が求められている。
- 一方で、シニア大学に「地域活動・ボランティア」よりも「学び・講義」を求める受講者は、文学や環境・国際問題・心理学等「大学らしい専門的な講座」が求められている。

b) シニア大学全般に関する自由意見（アンケート）（FA：N=76）

【表 11】シニア大学全般に関する自由意見

項目	件数	主な回答
講義への評価	7 (9.2%)	●現在の活動に役立っている(5 件) ●今の内容のままで良い(2 件)
講義の内容・構成の改善	29 (38.2%)	●講座の充実に要望 ・1 年目 2 年目の講義重複の解消(5 件) ・内容が期待外れ(5 件) ・講師のレベルアップを希望(3 件) ●講座の内容への要望 ・体験・参加型講義の拡充(5 件) ・「老人向け」の講義が多すぎる(4 件) ・高齢者の生き方・生きがいづくりに関する講義の拡充(2 件) ●講座の構成への要望 ・講義数が多い、時間・期間が長い(3 件) ・その他[高齢者施設見学が多すぎる、卒業論文は不要](2 件)
自治会活動・交流の促進	16 (21.1%)	●自治会役員以外の受講者が全区の受講者との交流できる機会を増やしてほしい(6 件) ●仲間・友人ができ、活動の支えになった(4 件) ●自治会活動の役割を増やし役員体験者を増やすほうが良い(3 件) ●クラブ活動の設置・イベントの増大(3 件)
自治会活動・交流に関する配慮	6 (7.9%)	●自治会活動や交流が負担(4 件) ●自治会活動に否定的な人への配慮が必要(2 件)
地域活動のリーダー育成	7 (9.2%)	●リーダー育成のために、60～70 代の若手の受講を増やす(5 件) ●シニア大学と地域とのつなぎ・周知が必要(2 件)
卒業後のフォロー	5 (6.6%)	●大学院の設置(3 件) ●同窓会への支援(1 件) ●卒業生の講座聴講企画の拡充(1 件)
受講生の募集	3 (3.9%)	●健康状態の確認 ●応募人数が多いので、抽選での合否決定は不公平 ●受講者数が多すぎる
その他	3 (3.9%)	●年齢が高くなると 60 代の人とのギャップが大きい ●冬の講座が終了したらアンケートを実施しては ●シニア大学に主催者の市職員も顔を出すべき

- 「講義の内容・構成の改善を希望」に関する意見が最多で、質的な充実に求める意見や内容についての要望が見られた。
- 次点は「自治会活動・交流の促進」を求める意見で、自治会活動・交流への期待の高さが窺われる。受講生は居住区単位での行動が多く、自治会役員以外は、他区の受講生との交流機会が限られるため、サロンの企画などが求められている。
- 一方で、「自治会活動・交流に関する配慮」の面では、自治会活動を肯定する立場から「配慮が必要」とする意見と、「自治会・交流活動が負担だった」とする意見がある。
- シニア大学のテーマである「地域活動のリーダー育成」について、物足りなさが指摘されている。「60～70 代の若手」の受講生を増やし、在学中に「ご近所・地域とのつなぎ」があると、活性化につながりやすいとする意見も多かった。

c) シニア大学全般に関する自由意見（インタビュー）

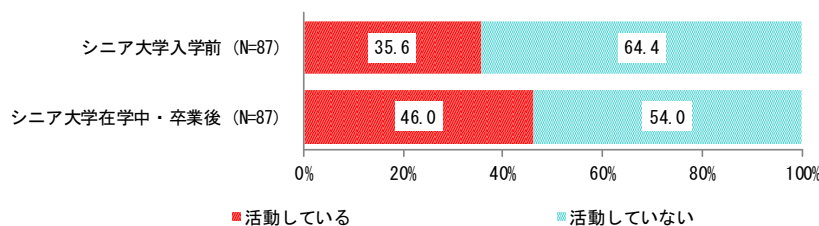
1) 講座の内容
●「大学」らしい高度で専門的な内容への要望 ・学びを求めているので、課目の内容が物足りない。 ・「老人」に関する内容が多すぎて、健康体操や終活など大学でやらなくても自分でできる内容が多い。頭を活性化し、知的好奇心を満たす講座内容を望む。 ●高齢者の生き方・生きがいづくりに関する講義への要望 ・高齢者は「残された時間の中でどこまで何をできるか」が不安。その気持ちに応える課目を設置してほしい。
2) 自治会活動・交流
●交流支援の要望 ・自治会役員以外は、区単位の活動が中心。他区の人と知り合う機会が少なくなる。 ・もう少し交流をしやすくなる仕掛けがあるほうが良い。 ●交流の課題 ・シニア大学自治会や区代表は男性が多い。 ・参加者には、学歴や職業等の違いで自然と何となく壁ができる。 ・自分で苦勞して人間関係を築かないと良い関係にはなれない。 ●自治会の運営事務の課題 ・シニア大学自治会は口伝えや見聞きで運営している。マニュアルがないので大変。
3) (事業目的である) 地域活動のリーダー育成
●事業内容と事業目的(地域リーダーの育成)の不適合 ・「地域活動のリーダー育成」のためなら、50～60代の受講者を増やすべき。 ・テーマ「地域活動のリーダーを育成」する講座が少ないと思う。 ●「地域リーダーの育成」に適した講座内容の要望 【1】関連知識・情報の講座 ・老人クラブのより良い運営方法についての講義を増やしてほしい。 ・市や区の助成制度を知る講座。地域活動を始めたり、継続する機会が増える。 【2】活動の場への接点創出 ・地域活動・社会貢献活動の実際のお話を聞く機会を設けてほしい。 ・在学中に、老人クラブや町内会へのゆるやかなつながりの機会をもつ。担い手になる可能性が増す。役員に会う機会があると話が進みやすくなる。
4) 修学期間
●シニア大学1年目は自治会活動があることを知って、無我夢中で過ごした。2年目で少し交流できたが卒業を控えて多忙になる。卒業後にやっと交流が深まる。 ●自治会活動があるので、2年制だとつらい。3年制だと落ち着いて活動できるし、もっとその後の活動につながると思う。 ●シニア大学卒業後の受け皿が足りない。シニア大学院を設立してほしい。
5) 受講生の期待との差・受講の意義
●受け身で講座を受講するよりも、受講生や講師と出会い、自分で何をやるかが重要。 ●講座受講など「勉強」を中心に考える方はシニア大学を継続しにくいと思う。

3) 目的の達成（活動への参加状況）

a) 各種活動への参加状況（アンケート）（SA：N=82、不明5件除く）

1)

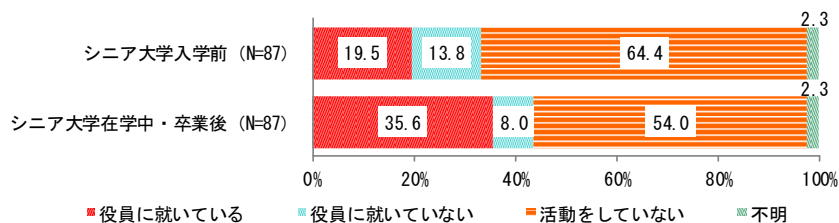
町内会・自治会
活動への参加状況



【図 13】町内会・自治会活動への参加状況

2)

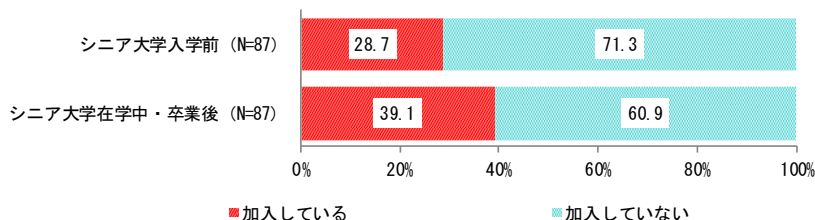
町内会・自治会
の役員就任状況



【図 14】町内会・自治会活動への参加状況

3)

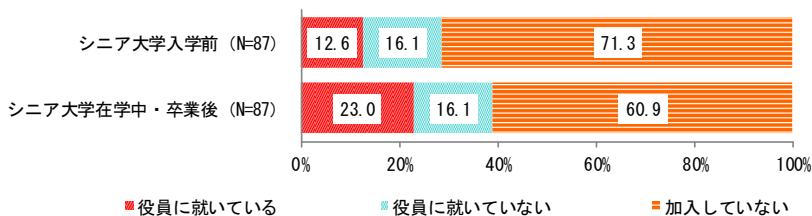
老人クラブの
加入状況



【図 15】老人クラブの加入状況

4)

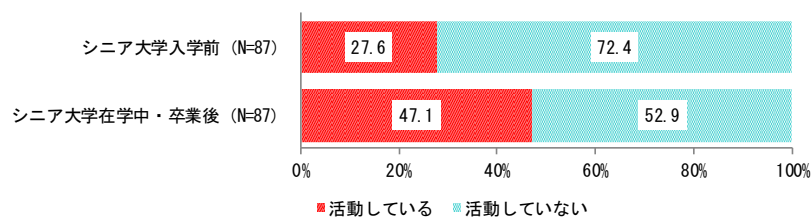
老人クラブの
役員就任状況



【図 16】老人クラブの役員就任状況

5)

その他のボランティアや
地域活動など
社会貢献活動



【図 17】その他のボランティアや地域活動など社会貢献活動

●シニア大学「入学前」と「在学中・卒業後」の「活動」増加率

町内会・自治会「活動への参加」	+10.4%
町内会・自治会「役員の就任」	+16.1%
老人クラブ「加入率」	+10.4%
老人クラブ「役員の就任率」	+10.4%
その他のボランティアや地域活動など社会貢献活動	+19.5%
※シニア大学在学中・卒業後からの活動は入学前に比し <u>1～2 割増加</u> している	

b) 各種活動への参加状況（インタビュー）

【表 12】シニア大学以外に参加している活動内容の分類（インタビュー）

	地域活動 社会福祉活動	シニア大学 介護サポーター関連	健康づくり・スポーツ	学び・趣味・サークル
シニア大学・在学	<町内会・自治会等> ・町内会活動 <社会福祉> ・赤十字奉仕団 ・福まち ・更生保護女性会 <NPO> ・NPO 運営スタッフ	・シニア大学在学中 ・認知症サポーター講座受講 ・高齢者「見守りサポーター」資格保有	<学び> ・健康づくりサポーター研修 <スポーツ・サークル> ・水泳 ・ゴルフ ・ウォーキング、同好会 運営・講師 ・歩こう会	<学習> ・高齢者講座受講 ・高齢者大学 ・女性大学 ・天体講座の受講、小 学校で講話を実施 <趣味> ・旅行 ・歴史研究 ・クラシック音楽 ・つまみ絵 <サークル> ・カラオケ ・健康麻雀教室 ・英会話
シニア大学・卒業生	<町内会・自治会等> ・町内会活動 ・民生委員 ・老人クラブ ・サロン活動 <社会福祉> ・社会福祉協議会ボランティア <NPO> ・NPO 運営スタッフ <その他> ・孫育て	<シニア大学同窓会・ 同期会・同好会> ・同窓会・同好会 ・区ごとの同窓会 <介護関連> ・シルバー人材センタ ーに登録・活動中 ・介護の資格を取得 ・傾聴ボランティア開始	<スポーツ・サークル> ・テニス・マラソン ・水泳 ・パークゴルフクラブ ・スポーツダンス ・「健康づくり検討会」 ・町内会シルバーサロ ンで健康体操の指導 ・水中ウォーキング ・ノルディックウォーキ ング指導員	<学習> ・花に関する講座 ・放送局主催の文化大学 ・女性大学 ・パソコン教室 ・英会話 <サークル> ・高齢者大学同窓会 ・山の会 ・絵画 ・社交ダンス・民謡舞 踊・シャンソン

c) シニア大学卒業後の活動意向（在校生インタビュー）

- シニア大学同窓会へ加入
- 町内会役員として地域課題、組織課題の解決に取り組む
- 老人クラブに加入を検討中
- 老人クラブでシニア大学の経験を活かしたい
- NPO で高齢者の居場所づくり
- 認知症ボランティア活動
- ウォーキング講座の運営充実
- 学習活動（道民力レッジ、大学の社会人聴講生、放送局等主催の高齢者向け講座）

②現状と課題

ここでは、これまでに提示した調査結果等を俯瞰して、現状と課題を整理する。

整理の観点には、本事業の主要な内容である「講座」、アンケートの結果《42 頁 3.(1)①1)b)》からシニア大学の主要な価値であると考えられる「健康・介護予防」「地域社会活動」「仲間・交流」を用い、最後にこれ以外の観点について検討を行った。

1) 講座について

アンケートの結果から、シニア大学の講座は健康・介護予防や地域社会活動の意識醸成や知識普及に一定の成果をあげていると考えられる《42 頁 3.(1)①1)b)》。

しかし「役に立った講座」は比較的拡散しており《43 頁 3.(1)①1)c)》、また、講座に満足している声と共に、講座の充実を求める意見もある《45～47 頁 3.(1)①2)a)～c)》。

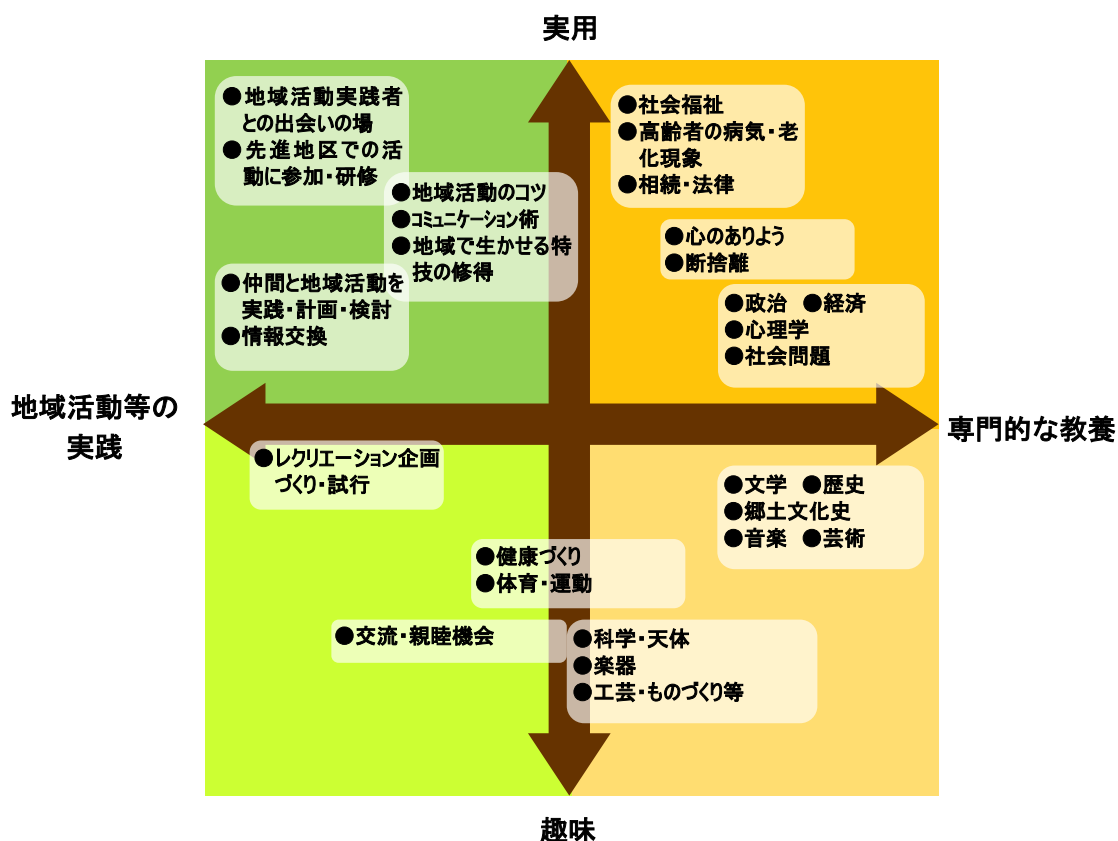
さらに、充実を求める講座の内容については、①「地域活動・ボランティア等に役立つ実践的な内容」、②「『大学』の名称に相応しい専門性や幅広い知性・教養を身につけることができる内容」が多いものの、健康・介護予防や高齢者の生活に役立つスキル・情報などの③「高齢者向けの実用的な内容」への要望もみられ、なおかつ、③については、充実を求める意見と削減を求める意見の双方が存在している。

また、方法論への要望として、グループワークや体験実習など、参加・体験型の講座の増加を求める声も見られた《45～47 頁 3.(1)①2)a)～c)》。

これらのことから、講座に関しては様々な要望が拡散しており、多くの受講生が共通して満足する講座内容を設定することが難しい状況にあることが考えられる。

そこで、「講座に関する多様な要望」については本事業の課題と捉え、後段でその背景について考察する《53 頁 3.(1)③》。

■講座内容に関する要望の方向性



【図 18】講座内容に関する要望の方向性マトリクス

2) 高齢期の健康づくり・介護予防について

「シニア大学で得られたこと」として健康づくり・介護予防の意識の向上を挙げる人が最も多く《42 頁 3.(1)①1b)》、「役に立った講座」についての質問でも、健康づくり・介護予防・認知症などに係る講座が比較的評価されている《43 頁 3.(1)①1c)》。

このことから「健康づくり・介護予防」については受講者から概ね好意的に評価されていると考えられる。

3) 地域社会活動

地域社会活動については、アンケートでは意識醸成、知識取得の両面とも高い評価を得ており《42 頁 3.(1)①1b)》、また、卒業後に地域活動に参加する人、町内会及び老人クラブの役員になる人が 10 ポイント程度増加している《48 頁 3.(1)①3a)》。

さらに、シニア大学卒業生の町内会・自治会、生きがい・趣味活動への参加率は、本調査の対象群中最高であり《14 頁 1.(3)①》、参加促進に一定の効果が上がっていると考えられる。

一方で調査からは、講座内容の充実や、活動の現場の体験、実際の活動の参加に向けた支援などを求める意見と共に、本事業が目的として謳っている「地域リーダーの養成」に物足りなさを感じる声も聞かれた《45～47 頁 3.(1)①2a)～c)》。

そこで、「地域社会活動への参加促進と地域活動リーダーの養成に係る不足感」については本事業の課題と捉え、後段でその背景について考察する《53 頁 3.(1)③》。

4) 交流・仲間づくり

交流・仲間づくりに関しては、アンケート結果にも好評であることが現れているが《42 頁 3.(1)①1b)》、さらにインタビューからは、受講生が協力して出し物を行う自治会祭や、昼休みの歓談などが、本事業の魅力となっていることが明らかになった《44 頁 3.(1)①1d)》。

社会参加の過程の中でも、シニア大学での交流が、学習経験や卒業後の社会参加に影響を与えている様子が窺われる。中には卒業後も続く仲間関係を貴重な財産と捉える卒業生も見られた《27-31 頁模式図、44 頁 3.(3)③1d)》。

また、シニア大学の在学学生・卒業生の多くが、社会参加活動を行う理由として「人との交流が充実している」を挙げていた《17 頁 1.(3)④》。

これらのことから、交流・仲間づくりは、多くの受講生によって歓迎され、2年間に渡る受講期間の意欲を支えると共に、卒業後も社会参加活動を続けるモチベーションにも影響を与えていると考えられる。

5) その他

インタビューの結果からは、受講生は意欲や関心に応じて、様々な観点から本事業を肯定的に評価していることが窺われた《44 頁 3.(1)①1d)》。それらのうち、主要なものについて、以下に提示する。

a) 目標・きっかけ

様々な経験や出会いをつうじて、生活を豊かにしてくれるきっかけに出会うことができる。

b) スキル習得

コミュニケーション能力や、組織運営の実務能力など、今後に役立つスキルを習得することができる。

c) 学習・知識習得

幅広い知識や教養を得ることができる。

d) 外出機会の創出、外出習慣の定着

自宅外に出かける機会が増え、外出習慣が身に付く。

③考察～課題の背景

ここでは、これまでの検討で本事業の課題と認識した「講座に関する多様な要望」「地域社会活動の促進と地域活動リーダーの養成に係る不足感」について、その背景を考察する。

1) 現在の受講生の多様性

a) 受講生の経歴の多様性

前述のとおり、受講生がシニア大学へ至る過程は3グループに分類できることから《25 頁 2.(3)①》、受講生の入学までの社会参加活動の経験や、受講の動機、講座への期待も一様ではないことが推測できる。

■グループごとのシニア大学受講の背景のまとめ

グループ	入学時期の傾向	入学前の社会参加活動の経験	社会参加活動経験に占めるシニア大の位置
セカンドライフ探求グループ	退職後比較的早い時期	なし又は短期間	退職後、最初の継続的・組織的な社会参加の場
第2ステージ準備グループ	社会参加活動の経験を十分積んだ後	長期間	今までの社会参加活動を振り返る場
喪失体験乗り越えグループ	失意の経験から引きこもりがちになった後	経験者が多い	失意から立ち直り、再び社会に参加し始める場

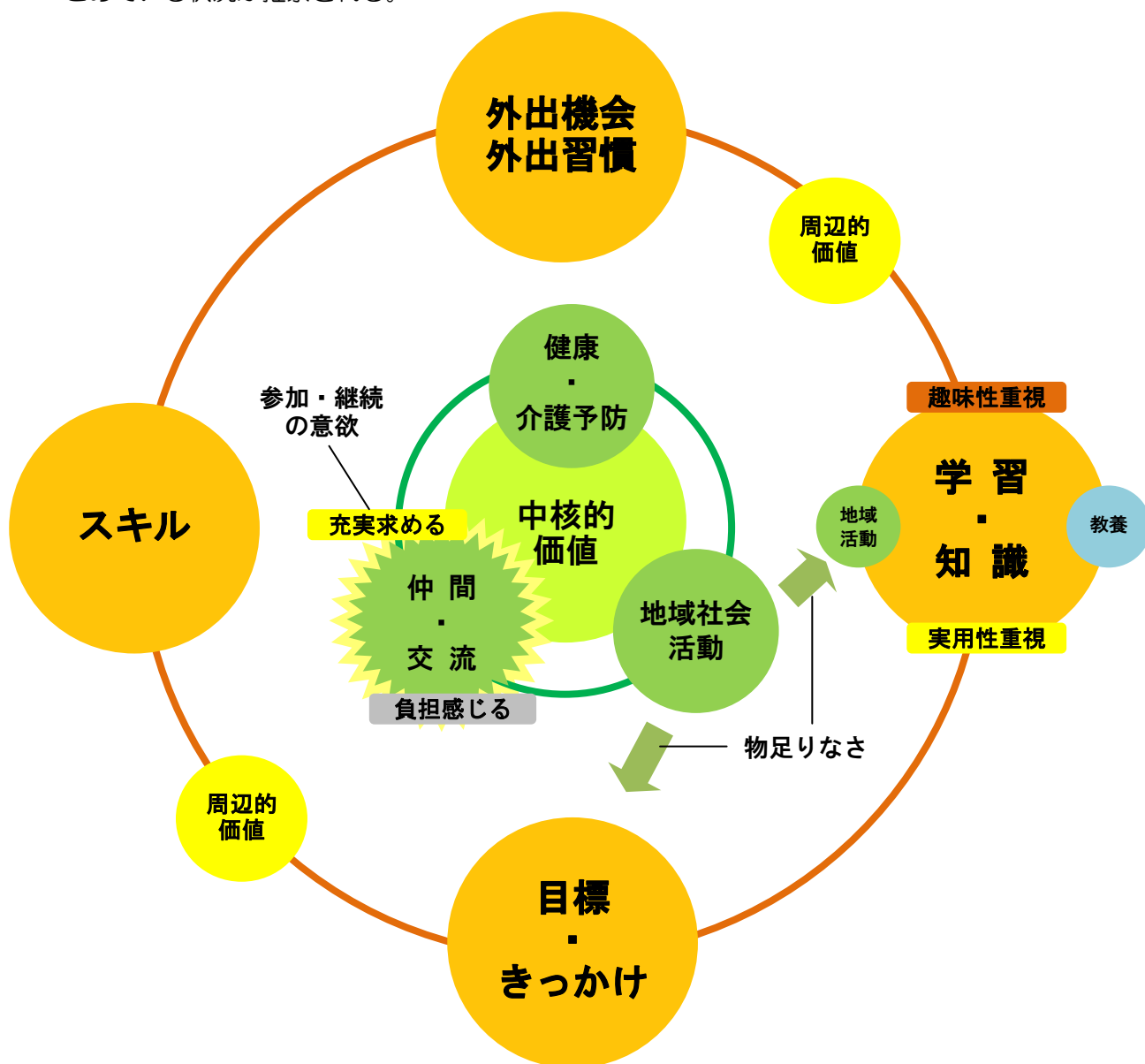
とりわけ、退職前から積極的に地域活動について下調べをしていた方（セカンドライフ探求グループ）や、すでに町内会等の役員を経験している受講生（第2ステージ準備グループ）にとっては、「地域活動リーダーの養成」を目的に謳う本事業の講座の内容に期待はずれの感が残ったものと考えられる。

b) 受講生の求める価値の多様性

ここでは様々な背景を持つ受講生がシニア大学に求める価値を概観するために、「シニア大学で得られたこと」として評価された項目<<42 頁 3.(1)①1b)>>と、インタビューにより汲み取られたシニア大学の価値<<44 頁 3.(1)①1d)>>とシニア大学への要望・意見<<45～47 頁 3.(1)①2) a)～c)>>を模式図化した。

まず、シニア大学の講座・活動そのものの価値として、「健康・介護予防」「地域社会活動」「仲間・交流」の3つがあげられ、さらに参加の結果得ることのできる価値として「外出機会」「学習・知識」「目標・きっかけ」「スキル」などがある。

受講生はそれぞれの背景や趣味嗜好に応じて重視する価値が異なる上に、特定の価値に関しても志向性の違いが存在しており、模式図からは、シニア大学が受講生の多様な期待を受けてとめている状況が推察される。



【図 19】受講生の求める価値の多様性の模式図

2) 地域リーダー養成機能の見えづらさ

シニア大学の講座は、健康づくりや介護予防、高齢者の日常生活に役立つ情報なども含んでいる。また、シニア大学は退職後間もない受講者の「地域デビュー」の場としても機能しており《36 頁 2.(3)④1)》、現状は、事業目的である「地域リーダーの養成」に必ずしも特化しているとは言い難い面がある。

しかし、それにも関わらず、町内会・老人クラブに参加している卒業生の半数以上は役職者として活躍し《48 頁 3.(1)①3a)》、また、地域で様々な活動経験を積んでから入学した受講者は、グループワークや情報交換等を通じて、リーダーとして成長を果たしている《29 頁, 37 頁 2.(3)④2)》。

このことから、シニア大学においては、伝達される知識や情報のみならず、学習環境や周囲の仲間などの交流・協働経験、さらには受講者自身の動機付けなど、様々な要素が重層的に絡み合って、地域リーダーの育成が実現されているものの、その機能及び効果は見えづらく、実感として受講生に共有されづらい状態にあると考えられる。

なお、この指摘は、シニア大学が現状においても、目立たないながらも地域リーダーも養成している現状に触れたに過ぎず、今後、事業目的のより高水準での達成を目指す場合に、地域社会活動に係る踏み込んだ支援を求める声《45～47 頁 3.(1)①2a)～c)》に添えつつ、多面的にリーダー育成機能を強化・可視化することを否定するものではないことを申し添える。

④「第3節（1）札幌シニア大学」まとめ

事業の現状と課題	
●講座	課題
・様々な要望が拡散。多くの受講生が満足する内容を設定することが困難。	
●健康づくり・介護予防	
・概ね好評で受講生に役立っていると考えられる。	
●地域社会活動	課題
・一定の効果は確認できるものの、実際の活動への参加促進と、事業の目的である「地域活動リーダー」の育成の観点で物足りなさを指摘する意見もある。	
●交流・仲間づくり	
・多くの受講生に好評。受講生の社会参加活動にも好影響。	
●その他～受講生が感じる本事業の価値	
・学習・知識習得 ・気づき・きっかけ ・スキル習得 ・外出機会・外出習慣	
課題の背景に係る考察～本調査から課題(地域リーダー養成)解決への視点	
●課題① 講座に関する多様な要望	
●課題② 地域社会活動の促進と地域活動リーダーの養成に係る不足感	
●受講生の経歴の多様性	
・3 分類の受講に至る経緯、経験や動機、講座への期待に幅。	
●受講生の求める価値の多様性	
・個人の価値志向も多様。	
●地域リーダー養成機能の見えづらさ	
・伝達される知識以外にも学習環境や交流など多様な要素が絡み合い人材育成の効果。見えづらく共有されづらい。	

(2) 介護サポートポイント事業

①現状と課題

1) 事業の効果

本事業の登録者に「社会参加活動をしている理由」を尋ねたところ、「人の役に立っていると感じられる」が最も多かった《17 頁 1.(3)④》。

また、以下に示すようにインタビューからは、事業を通じて参加者がやりがい、生きがいを感じている様子が窺われる。

このことから本事業は、介護ボランティアを通じて他者を支えることで、事業参加者にも張り合いや生きがいをもたらす効果があるものと考えられる。

■事業参加者の感想（インタビュー）

- 高齢者施設で利用者・施設職員に「ありがとう」といわれる。何よりの喜び。
- 介護サポーターとして活動することで、利用者の笑顔に支えられている。
- 老いは自分の行く道。自分が嬉しいと思うことをしているので人のためではない。
- 施設の利用者さんが待ってくれているので、自分も元気でいようと思える。

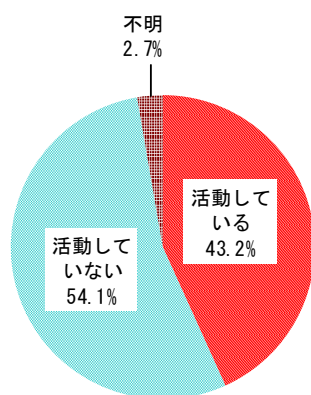
2) 活動の状況

アンケート調査によると、協力者のうち実際に介護サポーターとしての活動経験がある方は半数に満たず、とりわけ男性の活動率が低かった《58 頁図 21》。

また、現在活動をしていない人の7割以上は、活動の意向がありながらも実際の活動に結びついていない《58 頁図 22》。インタビューでは実際の活動に結びつくまでの支援を求める声も聞かれており《59 頁活動率向上に向けた意見・要望》、介護サポーター登録後の活動率の向上が本事業の課題であると考えられる。

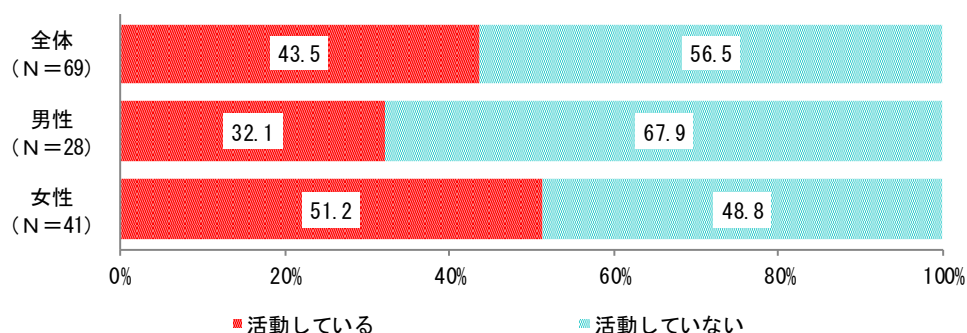
a) 活動状況：「介護サポーターとしての活動状況」（SA：N=74）

活動状況の男女比：「介護サポーターとしての活動状況×性別」（SA：N=69）



- 「活動していない」は「活動している」より 10.9% 高い。
- 「男性」は「活動していない」が 7 割を占めている。
- 「活動状況」は男女差が大きく「男性」は「女性」より「活動している」が 19.1% 低い。

【図 20】介護サポーターとしての活動状況

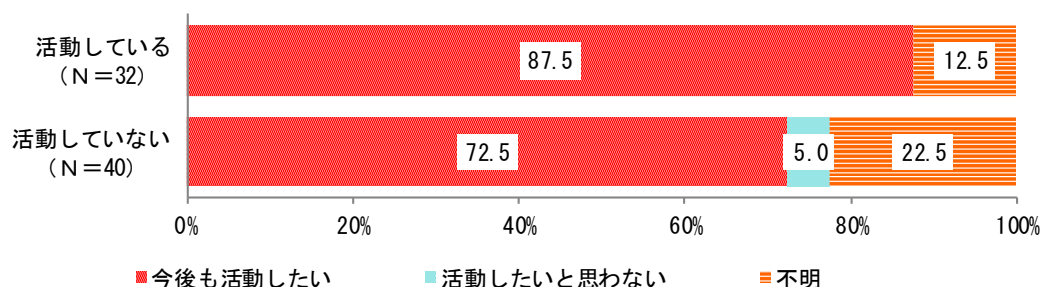


【図 21】性別×介護サポーターとしての活動状況

【参考】

* 介護サポートポイントの取得状況から算定すると、登録者の活動率は 49.0%
(平成 27 年 12 月末)

b) 「介護サポーターとしての現在の活動状況」×「今後の活動希望」（SA:N=72）



【図 22】介護サポーターとしての現在の活動状況×今後の活動希望

- 現在「活動していない」人のうち、今後は「活動したい」と考えている人が 7 割以上を占めている。

c)活動率向上にむけた意見・要望（インタビュー）

- 介護サポーターが特技をアピールしながら受入施設とマッチングできる仕組みがあると良い。
- 一歩踏み出す・背中を押すような仕組みがあると活性化する。「フォローアップ講座」を、介護サポーター同士の交流や事例紹介の場、施設紹介の場として活かしてほしい。
- 介護サポーター登録後に、実習体験や情報交換等のフォローがあればやりやすい。

3) 活動を通じた人との交流

アンケートで「活動をしている中で感じている課題・問題」を尋ねたところ、本事業の登録者の回答は「活動を通じた人との交流が少ない」が最も多かった《18 頁 1.(3)⑤》。

また、本事業の登録者で「活動をしている理由」についての質問に「活動を通じた人との交流が充実」と答えた人の割合は、他の事業参加者より少なかった《17 頁 1.(3)④》。

インタビューからも交流機会を求める声が聞かれており、また、活動の継続のためには、人との交流を通じた楽しさや、活動に行き詰ったときの相談相手なども重要な要素となることから、活動を通じた交流の促進についても本事業の課題と考えられる。

■人との交流を求める意見・要望（インタビュー）

- フォローアップ講座などで、介護サポーター同士でお話できる場や雰囲気があるとよい。
- ボランティアは横のつながりで解決できることがある。情報交換できる場所が必要。

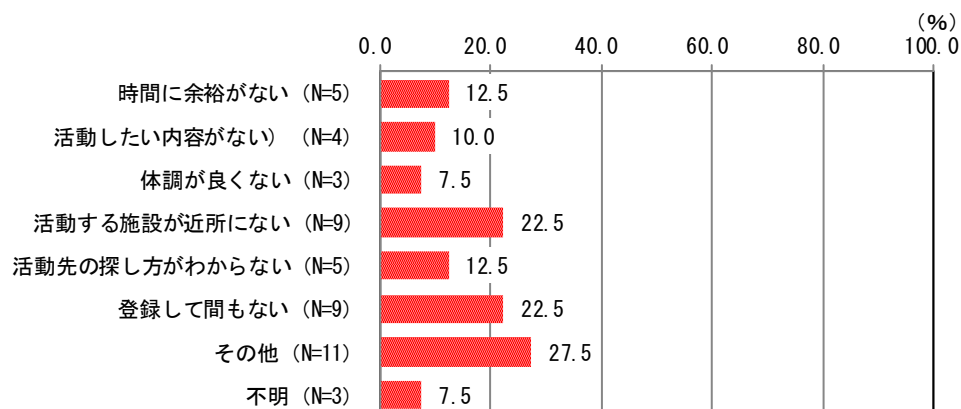
②考察～課題の背景

ここでは、これまでの検討で本事業の課題として認識した「事業登録者の活動への参加率の向上」と「活動を通じた人との交流の促進」について、その背景を考察する。

1) 事業登録者の活動への参加率の向上

a) 関連する調査結果の概要

■「介護サポーターの活動をしていない理由」(SA:N=69)



【図 23】介護サポーターの活動をしていない理由

- 「活動する施設が近所がない」、「登録して間もない」が多い。

■「介護サポーターの活動をしていない理由」その他の意見 (アンケート)

- 介護サポーターを始めるための、受入施設とのやりとりを負担に感じ、できないでいる。
- 近所の受入施設に申し込んだところ、今は全て間に合っているといわれた。
- 他の予定があり、活動ができない（病院ボランティア実施中・家族の介護中・休日しか活動できない）。

■実際の活動への参加障壁 (インタビュー)

- 未知の経験への不安
 - ・受入施設との直接交渉が必要なため、苦手意識から二の足を踏んでいる。
 - ・自信がまだない。施設に迷惑をかけそう。
- 情報不足・思い通りの活動ができるか不安
 - ・限られた情報の中から受入れ施設を探すのは難しい。
 - ・施設内で、ボランティアができる活動は限られており、制限を越えた活動になると、施設に負担になるのではと感じる。
 - ・特技を活かそうと思っても、同じ施設で同じ日に同じことをやっている人がいたらできない。
 - ・男性はイベントの手伝いなど役割が明確なほうが動きやすい人も多いと思う。

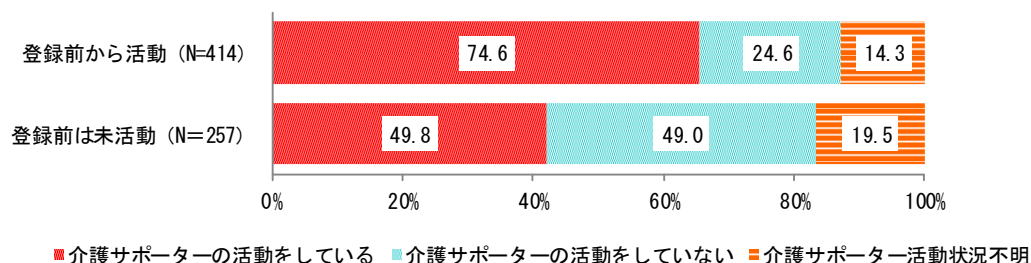
■「介護サポーター」以外のボランティア・地域貢献活動状況（インタビュー）

【表 13】介護サポーター以外のボランティア活動状況

現在、介護サポーターの活動をしている (4名)	現在、介護サポーターの活動をしていない (9名)
●町内会役員 ●老人クラブに加入予定 ●博物館ボランティア ●在宅福祉サービス協会に加入 ●傾聴ボランティア ●個人で、ご近所への声かけ等	●町内会長 ●町内会（清掃活動・赤い羽根募金） ●青少年育成委員、交通安全指導員 ●老人クラブ ●福まちと連携した社協情報の地域発信 ●駅前通り清掃活動 ●絵本の読み聞かせ ●障がい者講師講習受講・講師 ●傾聴ボランティア資格取得 ●認知症サポーター講座受講 ●社協ほっ・とプラザ有償ボランティア ●オレンジカフェ（認知症カフェ）の手伝い ●心理学系のカウンセラー資格を活用した活動

■介護サポーター登録前のボランティア活動×介護サポーター活動状況

（平成 28 年 3 月発行「札幌市介護サポートポイント登録者アンケート報告書」）



【図 24】介護サポーター登録前のボランティア活動状況×介護サポーター活動状況

- 介護サポーター登録以前のボランティア活動の経験がない人の、活動への参加は 50%程度

b) 背景の考察

ここでは調査結果を俯瞰しつつ、実際の活動への障壁と考えられる事項について個別に検討する。

■施設が近くにない

「施設が近くにない」はアンケートでも「活動をしていない理由」の上位回答でもあり<<60 頁図 23>>、また、交通費が自己負担になる施設には通いづらいことから、参加への障壁になっていると考えられる。

■登録後間もない

これも「活動をしていない理由」に対する上位回答<<60 頁図 23>>だが、登録後間もない方は常時一定程度存在しており、これ自体は問題ないと考えられる。

ただし、登録後、受け入れ先施設を探し始めるまでの時間や、条件に合う施設と巡り合うまでの時間がかかりすぎている可能性に留意する必要がある。

■施設との接触や新しい経験への気後れ、自信が無い

本事業へ登録する以前にボランティア活動をした経験が無い人は、介護サポーターとしての活動率が 50%程度に留まっている<<61 頁図 24>>。

また、インタビューからは、見知らぬ施設への不安のため施設に接触できず、その結果、不安の払拭に必要な情報を得ることができないまま逡巡する介護サポーターの存在が窺われた<<60 頁 実際の活動への参加障壁>>。

このことから、施設ボランティア等の経験の無い人にとっては、施設への接触が、実際の活動への障壁となっている可能性が疑われる。

■自分に合った施設へ出会うことができない

施設の選択にあたっては、職員や利用者の雰囲気、ボランティアの役割、特技の発揮の余地、活動の日程など様々な条件を確認し、すり合わせる必要となる。

インタビューからは、現状で提供されている情報を頼りに施設探しを行う場合、自分に合った活動ができる施設に出会うまでには時間と手間がかかり、負担となっている可能性が推測される<<60 頁 実際の活動への参加障壁>>。

また、男性については、役割が明確な方が参加しやすいという声もあり<<60 頁 同>>、男性の参加率の低さ<<58 頁図 21>>の改善のためには、留意すべき視点と考えられる。

■介護サポーター以外のボランティア活動を行っている

インタビューでは、講座を受講し、介護サポーターに登録した後、個人や地域団体の一員として、近隣住民の声かけや生活支援に取り組む事例や、介護サポーター受入れ施設以外の施設に通っている事例が見られた<<61 頁表 13>>。

②活動を通じた、人との交流の促進

1) 関連する調査結果の概要

介護サポートポイント事業登録者は、社会参加活動の全般を通して、人との交流が少ないと感じている《18 頁 1.(3)⑤》。

また、「活動をはじめたきっかけ」が「知人・友人の誘い」である割合は全体に比べて低い《15 頁 1.(3)②》。さらに、介護サポートポイント以外の活動では、ボランティアへの参加は比較的多いものの、町内会・自治会、老人クラブへの参加率は低く、同好会・サークル等への参加もやや不活発である《14 頁 1.(3)①》。

一方、インタビュー調査では、親族の不幸や自身の病気等をきっかけに一時的に社会との関係が希薄になり、社会参加の回復過程で本事業に登録している方が確認されている《31 頁模式図》。

また、アンケートでも、活動の開始時期の出来事が「何もなかった」と回答した人が全体に比べて若干少なく、不幸な出来事とは限らないが、何らかの環境の変化があった人が多いことが予想される《16 頁 1.(3)③》。

2) 背景の考察

これらの調査結果から、介護サポートポイント事業の登録者の少なくとも一部は、日常の交流活動全般があまり活発でない状態にあるか、何らかの事情で社会との接点が一時的に少なくなり、現在はその回復過程にあると推測される。

このため、介護サポートポイント事業そのものが交流のきっかけとなるような工夫により、前述の実際の活動への参加率も併せて改善される可能性も考えられる。

③「第3節(2) 介護サポートポイント事業」まとめ

事業の現状と課題	
●事業参加の効果	・人の役に立っていると感じられ、張り合いや生きがいをもたらす
●健康づくり・介護予防 課題	・介護サポーター登録後、実際の活動に参加する人が5割以下
●活動を通じた人との交流 課題	・「活動を通じた人との交流が少ない」と感じる回答者が全体より多い
課題の背景に係る考察 ～課題① 講座に関する多様な要望	
●課題の背景	・施設が近くにない ・登録後間もない ・気後れ・自身が無い ・自分に合った施設に出会えない ・介護サポーター以外のボランティア活動に従事
課題の背景に係る考察 ～課題② 活動を通じた、人との交流促進	
●課題の背景	・日常の交流活動全般があまり活発でない ・本事業参加以前の生活状況の影響

第3章 まとめと提言

本章では、まとめとして、ここまでの分析から高齢者の社会参加に特に重要であると考えられる要素を整理すると共に、提言として、分析結果及び調査協力者の個人的体験から敷衍して抽出した具体的な取組のアイデアを提示する。

本調査はインタビューを中心に実施したが、調査協力者の個人的な「つぶやき」から、背後にある願いを汲み取り、それを実現するための具体的な取組のイメージへ昇華できることが、インタビュー調査の長所である。

そこで、アイデアの検討にあたっては、本調査の強みを活かすために、行政や民間といった取組主体や、予想される制約条件にはあまりこだわらず、「実現できた場合に調査対象者に開かれたであろう可能性」に着目して、「可能性の種」を多く発見することに注力した。

1. 総論

ここでは総論として、社会参加の過程全体を概観しつつ、今までの検討から重要と考えられる以下の事項を抽出して提示する。

- (1) 適切な時期の情報提供と意識醸成
- (2) 多様で開かれた参加経路及び情報との接点
- (3) 多様な「地域デビュー」の場の創出
- (4) ニーズの多様性に応える社会参加の場の確保

(1) 適切な時期の情報提供と意識醸成

退職前後の適当な時期に情報収集等を行い、退職後の生活を計画すると共に心の準備を整えることで、円滑に交流・社会参加活動に移行することができると考えられる。



アイデア

適切な時期の情報提供

●「セカンドライフガイドブック」

50 代前後が自分の心・能力・今後の夢などを、読み・書きして”棚卸し“ができる書き込み式ガイドブックを制作し、充実したセカンドライフを送るためのきっかけづくりを支援する。

きっかけづくりと意識醸成の促進

●イベント「シニアになったら、なまら楽しむべ！

～セカンドライフ・フェスティバル～

壮年期・中年期の社会参加意識を喚起する講座、不安や課題認識を語り合うワークショップ、活動事例・生活状況を紹介する。おやじバンドやおばあさん DJ など若者もかっこいいと思えるシニア世代に参加してもらい、音楽と交流、ワークショップも楽しむような、「シニア」的でないイメージで実施する。

●体験型セカンドライフツアー「otona-リ・スタートツアー」

退職後に旅行を楽しむ方に向けて、旅行会社と協働して、魅力的な社会参加活動の視察・実習などを組み込んだ体験型セカンドライフツアーを行う。



ヒント

- 早い時期から情報収集等を開始し、あらかじめ退職（配偶者の退職）後の生活の準備や心構えをしていた人たちが円滑に社会に参加している《27 頁模式図 34 頁第 2 章 2.(3)③1)》。
- 退職後の旅行をきっかけに社会参加の意欲が湧く事例が複数見られた《35 頁第 2 章 2.(3)④1)》。また、退職後に行った「お遍路さん」の道中で、地域の生活文化や人との助け合いの重要性に気づくエピソードも聞かれた。

(2) 多様で開かれた参加経路及び情報との接点

地域になじみの薄かった人、退職以外の時期に社会参加活動を開始する人など、様々な背景を抱えた人が、社会参加の入口や、社会参加に係る情報と出会うことができるよう、多様で開かれた参加の経路や情報との接点が必要と考えられる。



アイデア

情報との接点の多元化

●「新人さん！いらっしゃい～地域活動のための“新人”受入ガイドブック～」

新たに地域社会で活動を始め人たちを迎え入れ、見守る立場になる支援・世話役の立場にある人たちを支援するために、新規参加者の地縁的団体への参加と、幅広い社会参加の両立に有益な情報を提供する（退職世代の受入・活躍の好事例、各種の支援情報など）。

●「広報さっぽろ」から広がる情報提供の多元化・多様化

社会参加に関する包括的な情報を、誰でも利用が可能なように、紙やインターネット等の媒体で知らせると共に、情報媒体の種類や掲載情報なども広報さっぽろや各種団体を通じて広く周知する。

身近で気軽な「参加の入口」づくり

●常設型地域交流拠点「大さん（第3）のひみつ基地」

会社・生活（家庭）以外で気軽に立ち寄り、食べ・飲み、趣味、遊び、ただくつろぐこと等を通じて、多世代と交流できる「地域の居場所」を設置する。

●買い物のついでに出会う社会参加の場「のきさき茶屋」「bar のきさき」

引きこもりがちな人も行かざるを得ない「買い物」の場である小売店や商店街の店舗内、軒先などに、縁側的な情報・交流スペースを設置し、お茶飲み立ち飲み交流をする。

●「“わからない” ままで良いですか？ ケータイ・SNS の安全安心講習」

SNS や情報機器の使い方を学ぶ研修や相談会を入口として、様々な話題を共有できるオンライン兼オフラインコミュニティを形成する。交流・社会参加活動に関する交流会・相談会等も併せて開催し、情報機器・SNS に苦手意識をもつ人、地域社会に縁が少なかった人、頻繁な外出が困難な人が社会との接点を保つことができるように支援する。



ヒント

- 社会参加活動を開始する時期の出来事は、性別によっても異なり、退職時期に活動を開始する人は3割に満たない《16頁第2章1.(3)③》。
- 人それぞれの背景に応じた社会参加活動に至る過程が存在する《27～31頁模式図,34頁第2章2.(3)③》。
- 地域の身近な団体等を経由して活動の幅を広げていく人と共に、広報さっぽろ等の公的な情報を頼りに社会参加を開始する人が存在する《27～31頁模式図》。
- 社会参加活動のきっかけとして「広報さっぽろ」をあげる人が過半数に上る。また、きっかけが「マスコミ」とする回答は男女差が大きい《15頁第2章1.(3)②》。
- 自身の病気や介護疲れなどから社会との接点が少なくなっているグループが存在し、その中には福祉施設職員の助言がきっかけとなり社会参加の場を広げた事例も見られた《29頁模式図》。

(3) 多様な「地域デビュー」の場の創出

高齢者の多くにとって未知の社会への参加となる「地域デビュー」を「就職活動」になぞらえると、学生のように「①選択肢を増やす幅広い情報、②励まし競い合う仲間、③目標との出会いや適性への気付き、④必要なスキルや知識」に恵まれることで、その道筋は遥かに容易になることが想像できる。

多数にのぼる高齢者の全てに、行政主導でこのような場を設けることは、困難であるが、企業や地域団体の創意工夫を受け「地域デビュー」を支援する多種多様な活動が創出されるならば、高齢者の社会参加が促進されるものと考えられる。



アイデア

民間・地域団体主導の「地域デビュー」の場づくり支援

●「otona-ダンディズム塾」設立支援

高齢社会において、孤立しやすい傾向があるといわれる「男性」をターゲットに、企業・小売店・大学等が主体となり、それぞれの特長を生かした講座を共催する。

例)・「DIY ダンディ～頼られるオレになる」講座

(ホームセンター等との共催)

・「聞き上手ダンディ～モテるオレになる」講座

(大学・専門学校等との共催)

●「シニア大学ネットワーク・ラボ」設立支援

シニア大学卒業生が加入している同窓会のメンバー等を中心に、多くのシニア世代が集まり、地域活動の事例研究・検証や、新たな企画づくり・実践、コミュニティビジネスの立ち上げなどに取り組む「実験・実践」の場の設置を支援する。



ヒント

- 調査協力者のうち男性の8割は夫婦ふたり暮らしであり、調査対象事業に参加するひとり暮らしの男性は少ない<<10 頁第2章 1.(2)③>>。
- シニア大学では、仲間、幅広い情報や知識・スキルなどを提供し、結果として受講生の地域社会への参加を後押ししている。この「地域デビュー」支援機能は応用の余地があると考えられる<<35～36 頁第2章 2.(3)④1>>。
- シニア大学の卒業生には、交流の成果を活かして同好会を立ち上げたり、町内会や老人クラブの役員に挑戦したり、地域でサロンを立ち上げるなどの事例が見られ<<27～31 頁模式図,49 頁第2章 3.(1)①3)b>>表 12>>、卒業生が地域活動の中核を担うことを期待できる。
- シニア大学は、多様な趣味志向を持つ人を迎え入れており<<54 頁第2章 3.(1)③1)b>>、このような受容の幅の広い場が、より多くの人の孤立化を抑止すること可能性が考えられる。

(4) ニーズの多様性に応える社会参加の場の確保

年代、性別、生活状況、趣味志向など高齢者の背景は多様であり、それに応じて社会参加のニーズも多様である。

このため、より幅広いニーズに応える社会参加の場を確保するために、既存の参加の場の発掘・活用や、多様で魅力的な参加の場づくりが必要になる。

なお、今回の調査からは、調査対象事業の参加者の同居状況や居住環境に偏りがあることが推測される。地域社会全体における社会参加の場を、民間主体の活動も含めて検討する場合には、様々な生活状況にある高齢者を包摂できる多様性への視点も必要となることを申し添える。



アイデア

既存の活躍の場の発掘・活用

●まちな人材マッチング

「困りごとは何ですか？できることはありますか！」

高齢者の学習成果や趣味を活かせるボランティアの場、困りごとをもって
いる町内会・老人クラブ等の人材ニーズ等の情報を集約し、人材のマッチ
ングを行う。

多様で魅力的な活躍の場づくり

●地域活動企画コンペ

地域や団体の抱える課題をワークショップなどで共有しつつ、「地域デビ
ュー」する退職世代が中心となって事業を提案、実施する。

●地域ニーズ発掘隊

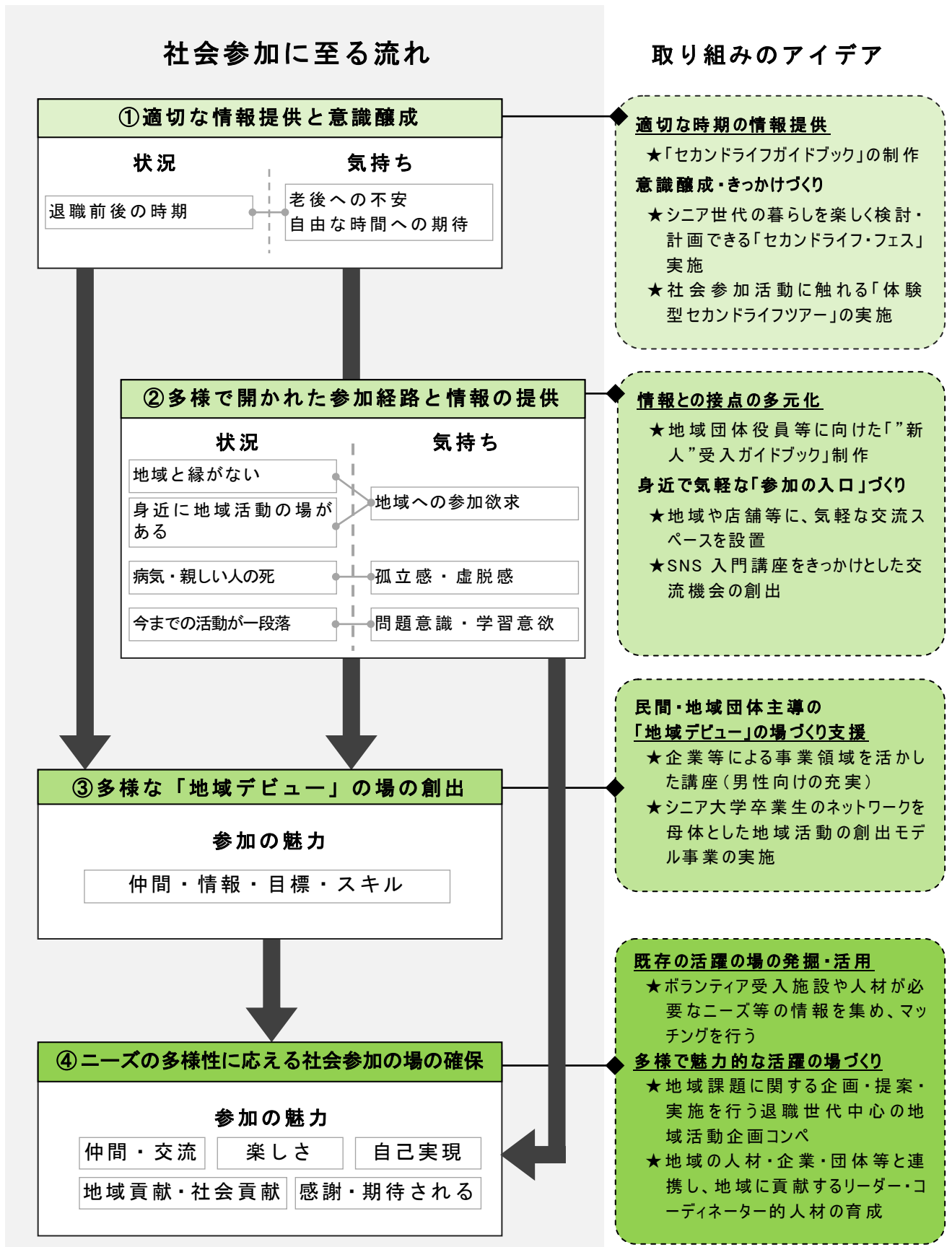
地域の住民、企業、各種団体等とネットワークを形成し、地域の既存資
源を有効に活用しながら、地域に必要とされる社会参加活動を生み出して
いくリーダー、コーディネーター人材を育成し、地域のニーズを満たすと
同時に多様な高齢者人材の活躍の場となる活動の創出を促進する。



- 調査協力者には一人暮らしの男性や、賃貸住宅居住者の割合が少ない。
《9 頁第 2 章 1.(2)③, 10 頁第 2 章 1.(2)④》
- 人それぞれの事情や経験・嗜好に応じて、町内会、老人クラブから、各種ボランティア活動、健康づくりやシニア大学同窓会の交流に至るまで、幅広い活動が選択されている《27～31 頁模式図》。
- シニア大学への要望や意見から、参加者の嗜好性の幅広さが窺われる。
《45 頁第 2 章 3.(1)②2a), 54 頁第 2 章 3.(1)③b)》
- 性別によっても社会参加活動の受け止め方に差がある
 - ・社会参加活動の理由として「活動自体が楽しい」と答える人の割合は女性が高い《17 頁第 2 章 1.(3)④》。
 - ・課題・問題の認識にも男女差が見られる《18 頁第 2 章 1.(3)⑤》。
 - ・男性は役割が明確な方が動きやすいという声も聞かれた《60 頁第 2 章 3.(2)②a)実際の活動への参加障壁》。
- 老人クラブで新しい企画を行う人、町内会役員として地域課題の解決に注力する人、ボランティアグループや交流グループを立ち上げる人など、地域課題の解決などに取り組む人材が活躍している《27～31 頁模式図》。

(5) 総論まとめ

まとめとして、ここまで検討してきた4要素を社会参加に至る流れとして整理しながら提示する。



2. 各論～既存の取組の可能性を引き出すために

ここでは各論として、まず、調査対象事業について、調査結果から「可能性の種」を取り出して提示する。続いて、多くの調査協力者から言及のあった町内会・老人クラブについて、高齢者の社会参加の促進の観点から可能性を考察する。

(1) 札幌シニア大学

① 様々な活動や目標との出会いの機会の強化

地域活動の好事例を実地に知る機会などを増やすことで、卒業後の社会参加の範囲がより広くなる可能性が期待できる。



アイデア

シニア大学における活動の場との接触・交流促進

●活動の場の見学機会の増加

現在も実施している団体訪問を強化する。

●活動事例の紹介・交流会の開催

地域で活躍する団体の代表者や、地域で活躍しているシニア大卒業生による活動発表を行うと共に交流の機会を設ける。

●人材を求めている団体の説明会

合同就職相談会のように人材を求める団体が集まる在校生向け説明会を開催する。



ヒント

- 在学中に目標となる人物と出会い励みにする事例が見られた。

《31 頁模式図》

- 地域活動に関する実践的な講座を求める意見や地域リーダー育成メニューの不足を指摘する意見が聴かれた。

《45～47 頁 3.(1)①2)a)～c)》

②シニア大学卒業生によるグループ活動の中核とした地域活動の活性化

シニア大学で醸成された仲間関係を活かし、同級生等のグループを活動単位とした地域貢献・社会参加活動を活性化することで、卒業後の社会参加の維持と学習成果の地域への還元を両立させることができる可能性が考えられる。



アイデア

卒業後の自主活動の推進

●卒業生による持続的な地域貢献活動の立ち上げ支援

様々な地域貢献に関するノウハウや、団体の立ち上げ、資金調達・運営・維持に関する実践的な知識・情報を学ぶ講座を充実させる。

●卒業生を核とする互助的活動の普及

卒業生同士で行うことができる生活互助的な活動に係る事例と、互助的活動を行う同窓会の運営ノウハウの情報を収集して提供する。

●地域に開かれた自主活動への側面支援

卒業生の自主活動グループが行う地域貢献活動について情報発信等の支援を行う。



ヒント

- 在学中の交流活動、卒業後の同窓会・同好会活動を楽しむ人が存在する。

《27-31 頁模式図》

- 卒業後に同級生でボランティアグループの立ち上げを考える事例が見られる《31 頁》。

- 卒業生が行う家族の介護を同級生グループ支援する事例が見られる。

《27 頁》

③「地域デビュー」支援機能のモデル展開

シニア大学は、多様な人材が、自分に相応しい社会参加の場や、交流を続けることのできる仲間を見つけることで社会参加を後押ししている。この機能とノウハウを地域社会に広く展開することで、定員の限られたシニア大学受講生以外にも社会参加のきっかけが広がることが期待できる。



アイデア

地域における「地域デビュー」の場づくり支援

●「シニア大学ネットワーク・ラボ」設立支援（再掲）

シニア大学卒業生が加入している同窓会のメンバー等を中心に、多くのシニア世代が集まり、地域活動の事例研究・検証や、新たな企画づくり・実践、コミュニティビジネスの立ち上げなどに取り組む「実験・実践」の場の設置を支援する。



ヒント

- シニア大学は「地域デビュー」支援機能を有している（35～36 頁第 2 章 2.(3) ④1)）。

(2) 介護サポートポイント事業

① 介護経験者の積極的な活躍の場づくり

調査からは、本事業の参加者には介護経験者が多いことが推測される。

介護予防の観点からは、介護経験者以外からも広い参加があることが望ましいが、本事業の介護経験者との親和性を積極的に活用する方向性も考える。



アイデア

介護経験者としての介護サポーターの活躍促進

● 介護サポーターによる「介護者サポーター」活動

介護経験のある介護サポーターが、「介護者サポーター」として、現在家族介護を行っている介護者等に経験や有益な情報を伝え、交流することで、介護者の介護終了後の気持ちの落ち込みや孤立を抑制する。併せて介護終了後の介護者等が介護サポーター等の仕組みを通して社会参加することができるよう支援を行う。



ヒント

- 介護サポーターには介護経験者が多く見られる《38 頁第 2 章 2.(3)④3)》。
- 介護終了後に虚脱感にとられる事例もある《31 頁模式図》。

②交流の促進と不安の軽減

本事業の登録者同士の交流機会や、施設との接点を創出することで、活動経験者の体験談や受け入れ施設の情報が登録者に浸透して、活動への不安が軽減され、本事業の課題である「実際の活動への参加率の低さ」と「人との交流の少なさ」を同時に解消できる可能性が考えられる。



アイデア

不安の払拭につながる接点の創出

●介護サポーター同士のつながりの創出

介護サポーター同士の情報交換の場を設けると共に、先輩サポーターが後輩に活動の経験や施設の情報を伝え、施設見学の手引きを行うことができるように支援する。

●受入施設との接触機会の創出

施設見学会や、講座等の機会を利用した施設からのボランティア募集のPRなど登録者が施設の様子や活動内容を詳しく知ることができる機会を設ける。



ヒント

- 介護サポートポイント事業の登録者の中には、日常の人との交流そのものがあまり活発でない状態にある方がいることが推測される《63 頁第 2 章 2.(2) ②2)》。そのような方は、見知らぬ施設と接点をつくる際の不安感が大きい可能性が考えられる。
- 実際への活動への参加障壁としては、不安や情報不足が考えられる《60 頁第 2 章 2.(2)①1)a)実際の活動への参加障壁》。
- 介護サポーター同士の交流や、受入施設とのマッチングの機会を求める声が聞かれた《59 頁第 2 章 3.(2)①2)c)》。

(3) 町内会・老人クラブ

本調査のインタビューにおいて、町内会・老人クラブについては、今まで関わりをもった経験のある方からは、多くの言及があった。

しかし、町内会・老人クラブは地域・団体の差が大きいと推察され、また、今回の調査項目・調査方法は、各町内会・老人クラブの全体像について分析するには不適切と考えられる。

そこで、ここでは高齢者の社会参加を促進する観点に限って、ここまでの分析と、調査協力者の体験談から町内会・老人クラブの持つ「可能性の種」を抽出する。

①社会参加の入口機能の強化

退職等をきっかけに地域社会の接点を求めて、身近な活動に参加し、そこから活動の幅を広げていく人がいることから、地域の身近な存在である町内会や老人クラブが、退職者等の社会参加のための相談窓口や情報提供窓口を担いつつ、同時に町内会や老人クラブの活動の意義や魅力を伝え、担い手を確保していく可能性が考えられる。



アイデア

退職者等に対する接触・相談機会の提供

●「地域デビュー」「地域人としての成人」を祝うイベント

地域社会に接点を持つ機会がなかった人が、町内会や老人クラブなどの活動を知り、併せて、同年代など共に活動をしていくことのできる仲間や、社会参加のための有用な助言をしてくれる先輩に出会う場を設けることで、地域を拠点とした社会参加の可能性を広げる。

●「新人さん！いらっしゃい

～地域活動のための“新人”受入ガイドブック～」の制作（再掲）

新たに地域社会で活動を始めの人たちを迎え入れ、見守る立場になる支援・世話役の立場にある人たちを支援するために、新規参加者の地縁的団体への参加と、幅広い社会参加の両立に有益な情報を提供する（退職世代の受入・活躍の好事例、各種の支援情報など）。



ヒント

- 退職後の社会参加活動の第一歩として身近な地域の活動に参加する事例が見られた《27 頁模式図》。
- 病気で社会との接点が少なくなる中、福祉施設職員の助言がきっかけに社会参加の場を広げた事例が見られた《31 頁模式図》。
- 「広報さっぽろ」などの公的情報が活動のきっかけとなることが多い一方で、「知人・友人の誘い」がきっかけとなる人も一定数存在する《15 頁第 2 章 1.(3)②》。

②社会参加の場としての積極的な人材登用

本調査では、高齢者が町内会や老人クラブに新たに参加し、意欲的に運営改善や組織活性化に取り組む事例も見られた。また、町内会や老人クラブの重要性や意義に関して理解を示す声も少なからず聞かれたことから、退職等をきっかけに新たに地域社会に参加してくる方たちの意欲と積極性を尊重し、経験や技術を発揮する機会をつくりながら積極的に登用することで、社会参加の場づくりと組織活性化を同時に実現することができる可能性がある。



アイデア

意欲・スキルに合致した人材登用

●役割を明確化した人材募集

人材の募集にあたって「経理」「イベント企画」など役割を具体化することで、スキルを有する人材が円滑に参加できる可能性が考えられる。

新たな人材が参加しやすい条件整備

●マニュアルや引継書の整備

マニュアルや引継書が整備されていることで、新しい人材が参加するにあたっての不安や負担感を低減できる可能性が考えられる。

参加意欲の維持・増進

●「ベテラン」と「若手」の相乗効果をもたらす関係性の構築

ワークショップ手法の導入や、懇親会等における席順の工夫等により、ベテランと「若手」の発展的な意思疎通を図ることで、地域の活性化に構成員の経験と意欲が相乗効果を発揮する可能性が考えられる。



ヒント

インタビューでは、町内会や老人クラブの意義を踏まえ、運営改善や組織活性化に取り組む方の体験談も聞かれた《以下に集約して例示》。

●能力を活かした人材の登用

- ・町内会の経理・監査として活躍している。
- ・老人クラブの新しい企画・運営に取り組んでいる。
- ・事務能力の高い人材の協力を得て、町内会の運営改善を進めた。

●運営改善の努力

- ・名簿やマニュアル整備を進め、組織を活性化した。
- ・町内会参加後間もなくして、監査方法の改善を進言したところ受け入れられ、役員を継続している。
- ・懇親会の席順を年功序列から変更することで人間関係に変化が見られた。

(4) 第2節 各論まとめ～既存の取組の可能性を引き出すために

札幌シニア大学	
● 活躍の場との接触・交流の促進	・活動の場の見学機会の増加 ・活動事例の紹介・交流会の開催 ・人材を求めている団体による説明会
● 卒業後の自主活動の推進	・卒業生による持続的な地域貢献活動の立ち上げ支援 ・卒業生を核とする互助的活動の普及 ・地域に開かれた自主活動への側面支援
● 地域における「地域デビュー」の場づくり支援	・「シニア大学ネットワーク・ラボ」設立支援(再掲)
介護サポートポイント事業	
● 介護経験者としての介護サポーターの活躍促進	・介護サポーターによる「介護者サポーター」活動
● 不安の払拭につながる接点の創出	・介護サポーター同士のつながりの創出 ・受入施設との接触機会の創出
町内会・老人クラブ	
● 退職者等に対する接触・相談機会の提供	・「地域デビュー」「地域人としての成人」を祝うイベント ・「新人さん！いらっしやい～地域活動のための“新人”受入ガイドブック～」の制作(再掲)
● 意欲・スキルに合致した人材登用	・役割を明確化した人材募集
● 新たな人材が参加しやすい条件整備	・マニュアルや引継書の整備
● 参加意欲の維持・増進	・「ベテラン」と「若手」の相乗効果をもたらす関係性の構築

第4章 事例文献調査

1. 事例調査の視点

本章では、第3章で提言したアイデアを具体化する場合に参考となると考えられる以下の事例を紹介する。

事例調査	概要	関連項目及び 関連性
中高年世代のための セカンドライフ応援事業 ●静岡県富士市市民協働課 ●運営：一般社団法人まちの遊民社	50～60代の早い時期 にセカンドライフの楽し み方を考えるきっかけ づくり	66頁第3章1.(1) 適切な時期の情報提供 と意識醸成
はちおうじ志民塾 ●東京都八王子市市民活動推進部 協働推進課	活動の棚卸しから再出 発し、より良い地域活 動や、自己実現につな げるきっかけづくり	69頁第3章1.(3) 多様な「地域デビュー」の 場の創出 70頁第3章1.(4) 多様な社会参加の場を 創出するリーダー、コーデ ィネーター人材の育成
～いきいきまちづくり～ ●NPO法人福祉亭（東京都多摩市）	集合住宅内に設置され た、誰でも気軽に立ち 寄り、役に立てる場	67頁第3章1.(2) 多様で開かれた参加経 路の一つとなる、身近で 気軽な「参加の入口」

2. 事例調査

(1) 中高年世代のためのセカンドライフ応援事業（静岡県袋井市）

①目的

中高年世代が、これまで培ってきた知識・経験・技能などを活かし、地域社会の一員として社会参画を続けながら、生きがいのあるセカンドライフを過ごしていただく事を目的に、「セカンドライフ相談室」を開設・運営する。

②概要・特徴

セカンドライフ相談室の開設と運営を中心に、生きがいあるセカンドライフを啓発するための事業を行っている。

③取組の主体・連携

- 委託：静岡県富士市市民協働課
- 運営：一般社団法人まちの遊民社

④取組の内容

1) セカンドライフ相談室

- 電話相談
 - ・電話相談は、9時～18時（土曜・日曜・祝日・年末年始は除く）。
 - ・各相談内容に応じた情報を提供、紹介。
 - ・中高年世代の社会参画情報を蓄積した相談員がアドバイスを行う。
- 面談相談
 - ・相談者の希望に応じて、土日祝・夜間の相談も可能。
 - ・相談会場は最寄りの公共施設を利用し、相談員が出向いて対応する。
- 同行による参加促進
 - ・相談者から要望があれば、見学・体験に相談員が同行し、活動スタートを応援する。
- 情報収集
 - ・中高年世代の見学や短期体験可能な NPO 法人・市民活動団体の登録拡大、活動情報収集の実施・発信
- 多様な相談に対応するための連携
 - ・中高年世代の多様な相談に対応するために、就労・起業支援組織（ハローワーク・シルバー人材センター・商工会議所・f-Biz 等）や市民活動支援組織（市民活動センター・ボランティアセンター等）、及び他課（まちづくり課・介護保険課・農政課等）との連携を図る。また、セカンドライフ起

業人等さまざまな形での社会参画を果たしている方々の情報も積極的に収集し、情報の充実を図る。

- ・ 情報提供は、受託者のホームページおよび情報誌「セカンドライフおすすめガイド」の発行及び情報ブログ「セカンドライフ情報ちゃんねる」の発信を通して行っている。

2) 生きがいあるセカンドライフの啓発活動

○市内事業所との連携による啓発活動

- ・ 富士市セカンドライフ促進ネットワークを組織し、会員事業所を通じ現役世代への情報提供や広報活動を展開。
- ・ 退職後のセカンドライフのデザインは現役世代からの情報収集や準備が大切であるとの考えから、富士市大手事業所により構成される促進ネットワークにより現役世代への啓発活動が行われている。

○セカンドライフ啓発イベントの開催

- ・ セカンドライフに向けてのデザイン作りを支援するための啓発イベントとして、活動紹介の情報展示や相談に応じる出張相談会を開催している。
- ・ 各種イベント（富士の麓 de おとなまつり・ふれあいフェスタ等）へも参加し活動紹介や出張相談を行う。
- ・ 啓発イベント「富士の麓 de おとなまつり」について
地元の私立大学内で実施。参加費 500 円学食ランチつき。キャンパスで知的好奇心をくすぐる講演、多彩なブース、学食ランチ、バンド音楽など。平成 27 年度のテーマは、青春時代の空気にタイムトリップしながら「素敵なセカンドライフを見つける日」。「わたしの自慢コレクション」男性のコレクションを展示したり、「男性介護の問題に迫る」など、比較的退職後の男性に向けた内容となっている。

3) 広報チラシによる広報活動

4) 富士市広報誌「広報ふじ」を活用した広報活動

- ・ 広報ふじにてシリーズ掲載されている「セカンドライフの顔」で、生き生きと社会参画している中高年世代の事例紹介を行っている
- ・ 併せて相談室の開設案内と事業全体の特集記事の掲載を実施

5) ウェブサイトによる情報発信

○運営している法人ウェブサイト上に、本事業「セカンドライフ相談室」の紹介・市民活動情報・支援組織情報等を発信し随時更新する。

セカンドライフ見本市と出張相談会
素敵なセカンドライフを見つける5日間
 50代、60代、70代…の皆さま

「富士市セカンドライフ相談室」は、富士市在住の60歳以上の高齢者（またはその家族）を対象に、セカンドライフ（退職後の生活）に関する相談や、富士市が提供するサービスについて説明する機会です。

日程：平成25年 2/24・28・30・31・3/1
 会場：富士市立中央図書館 分館市民ギャラリー

目録付特設コーナー（10時～12時）

24	25	27	28	28
健康・医療・介護 富士市立中央図書館	健康・医療・介護 富士市立中央図書館	健康・医療・介護 富士市立中央図書館	健康・医療・介護 富士市立中央図書館	健康・医療・介護 富士市立中央図書館

富士市セカンドライフ相談室
 0545-51-1112

ご相談方法
 富士市セカンドライフ相談室（富士市立中央図書館 分館市民ギャラリー）
 TEL: 0545-51-1112 FAX: 0545-30-6651
 e-mail: machi-yumin@yumin.eschizuoka.jp

ご相談・お問合せ
 富士市セカンドライフ相談室（富士市立中央図書館 分館市民ギャラリー）
 TEL: 0545-51-1112 FAX: 0545-30-6651
 e-mail: machi-yumin@yumin.eschizuoka.jp

50代、60代、70代…の皆さま
富士市セカンドライフ相談室はあなたのセカンドライフをサポートします。
 高齢・高齢者・高齢者… 高齢者は多岐です。最近では高齢者でも50代の世代まで広がっています。

0545-51-1112

富士市セカンドライフ相談室
 セカンドライフおすすめガイド

富士の麓 de おとなまつり

平成25年10月27日（日） 9:30～14:30
 会場：常葉大学富士キャンパス
 入場料：500円（学生・教職員は無料）
 テキスト：500円（学生・教職員は無料）

富士市セカンドライフ相談室
 TEL: 0545-51-1112 FAX: 0545-30-6651

プログラム

第1部 記念講演会 講演室にて 9:30～11:30
 講演者：富士市セカンドライフ相談室 代表 山本 浩二氏

第2部 セカンドライフ相談会 相談室にて 11:30～14:30
 相談内容：健康・医療・介護、生活・福祉、趣味・学習、その他

第3部 富士市セカンドライフ相談室 相談室にて 14:30～16:30
 相談内容：健康・医療・介護、生活・福祉、趣味・学習、その他

第4部 セカンドライフ相談室 相談室にて 16:30～18:30
 相談内容：健康・医療・介護、生活・福祉、趣味・学習、その他

第5部 セカンドライフ相談室 相談室にて 18:30～20:30
 相談内容：健康・医療・介護、生活・福祉、趣味・学習、その他

セカンドライフおすすめガイド

富士市セカンドライフ相談室
 TEL: 0545-51-1112 FAX: 0545-30-6651



* 出典：一般社団法人まちの遊民社公式ホームページ <http://www.machi-yumin.com>
 " 公式ブログ <http://yumin.eschizuoka.jp/e1104741.html>

(2) はちおうじ志民塾（東京都八王子市）

①目的

これから定年を迎える、またはすでに定年を迎えた方々（概ね 50 歳以上の男女）が、これまで培ってきた知識や経験を活かし、社会貢献活動や地域活動などの担い手として、地域に根差して主体的に活動していくこと

②取組の概要

- 平成 21 年に開始。平成 27 年度で 7 期生。
- 対象：市内在住・在勤。地域に根差す活動に取り組みたい概ね 50 歳以上男女
- 会場：八王子労政会館
- 受講：30 名
- 受講料：基礎課程 15,000 円
専門課程〔コミュニティビジネスコース・地域活動実践コース〕7,500 円
〔起業コース〕10,800 円
- 基礎課程は人生の棚卸しと今後の活動の方向性を検討することを目的とする
- 専門過程はより実践的な知識・技術を身につけることを目的とする

③取組の主体・連携

- 八王子市市民活動推進部協働推進課
- 八王子市市民活動支援センター

④取組の内容

1) 基礎課程「地域活動の選択肢を学び、人生の棚卸しを行う」（必修）

- 地域での様々な市民活動を知るとともに、これまでの自身の経験やこれからの活動の方向性を再確認し、自分の「海図（進むべき道）」を探す。
- 「人生の棚卸し講座」：自身の人生経験を振り返り、地域で活かせる自身の強みや価値観、知識や可能性を洗い出し整理している。
- 「地域活動の選択肢・可能性を探る」：地元のコミュニティビジネスや市民活動、町内会・自治会活動などの現状や好事例を学び、自らの進むべき道を考えて「海図」を作成する。この海図は発表を行い全員で共有・意見交換を行う

2) 専門過程（選択制）

- コミュニティビジネスコース
 - ・地域のさまざまな課題を解決する事業や、地域資源を活用した事業（コミュニティビジネス）について、地域課題の洗い出しの手法、実践例などを学ぶ
 - ・受講期間：11～12 月の 2 か月間で全 5 回

○地域活動実践コース

- ・地域で活動する様々な主体（市民活動団体、大学等）の現場を訪問し、実践例を学ぶ。
- ・実際に活動している既存の市民活動団体を自主的に訪問する現場の声を聞くプログラムを設定している
- ・受講期間：10～12月の2か月間で全5回

○起業コース

- ・企業人として培ってきた、経験・技能・人的ネットワークを駆使して、独立そうぎょうするために必要な法務知識・財務会計・労務管理・マネジメント手法などを学ぶ
- ・サイバーシルクロード八王子「本気の創業塾」との協働実施
- ・受講期間：10月～

3) 特徴

- 「はちおうじ志民塾」プロジェクトチームが、独自に企画した完全オリジナルカリキュラムを使用。
- 座学だけではなく、グループワーク・個人ワークなどの学習方法をとる
- 受講期間中のさまざまな問題解決や相談に応じる
- 卒塾後も市民活動支援センターと連携、地域活動の第一歩をサポートする
- 受講のきっかけづくりとして、「事前相談会」があり、事務局職員、講師、卒塾生が参加し受講希望者の迷い・不安などの相談に応じる。
- 「自分がしたいことは何か」「何ができるのか」を検討する時間が設けられており、公募チラシにも「これからがスタート」というメッセージが込められている。
- 地域の役に立ちたいが、何をしていくかが漠然としているシニア世代は多い。そうした受講希望者の背中を押す工夫がなされている。

(3) ～いきいきまちづくり～NPO 法人 福祉亭（東京都多摩市）

①目的・背景

- 多摩ニュータウンでは現在高齢化率 30%を超えており、ニュータウンは地方から状況した人が多く住むため、地縁・血縁の薄さから高齢者の孤立が顕在化していた。
- その状況を懸念した多摩市の高齢者支援課が「高齢者の社会参加活動の立ち上げ」を呼び掛けて、「多摩市高齢者社会参加拡大事業運営協議会」が発足し、地域のたまり場づくりの方向性が決定し、「福祉亭」が立ち上がった。

②概要・特徴

- 多摩ニュータウンの中にある商店街の空き店舗を利用して、月～土曜の 10～18 時、日曜日月 1 回 13 時半～16 時まで営業している。
- 開設当初は、たまり場を運営するための有償の食事・喫茶を行っていた。
- たまり場運営を進める中で地域課題やニーズの集まる場となり、利用者の声を取り入れ、現在は高齢者支援事業、在宅支援事業、まちづくり事業、世代交流事業の 4 事業が行われている。
- 介護予防から趣味・ゲーム・食・多世代交流イベントなど様々な活動プログラムがあるため、多くの世代、いろいろな方がふらっと集まって、楽しむ居場所となっている。
- 商店街の中であり、団地の中であり、スーパーが近くにあることから、人の目につきやすく、立ち寄りやすい場所となっている。

③取組の主体・連携

- 発足当初 3 年間は、東京都と多摩市からの補助金を受け運営されていた。
- 補助金の終了前に、運営の見直しが行われ、無償ボランティアスタッフとコアメンバーによる自主運営となった。併せて任意団体から NPO 法人に組織変更している。
- 高齢者支援事業については東京都の「ミニデイ事業」年間 60 万円の 2 分の 1 補助を受けて運営している。

④取組の内容および実施場所

○高齢者支援事業

福祉亭のメインとなる事業。商店街の空き店舗を利用した福祉亭は内部がサロンとなっており、ランチや飲み物を提供するとともに、囲碁・将棋麻雀などのゲームやカラオケ、居酒屋、季節の行事も行われている。
地域包括支援センタースタッフによる無料「よろず相談」も実施。

○在宅生活支援事業

高齢者世帯に対し、ちょっとした生活支援サービス（掃除・通院の手伝いなど）を有償ボランティアとして引き受けている。

○まちづくり事業

大学・研究機関の調査フィールドとして、情報提供を実施。法人の独自事業として日ごろの見守り方策の検討を実施

○世代交流事業

平成 17・18 年度の多摩市市民提案型まちづくり事業補助金で実施、し自習運営化したもの。「まめふく」は、いつまでもまめまめしくあるようにの願いを込めて、子育て支援を行っている。「まなふく」はいつまでも学びを忘れずにの思いで地域の人材を講師として、講座を運営している
多摩ニュータウンは近年外国人も増加しているため、外国人との交流事業が行われている。

⑤取組の成果・課題・今後の展開

- 「福祉亭に行けば、話し相手がいる」ことが定着し、世代の異なる多様な方が集まっている。
- 高齢化社会の支え合いを主目的に活動を始めた結果、多世代が集まり新たなコミュニティをつくる基盤となっている。
- 無償ボランティアは「パソコンができる人募集」など、個人の特技を生かせる内容となっており、そうして集まったスタッフが、様々な役割を臨機応変に分担していくようになり、活動と交流の幅が広がっている。
- 現在 50 名程度のボランティアが活躍中だが、諸般の事情から辞める方も少なくはない。いかに気持ちよく、楽しくボランティアを続けていただけるかが今後の課題となっている。



* 出典：いきいきまちづくり NPO 福祉亭 ホームページ
<http://www.fukushitei.org/index.html>

資料 1 アンケート調査集計結果

1. 調査方法および回収結果（再掲）

調査対象者	調査時期	実施方法	配布数	回収数	回収率
シニア大学在学学生	H27.11.20	シニア大学講義終了後、直接配布・回収	80 件	62 件	77.5%
シニア大学卒業生 (H25・H26 年度)	H27.11.14 ～11.30	郵送配布・回収	175 件	82 件	46.9%
介護サポーター	H27.10.27	フォローアップ講座終了後、直接配布・回収	82 件	74 件	90.2%
計			337 件	218 件	64.7%

2. 集計結果に関する留意事項

凡 例

<SA> シングルアンサー（単一回答） <MA> マルチアンサー（複数回答）

N サンプル数

注 記

- 各図表で示すサンプル数 **N** は、注記のない限り、非該当者（その設問に答える必要のない方）を除いた数であるため、回収数以下になる。
- クロス集計におけるサンプル数 **N** は、「不明」を除いた数である。各項目の下に、それぞれの項目にあたる有効回答数を記載している。
- マルチアンサー設問<MA>では、表記の割合の合計は **100%**を超える。
- シングルアンサー設問<SA>に関しても、表記の割合は選択肢ごとに小数点第二位を四捨五入しているため、合計が **100%**にならない場合がある。
- 「その他」として具体的に挙げられたことならについては、基本的に同様の回答が複数あったものを掲載している。
- クロス集計の表では、上位 3 項目に、上位から    をつけて表示している。

3. 調査集計結果

(1) 属性

① 居住区

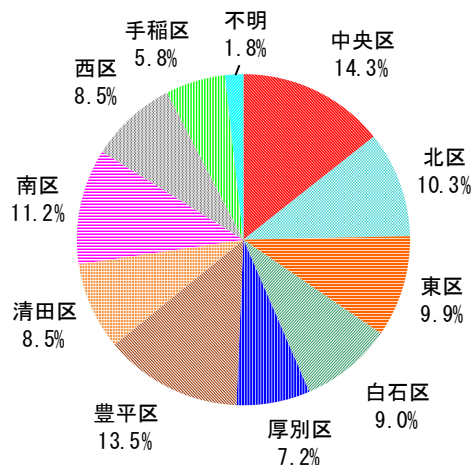


図 1-1 居住区 (SA: N=223)

② 調査対象事業別の内訳

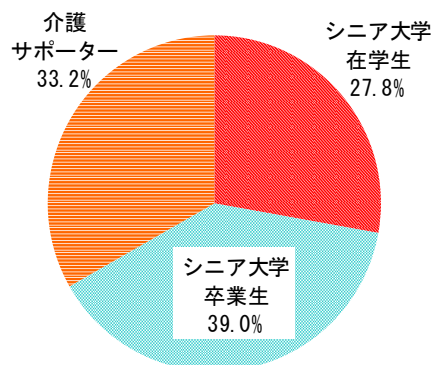


図 1-2 調査対象事業別 (SA: N=223)

③ 年代・性別

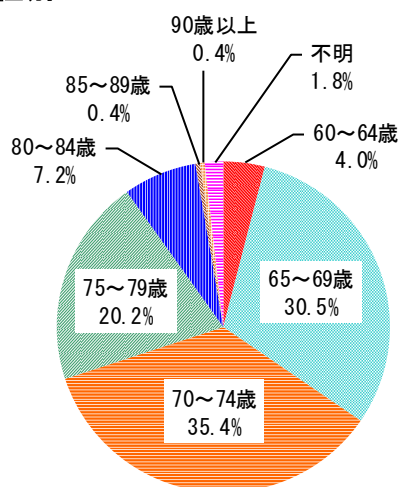


図 1-3-1 年代 (SA: N=223)

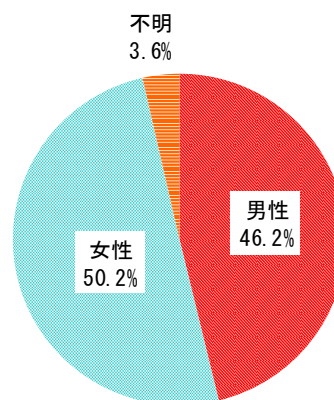


図 1-3-2 性別 (SA: N=223)

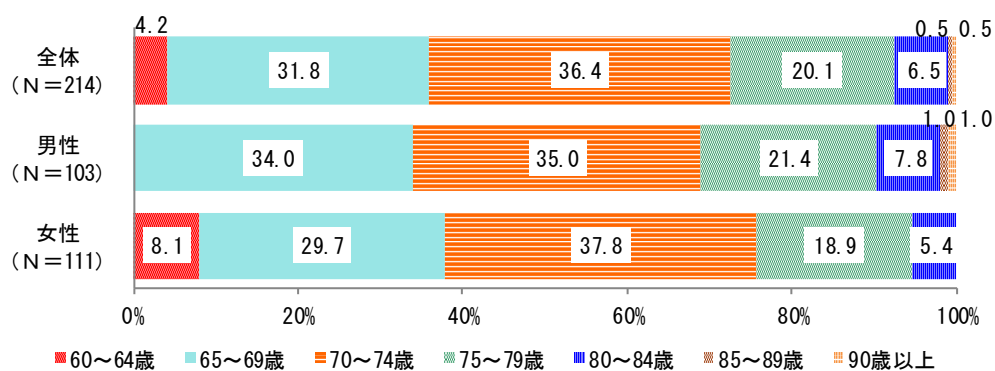


図 1-3-3 性別 × 年代

④同居者

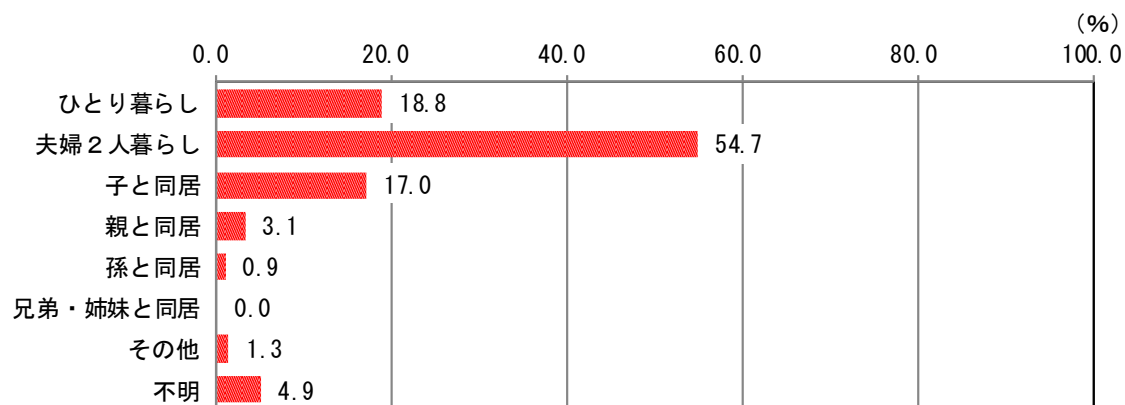


図 1-4 同居者 (MA: N=223)

表 1-4 性別・調査対象事業別 × 同居者

	ひとり暮らし	夫婦2人暮らし	子と同居	親と同居	孫と同居	兄弟・姉妹と同居	その他
全体 (N=207)	19.3	58.5	17.9	3.4	1.0		1.0
男性 (N=99)	5.1	76.8	15.2	2.0			1.0
女性 (N=108)	32.4	41.7	20.4	4.6	1.9		0.9
全体 (N=212)	19.8	57.5	17.9	3.3	0.9		1.4
シニア大学在学学生 (N=62)	16.1	59.7	17.7	3.2			3.2
シニア大学卒業生 (N=85)	21.2	52.9	18.8	4.7	2.4		1.2
介護サポーター (N=65)	21.5	61.5	16.9	1.5			

⑤ 居住形態

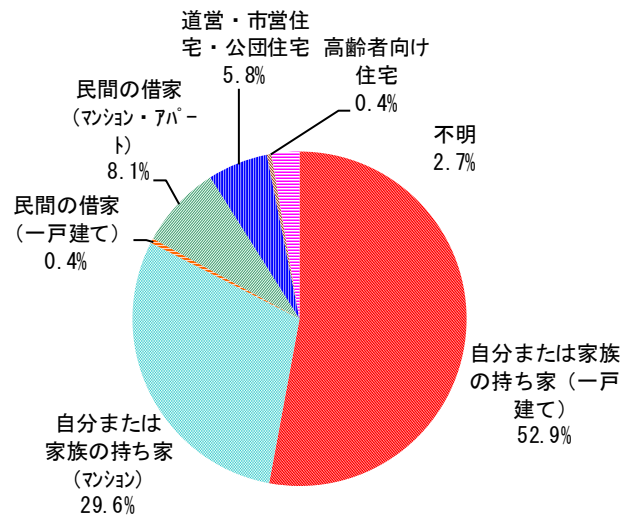


図 1-5-1 居住形態 (SA: N=223)

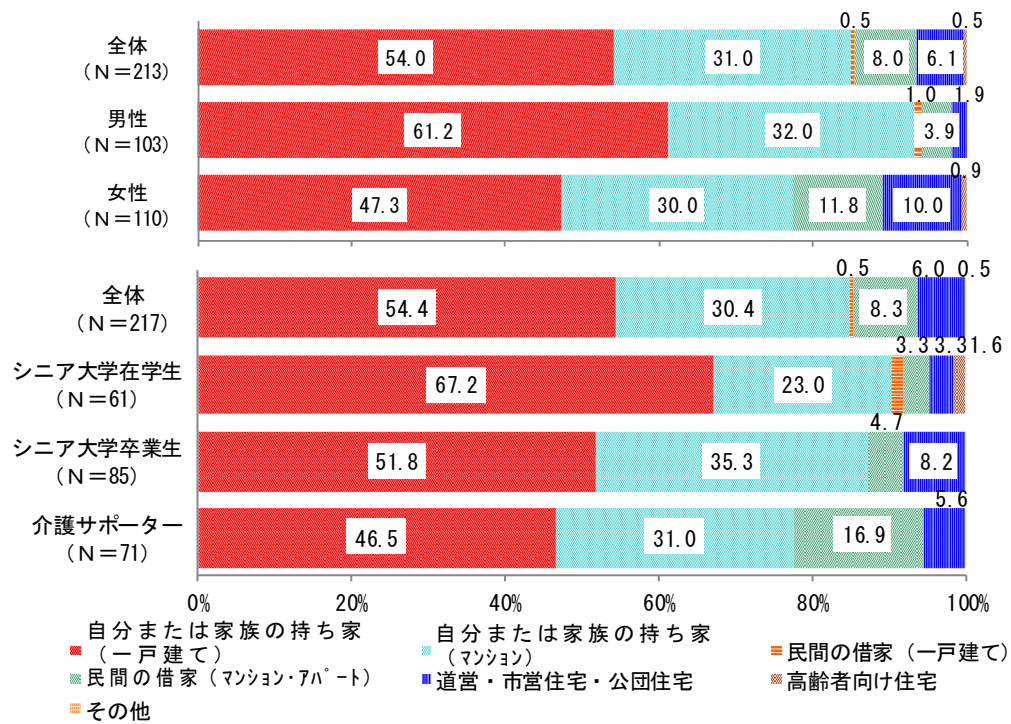


図 1-5-2 性別・調査対象事業別 × 居住形態

⑥現在の就業形態

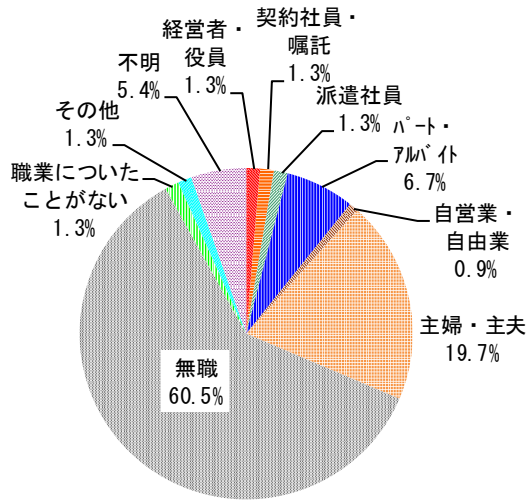


図 1-6 現在の就業形態 (SA: N=223)

⑦最長の就業形態

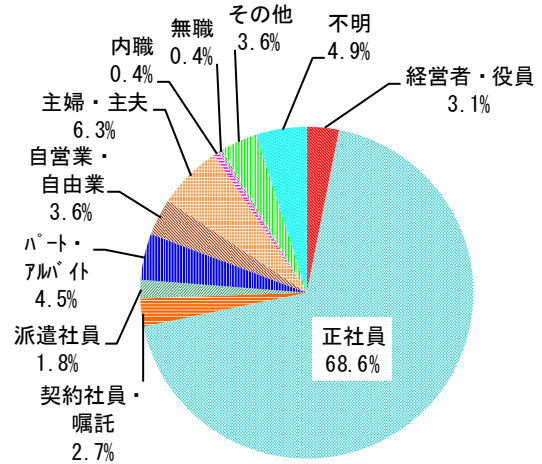


図 1-7 最長の就業形態 (SA: N=223)

⑧現在の余暇時間

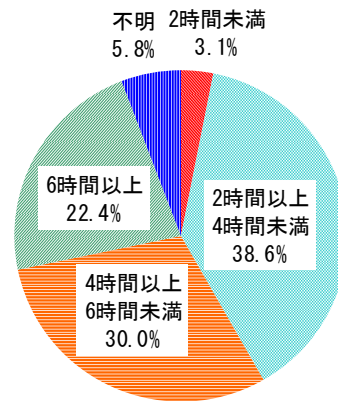


図 1-8-1 現在の余暇時間 (SA: N=223)

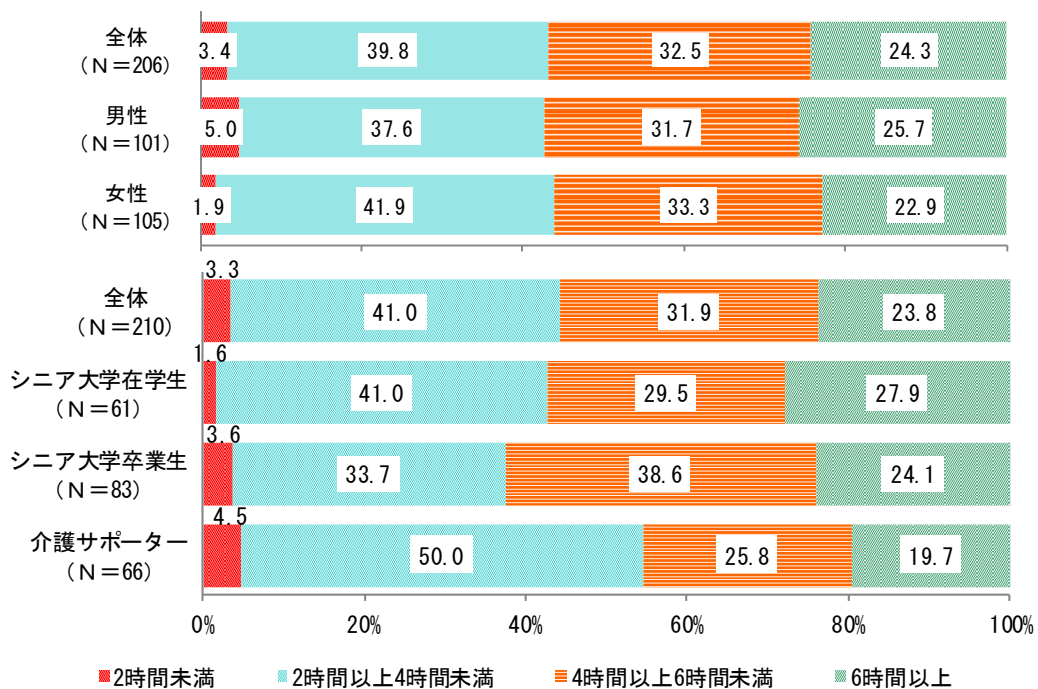


図 1-8-2 性別・調査対象事業別×現在の余暇時間

⑨外出頻度

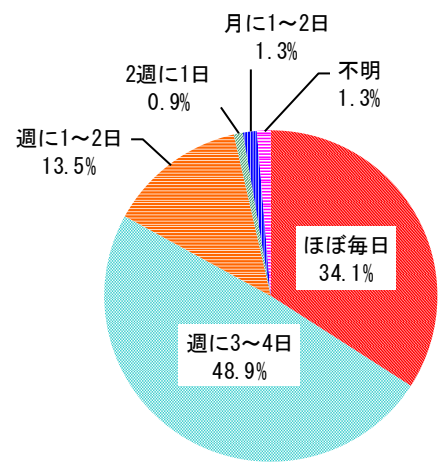


図 1-9-1 外出頻度 (SA: N=223)

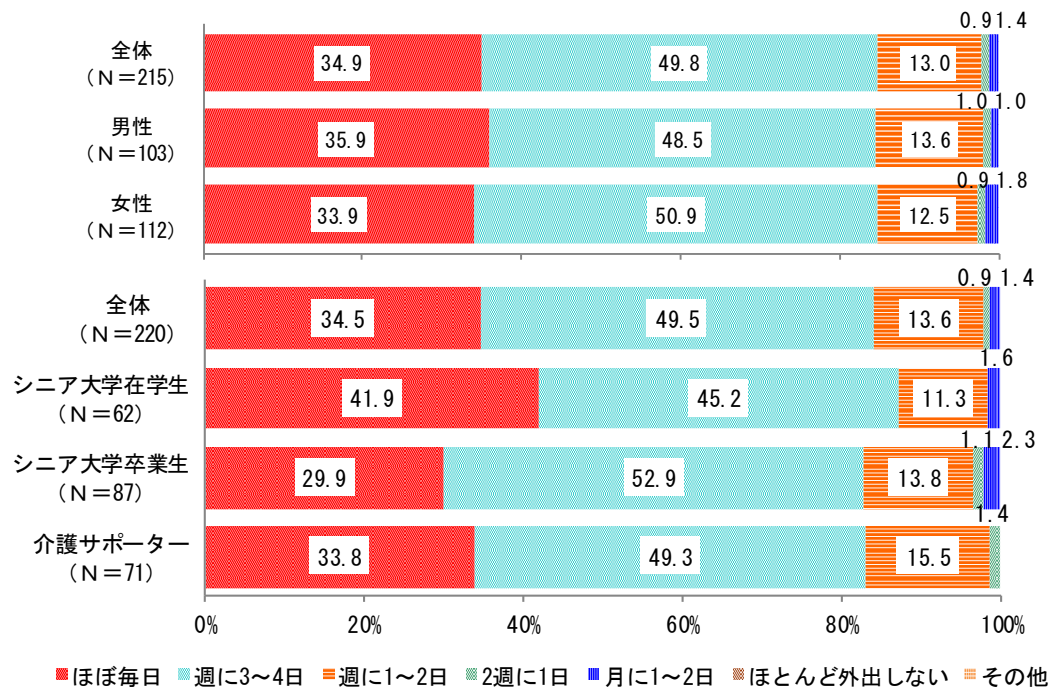


図 1-9-2 性別・調査対象事業別×外出頻度

(2) 交流・社会参加活動について

① 調査対象事業別の内訳

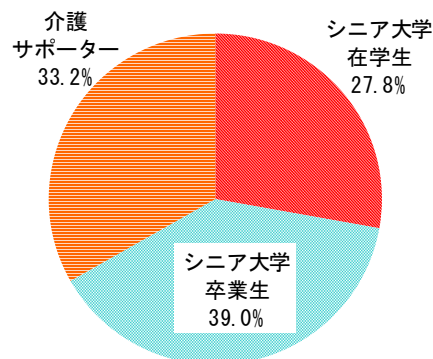


図 2-1 調査対象事業別内訳[再掲]
(SA: N=223)

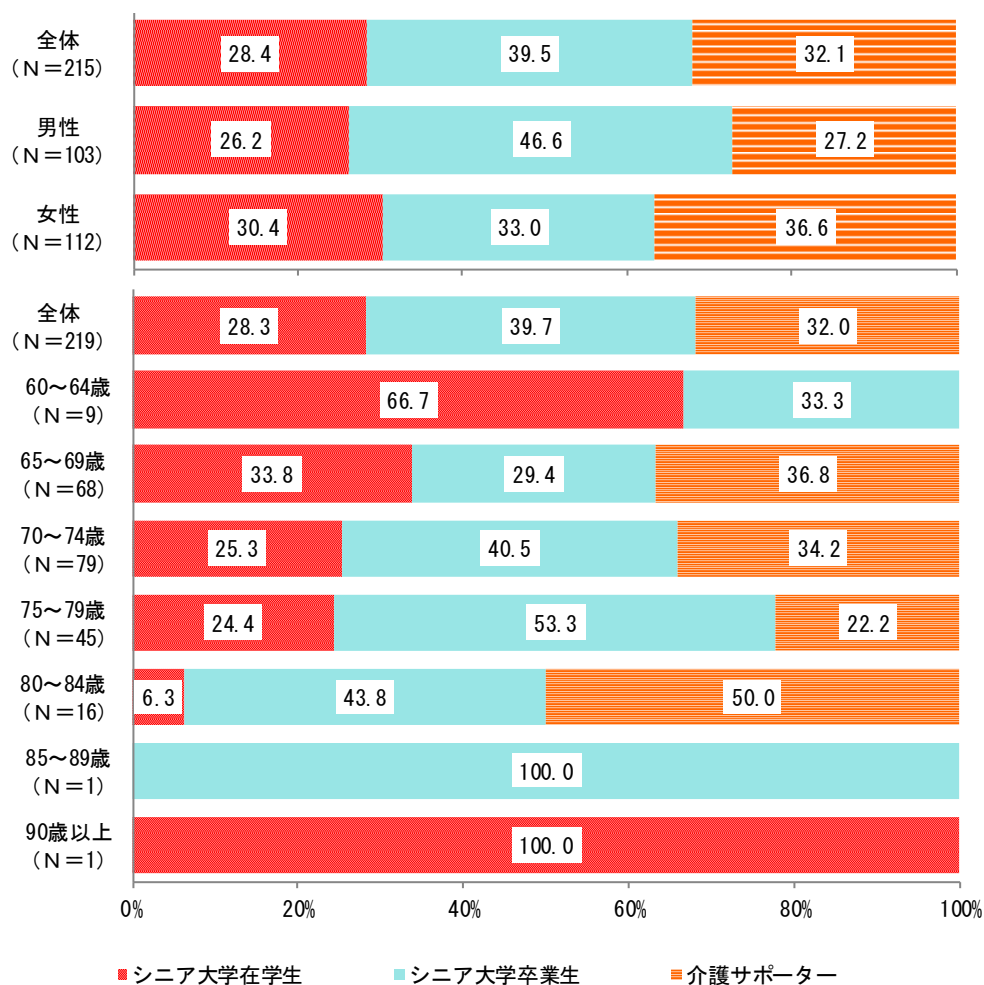


図 2-2 性別・年代 × 調査対象事業別内訳

②調査対象事業以外の活動内容

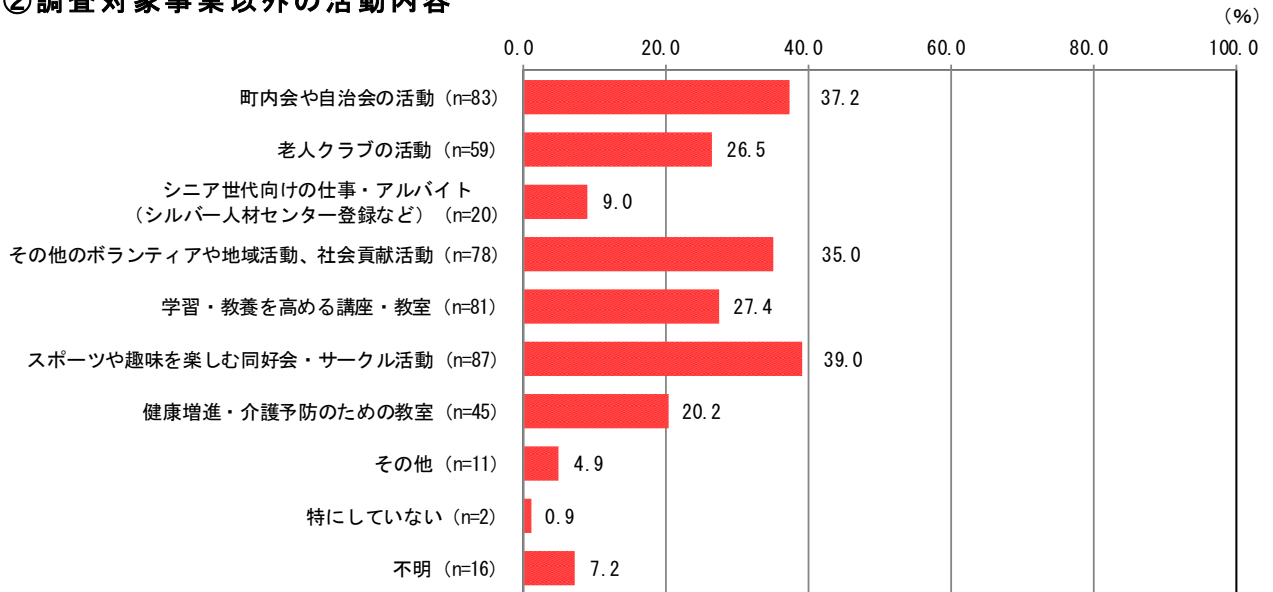


図 2-2-1 調査対象事業以外の活動内容 (MA: N=223)

表 2-2-1 性別・調査対象事業別×調査対象事業以外の活動内容

	町内会や自治会の活動	老人クラブの活動	シニア世代向けの仕事・アルバイト	その他のボランティアや地域活動	学習・教養を高める講座・教室	スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動	健康増進・介護予防のための教室	その他	特にしていない
全体 (N=203)	39.4	28.6	9.9	37.9	30.0	41.9	21.7	4.9	1.0
男性 (N=97)	44.3	30.9	15.5	36.1	30.9	44.3	19.6	3.1	1.0
女性 (N=106)	34.9	26.4	4.7	39.6	29.2	39.6	23.6	6.6	0.9
全体 (N=207)	40.1	28.5	9.7	37.7	29.5	42.0	21.7	5.3	1.0
シニア大学在学学生 (N=60)	43.3	28.3	8.3	35.0	33.3	40.0	21.7	6.7	0.0
シニア大学卒業生 (N=82)	48.8	41.5	9.8	35.4	29.3	46.3	23.2	3.7	2.4
介護サポーター (N=65)	26.2	12.3	10.8	43.1	26.2	38.5	20.0	6.2	0.0

②-2 調査対象事業以外の活動内容[その他]

表 2-2-2 調査対象事業以外の活動内容[その他](FA:N=11)

項目	件数 (件)	主な回答
ボランティア・NPO 活動	5	●子育てサロンや養護学校などでの読み聞かせ ●開拓村村民。年に何回かお手伝い。 ●マンションの理事長と独居老人等のことで検討中 ●特養老人ホームボランティア ●NPO で活動
講座受講	4	●豊平区創造学園(2件) ●介護職員初任者研修通信講座受講 ●男の料理教室
健康づくり	3	●プールに通う ●筋トレ・ウォーキング ●すこやか倶楽部

③活動を始めたきっかけ

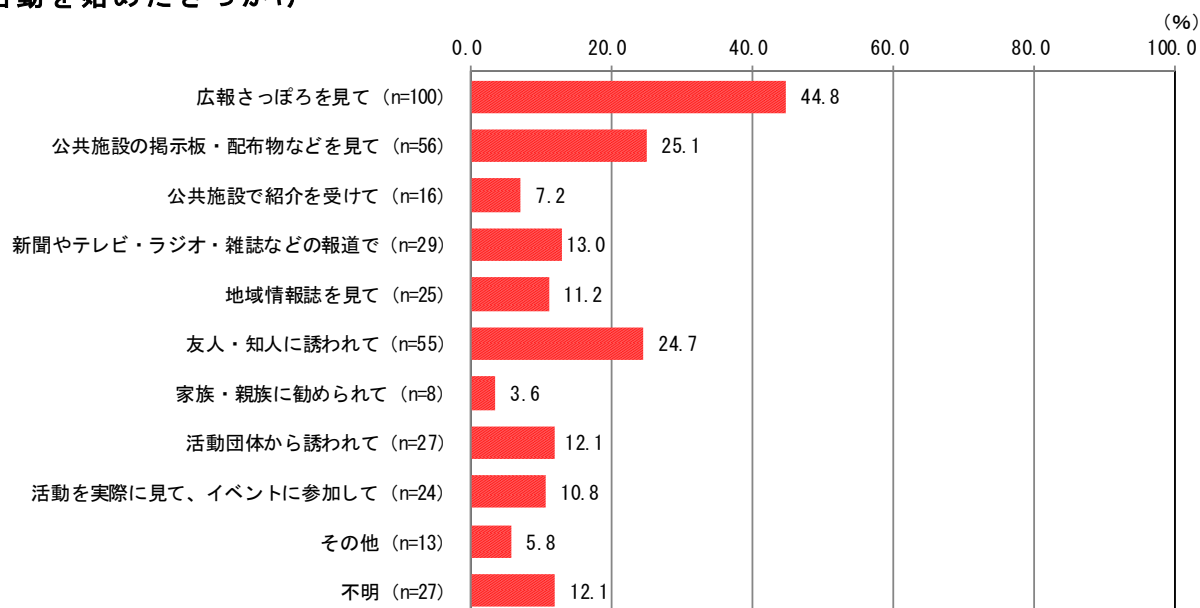


図 2-3-1 活動をはじめたきっかけ (MA: N=223)

表 2-3-1 性別・調査対象事業別 × 活動をはじめたきっかけ

	広報さっぽろを見て	公共施設の掲示板・配布物	公共施設で紹介を受けて	新聞やテレビ・ラジオ・雑誌などの報道で	地域情報誌を見て	友人・知人に誘われて	家族・親族に勧められて	活動団体から誘われて	活動を実際に見て、イベントに参加して	その他
全体 (N=191)	50.8	28.8	7.9	14.7	13.1	28.8	4.2	14.1	12.0	6.8
男性 (N=95)	52.6	31.6	8.4	23.2	13.7	27.4	6.3	12.6	10.5	6.3
女性 (N=96)	49.0	26.0	7.3	6.3	12.5	30.2	2.1	15.6	13.5	7.3
全体 (N=196)	51.0	28.6	8.2	14.8	12.8	28.1	4.1	13.8	12.2	6.6
シニア大学在学学生 (N=53)	50.9	32.1	7.5	11.3	5.7	34.0	9.4	11.3	11.3	
シニア大学卒業生 (N=82)	53.7	20.7	8.5	19.5	22.0	30.5	3.7	18.3	18.3	6.1
介護サポーター (N=61)	47.5	36.1	8.2	11.5	6.6	19.7		9.8	4.9	13.1

③-2 活動を始めたきっかけ[その他] (FA : N=13)

表 2-3-2 性別 × 活動を始めたきっかけ

項目	件数 (件)	主な回答
自分の気持ちや 問題意識から	7	●地域に長く住んでいることへの恩返し ●退職後は地元に戻り、地域密着で活動しようと決めていた ●時間ができたらボランティアをしたいと思っていた ●以前から社会参加活動に関心があったため ●自分が病気になり、治癒していく中で、世の中の役にたち自分の喜びとしたいと思うようになった ●自分から世間を見る良い場所・自らの問題意識
講座受講・紹介等を通じて	5	●社会福祉協議会からの紹介 ●ボランティアに関する講座を受けて[社協等](2件) ●前職での阪神大震災の時のボランティア休暇の経験
その他	1	●活動はしていない

④活動を始めた時期のライフイベント

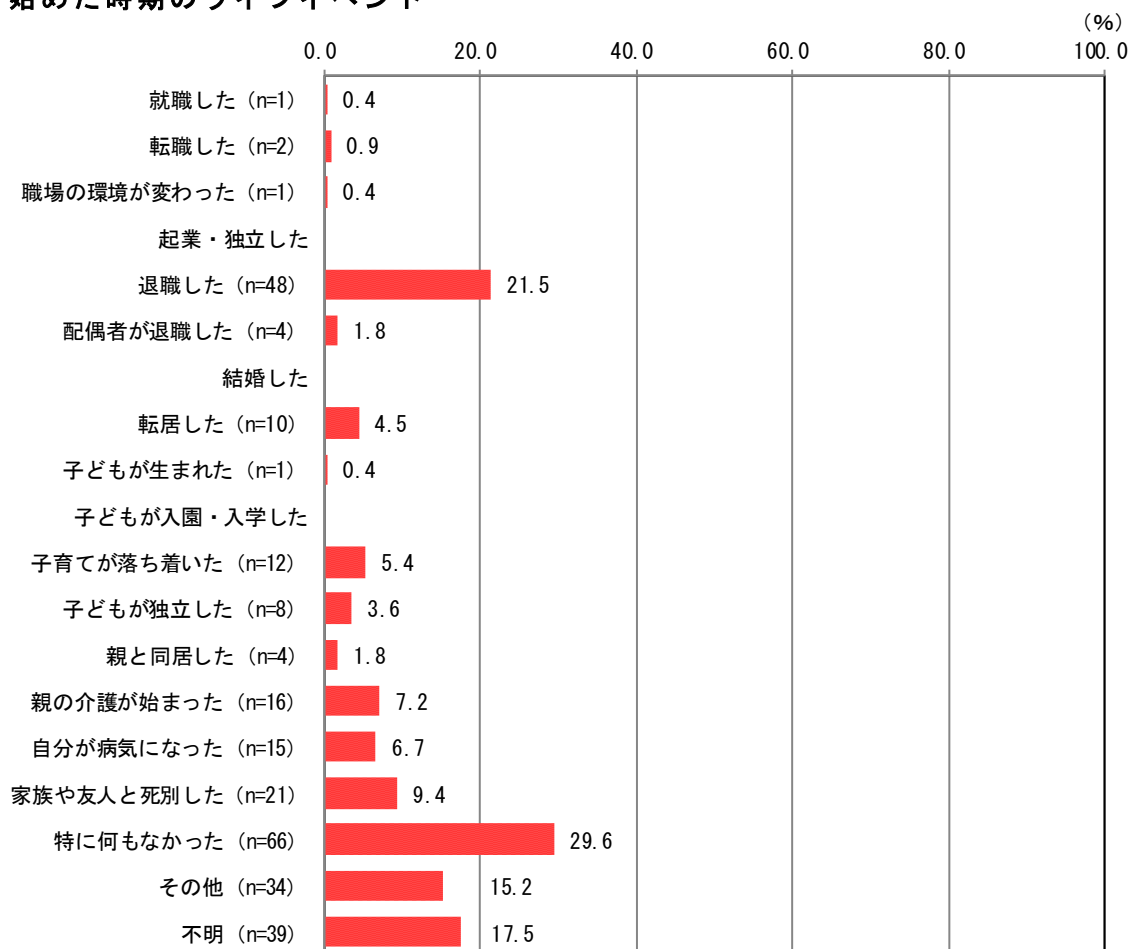


図 2-4-1 活動を始めた時期のライフイベント(MA: N=223)

④-2 活動を始めた時期のライフイベント[その他]

表 2-4-1 活動を始めた時期のライフイベント(N=34)

項目	件数 (件)	主な回答
事業などをきっかけに活動を始めようと思った	12	●社会活動に参加する機会が増えた ●居住マンションで高齢者対策を始めようと検討中 ●高齢者大学が終了した ●生涯学習は必要。学びを続けている ●地域社会に飛び込んでいきたい ●町内会役員になった ●友人・老人クラブ交流会・ボランティア活動中に勧められて ●町内会活動を継続。老人クラブ運営・クラブ活動の企画中 ●シルバー人材センターで活動中
病気になった	7	●配偶者(3件) ●自分(2件) ●兄弟(2件) ●友人
介護が始まった・終わった	5	●両親が施設に入った ●両親の介護を終えた(2件) ●以前介護施設で働いていた ●親と気が合わない
孫・子	3	●孫が生まれた ●孫が入園・入学した ●子が転職した
死別	2	●配偶者 ●両親
時間	2	●自分自身を見直すようになった ●自由になる時間ができた
恩返し	2	●いろいろな人にお世話になっているので
その他	1	●退職

表 2-4-2 性別・調査対象事業別×活動を始めた時期のライフイベント

	就職した	転職した	職場の環境が変わった	起業・独立した	退職した	配偶者が退職した	結婚した	転居した	子どもが生まれた	子どもが入園・入学した
全体 (N=180)	0.6	1.1	0.6		26.1	2.2		5.0	0.6	
男性 (N=87)	1.1	2.3			39.1	1.1		5.7	1.1	
女性 (N=93)			1.1		14.0	3.2		4.3		
全体 (N=184)	0.5	1.1	0.5		26.1	2.2		5.4	0.5	
シニア大学在学学生 (N=50)		2.0			30.0	6.0		6.0	2.0	
シニア大学卒業生 (N=74)					21.6			2.7		
介護サポーター (N=60)	1.7	1.7	1.7		28.3	1.7		8.3		
	子育てが落ち着いた	子どもが独立した	親と同居した	親の介護が始まった	自分が病気になった	家族や友人と死別した	特に何もなかった	その他	不明	
全体 (N=184)	6.5	4.3	2.2	8.7	8.2	11.4	35.9	18.5	1.0	
シニア大学在学学生 (N=50)	8.0	2.0	4.0	12.0	8.0	4.0	34.0	20.0	0.0	
シニア大学卒業生 (N=74)	4.1	1.4		4.1	8.1	13.5	43.2	23.0	2.4	
介護サポーター (N=60)	8.3	10.0	3.3	11.7	8.3	15.0	28.3	11.7	0.0	
全体 (N=180)	6.7	4.4	2.2	8.3	7.8	11.7	35.6	18.9	1.0	
男性 (N=87)	3.4	3.4	2.3	9.2	10.3	3.4	31.0	18.4	0.0	
女性 (N=93)	9.7	5.4	2.2	7.5	5.4	19.4	39.8	19.4	2.4	

⑤活動をしている理由

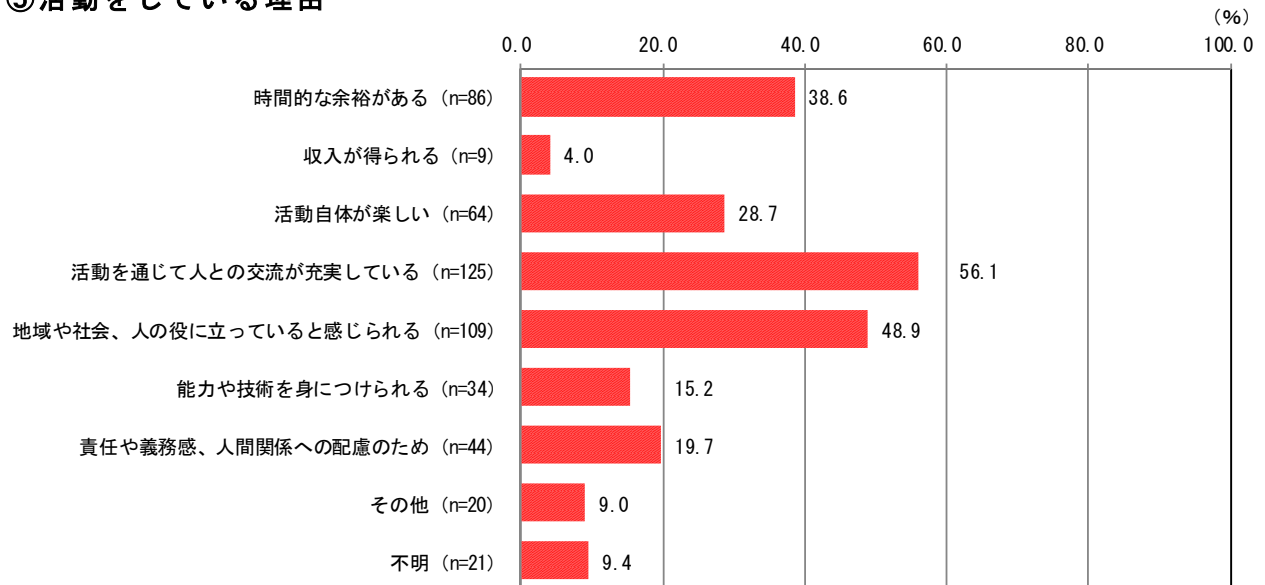


図 2-5-1 活動をしている理由 (MA: N=223)

表 2-5-1 性別・調査対象事業別・活動を始めた時期のライフイベント×活動をしている理由

	時間的な余裕がある	収入が得られる	活動自体が楽しい	活動を通じて人との交流が充実している	地域や社会、人の役に立っていると感じられる	能力や技術を身につけられる	責任や義務感、人間関係への配慮のため	その他
全体 (N=197)	43.1	4.1	32.0	62.4	54.3	16.2	21.8	9.6
男性 (N=98)	45.9	4.1	23.5	65.3	55.1	12.2	24.5	10.2
女性 (N=99)	40.4	4.0	40.4	59.6	53.5	20.2	19.2	9.1
全体 (N=202)	42.6	4.5	31.7	61.9	54.0	16.8	21.8	9.9
シニア大学在学学生 (N=57)	47.4	3.5	31.6	70.2	42.1	17.5	21.1	1.8
シニア大学卒業生 (N=83)	41.0	3.6	33.7	71.1	53.0	10.8	19.3	13.3
介護サポーター (N=62)	40.3	6.5	29.0	41.9	66.1	24.2	25.8	12.9
全体 (N=173)	40.5	4.0	31.8	61.8	54.3	18.5	22.0	11.6
退職した (N=48)	45.8	8.3	29.2	58.3	62.5	18.8	27.1	16.7
子育てが落ち着いた (N=12)	33.3	8.3	41.7	75.0	58.3	8.3	16.7	8.3
親の介護が始まった (N=15)	46.7	6.7	46.7	60.0	66.7	20.0	20.0	
自分が病気になった (N=13)	61.5		23.1	53.8	76.9	7.7	15.4	23.1
家族や友人と死別した (N=17)	29.4		35.3	70.6	47.1	11.8	29.4	5.9
特に何もなかった (N=61)	45.9	3.3	39.3	65.6	47.5	23.0	23.0	8.2
その他 (N=33)	42.4	6.1	30.3	63.6	48.5	15.2	24.2	24.2

⑤-2 活動をしている理由[その他]

表 2-5-2 活動をしている理由[その他](FA:N=20)

項目	件数 (件)	主な回答
自分のため	11	●人との交流が楽しい ●話好きな性格なので ●前向きに生きていくため ●自分自身を見つめ直し、反省の場となる・社会を見つめる ●高齢者及び子どもとの接点を大切にし常に自分も学ぶ ●自分の知識や経験・技術を活かせる ●自分のため ●自分を取り残されないため ●理由などない。私ができることで地域の役に立ちたい
健康づくり	3	●健康寿命を長くすること ●体力に自信がある。訓練を続ける ●健康のため同好会に入ったら大変良かった
その他	3	●作業所ボランティアをしている ●がん啓発活動のため ●活動はしていない

⑤-3 活動を始めた時期のライフイベント×活動をしている理由

表 2-5-3 活動を始めた時期のライフイベント×活動をしている理由

	時間的な余裕がある	収入が得られる	活動自体が楽しい	活動を通じて人との交流が充実している	地域や社会、人の役に立っていると感じられる	能力や技術を身につけられる	責任や義務感、人間関係への配慮のため	その他
全体 (N=173)	40.5	4.0	31.8	61.8	54.3	18.5	22.0	11.6
退職した (N=48)	45.8	8.3	29.2	58.3	62.5	18.8	27.1	16.7
子育てが落ち着いた (N=12)	33.3	8.3	41.7	75.0	58.3	8.3	16.7	8.3
親の介護が始まった (N=15)	46.7	6.7	46.7	60.0	66.7	20.0	20.0	
自分が病気になった (N=13)	61.5		23.1	53.8	76.9	7.7	15.4	23.1
家族や友人と死別した (N=17)	29.4		35.3	70.6	47.1	11.8	29.4	5.9
特に何もなかった (N=61)	45.9	3.3	39.3	65.6	47.5	23.0	23.0	8.2
その他 (N=33)	42.4	6.1	30.3	63.6	48.5	15.2	24.2	24.2

*「活動をはじめた時期のライフイベント」については全体に占める割合が5%以上の選択肢のみを挙げている。

⑥活動をしている中での課題や問題

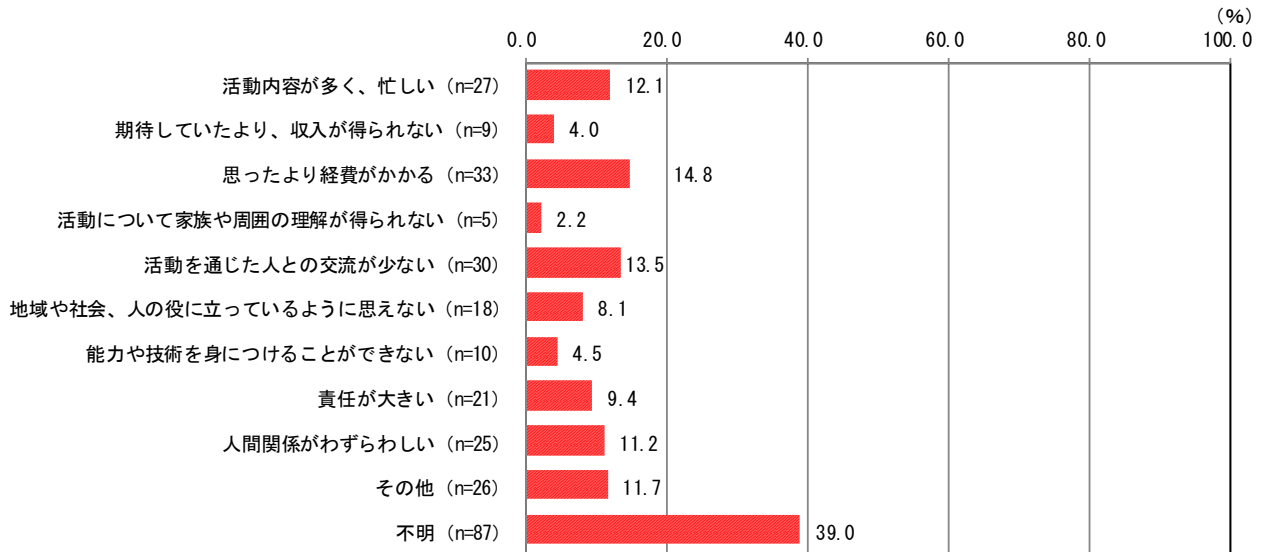


図 2-6 活動をしている中での課題や問題 (MA: N=223)

表 2-6-1 性別・調査対象事業別 × 活動をしている中での課題や問題

	活動内容が多く、忙しい	期待していたより、収入が得られない	思ったより経費がかかる	活動について家族や周囲の理解が得られない	活動を通じた人との交流が少ない	地域や社会、人の役に立っているように思えない	能力や技術を身につけることができない	責任が大きい	人間関係がわずらわしい	その他
全体 (N=132)	19.7	6.1	24.2	3.0	22.7	12.9	7.6	15.2	18.9	19.7
男性 (N=77)	16.9	3.9	29.9	2.6	20.8	14.3	10.4	18.2	15.6	16.9
女性 (N=55)	23.6	9.1	16.4	3.6	25.5	10.9	3.6	10.9	23.6	23.6
全体 (N=202)	19.9	6.6	24.3	3.7	22.1	13.2	7.4	15.4	18.4	19.1
シニア大学在学学生 (N=38)	39.5	5.3	28.9	7.9	7.9	10.5	10.5	21.1	21.1	10.5
シニア大学卒業生 (N=60)	18.3	3.3	23.3	1.7	21.7	11.7	5.0	18.3	20.0	31.7
介護サポーター (N=38)	2.6	13.2	21.1	2.6	36.8	18.4	7.9	5.3	13.2	7.9

⑥-2 活動をしている中での課題・問題[その他]

表 2-6-2 性別 × 活動している中での課題や問題 (FA: N=26)

項目	件数 (件)	主な回答
参加者が増えない	5	●老人クラブの加入者が少なく、退会者が増える傾向 ●老人クラブのマンネリ化。役員の占有化 ●参加者が増えない ●活動の重要性は認識していても表面だけ ●活動の場が少なく、参加する事が少ない
人間関係・意見の食い違い	4	●年代が幅広く意見の違いが生ずる。アンケート等で調整 ●前年踏襲が多く、改善進歩意欲がない ●住民の苦情が多い、住民のわがまま ●人間関係が難しいが交流と思って前向きに捉えている ●活動より個人への関心が強い人との付き合いがストレス
役員・運営の問題	3	●役員をする人があまりいない ●労力がかかるが、高齢者というだけで報酬が低い ●町内住民の高齢化により、後継者が見つからない
担い手の高齢化	3	●高齢化による体力や能力の衰え ●幅広い年齢の方がいるのはわかるが、あまり年寄り扱いされると悲しい
特に問題はない	2	●自分から進んで行っているので問題はない ●何をしても楽しくできる
これから活動する・したい	2	●これから活動を始めたい ●活動しようと思いつながら、不安で進まない
その他	7	●特になし ●活動はしていない ●世話役として ●IT機器の進歩についていけない。 ●ボランティア活動に経費がかかり過ぎる ●病院の付添いなど屋無を得ない事情で休まざるを得ない

(3) シニア大学について

①シニア大学で学んだことは活動に役立っているか

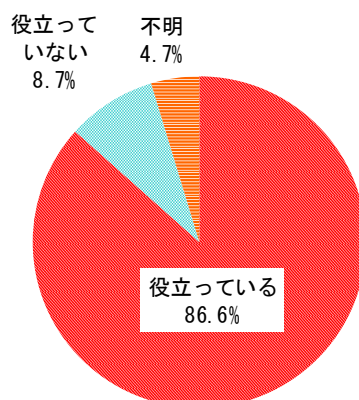


図 3-1 シニア大学で学んだことは活動に役立っているか (SA: N=149)

①-2 シニア大学で学んで役に立った講座[自由回答]

表 3-1-1 シニア大学で学んで役に立った講座 (FA: N=178)

項目	件数	主な回答
健康づくり・介護予防 介護や認知症について	55 (30.9%)	●健康づくり・健康管理・食生活等について(27 件、15.2%) ●ウォーキング・フィットネス・パークゴルフ等の運動(17 件、9.6%) ●介護・認知症の問題や施設等について(11 件、6.2%)
高齢者の日常生活 に役立つこと	48 (27.0%)	●生き方・生きがいづくり・ライフデザインについて(20 件、11.2%) ●エンディングノート記入法等、終活や断捨離について(8 件、4.5%) ●法律・相続・社会保険等(8 件、4.5%) ●高齢者の消費者問題やまちの安全安心について(5 件、2.8%) ●各区地域資源情報(2 件、1.1%)
自治会活動・自主研 究・施設見学	27 (15.2%)	●施設見学[介護施設・病院等、原子力・水力発電](13 件、7.1%) ●自主研究(5 件、2.8%) ●自治会活動(5 件、2.8%) ●老人クラブ訪問(4 件、2.2%)
地域活動・ボランティア について	25 (14.0%)	●地域活動やまちづくりについて(10 件、5.6%) ●ボランティア活動について(10 件、5.6%) ●日ごろの見守り活動・孤立防止等について(5 件、2.8%)
学び・講演	9 (5.1%)	●アイヌ民族の歴史(2 件、1.1%) ●コミュニケーション・リーダーシップ論(2 件、1.1%) ●相田みつをについて(2 件、1.1%) ●講演[チーム三浦]に学ぶ(1 件) ●星について(1 件)
友人・仲間との交流	6 (3%)	●2 年間で共に学ぶ仲間ができた ●同窓会にも継続して、人とのつながりが広がっている・・など
その他	14 (7.9%)	●広く浅く知識を得ることができた ●特定の講座ではなく、講座全般を通じて役だっている ●特に役だっているものはない・・など

①-3 シニア大学で学んだことが役に立っていない理由[自由回答]

表 3-1-2 シニア大学で学んだことが役に立っていない理由 (FA: N=10)

項目	件数 (件)	主な回答
活動に関わる講座が少ない	3	●老人クラブ・町内会の必要性や活性化、リーダー育成講座が少ない ●高齢福祉介護問題等は既に学び、税や相続等は高度で地域の中で生かすことができない ●老人クラブでシニア大学で学んだことを伝える所が何となくないので
講座の後には残らなかった	3	●講義内容が広範囲で脈略がない ●その時はなるほどと思うが、後につながる事柄がないなど
その他	3	●講義内容が古い、マンネリ ●学ぶまでもない内容が多い ●相田みつをとか、三浦雄一郎さんとか

②シニア大学で得られたことは何か

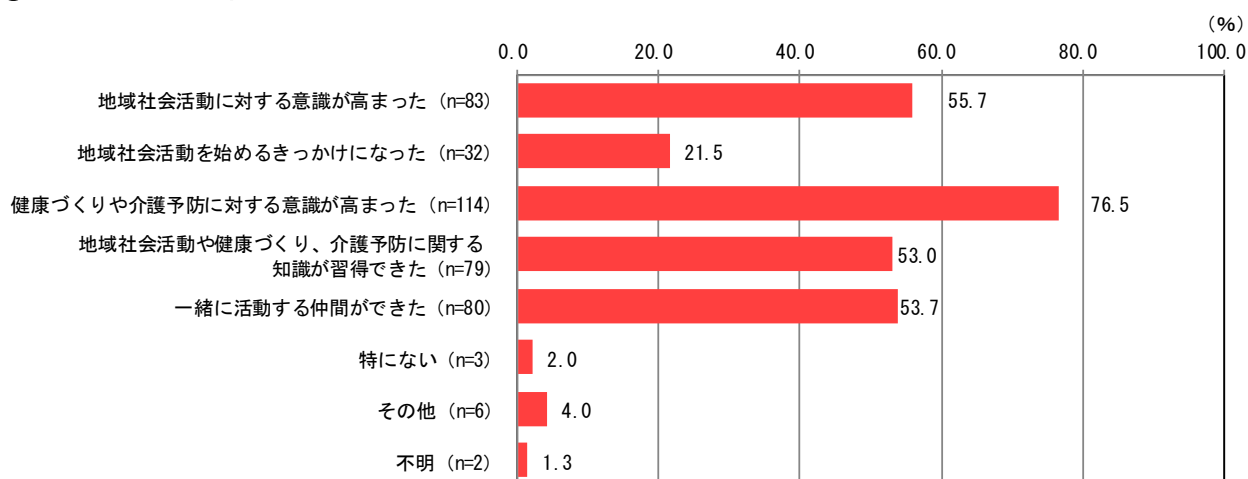


図 3-2 シニア大学で得られたことは何か (MA: N=149)

表 3-2 性別・調査対象事業別 × シニア大学で得られたことは何か

	ま地 つ域 た社 会 活 動 に 対 す る 意 識 が 高	き地 つ域 か社 会 に 活 動 を 始 め る	意健 識康 が づ 高 く り や 介 護 予 防 に 対 す る	た護 域 予 防 に 関 す る や 健 康 が づ く り 、 介	が一 で緒 に 活 動 す る 仲 間	特 に な い	そ の 他
全体 (N=144)	56.3	22.2	78.5	52.8	55.6	2.1	4.2
男性 (N=75)	58.7	20.0	78.7	52.0	57.3		4.0
女性 (N=69)	53.6	24.6	78.3	53.6	53.6	4.3	4.3
全体 (N=147)	56.5	21.8	77.6	53.7	54.4	2.0	4.1
シニア大学在学学生 (N=61)	55.7	29.5	82.0	55.7	49.2	1.6	1.6
シニア大学卒業生 (N=86)	57.0	16.3	74.4	52.3	58.1	2.3	5.8

②-2 シニア大学で得られたこと[その他] (FA : N=6)

- 札幌市の10区の人と出来るだけ交流に努めたことにより、他区の町内会・老人クラブ活動等を習得できたので地域に貢献したい。
- 入学しなければ会えなかったであろう人たちと交流することができるようになった。
- 数人の友達ができ、卒業後も続いている。卒論発表でテーマをまとめる考え方を知った。
- 高齢化が進む中での今後の生き方、あり方に対して責任が与えられた気がする。
- 個人ではなかなか訪問できない老人ホーム、あるいは老人クラブの見学などが、とてもためになりました。

③受講期間（2年間）は適当か

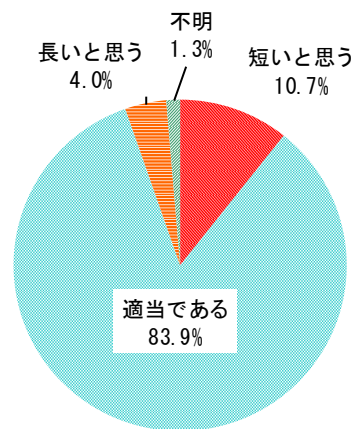


図 3-3 受講期間(2年間)は適当か
(SA: N=149)

③-2 受講期間が「短いと思う」理由

表 3-3-1 受講期間が「短いと思う」理由 (FA: N=16)

項目	件数 (件)	主な回答
3年制が良い	6	●1年目は不慣れ。2年目は忙しい。行動・活動につなげるにはあと1年あるほうが良い(4件) ●月2回程度で3年間が良い(2件)
学びや人間関係をもっと充実させたい	6	●人間関係が出来上がらないうちに卒業(3件) ●地域社会活動や健康づくり・介護予防、その他いろいろな講義をもっと聞きたい(2件) ●自治会活動を充実させるには3年間が良い(1件)
その他	3	●2年で良いが、卒業後の大学院を設置してほしい ●再受講を可能にしてほしい ●今の月2日→月3日程度にしてほしい

3) -3 受講期間が「長いと思う」理由

表 3-3-2 受講期間が「長いと思う」理由 (FA: N=6)

項目	件数 (件)	主な回答
1 年制で良い	4	● 1 年と 2 年で重複している課目があるので (3 件) ● 1 年で単位は取得できる (1 件)

④ シニア大学に取り入れられたら良いと思う講座 [自由回答]

表 3-4 シニア大学に取り入れられたら良いと思う講座 (FA: N=87)

項目	件数	主な回答
健康づくり・介護予防 介護や認知症について	12 (13.8%)	● 運動の講座やクラブ活動の実施 (5 件、5.7%) ● 介護・認知症等について (4 件、4.6%) ● 健康管理・食生活等について (3 件、3.4%)
高齢者の日常生活 に役立つこと	12 (13.8%)	● 生き方・生きがいづくり・ライフデザインについて (8 件、9.2%) ● 高齢者の消費者問題やまちの安全安心について (4 件、4.6%)
シニア大学の自治会活動 自主研究・施設見学	8 (9.2%)	● 参加・体験型の講座 (5 件、5.7%) ● 討議・対話・グループワーク (3 件、3.4%)
地域活動・ボランティア について	20 (23.0%)	● 町内会・自治会・老人クラブの活動事例や活性化について (11 件、12.6%) ● 日ごろの見守り活動・孤立防止等について (3 件、3.4%) ● 活動で生かせる技術 [企画づくり・プレゼン等] (2 件、2.3%) ● 活動参加に向けた支援 (2 件、2.3%) ● 病院や高齢者施設等での実習・ボランティア体験 (2 件、2.3%)
学び・講演	25 (28.7%)	● 音楽・歴史・文学について (6 件、6.9%) ● 自然・気象・環境・宇宙について (5 件、5.7%) ● 大学らしい専門的な講座 (4 件、4.6%) ● 国際・経済について (4 件、4.6%) ● 心理学・コミュニケーションについて (4 件、4.6%) ● 著名人の講演 (2 件、2.3%)
友人・仲間との交流	2 (2.3%)	● 受講者同士の親睦をはかる機会を増やしてほしい (2 件、2.3%)
その他	8 (9.2%)	● 今のままで良い (5 件、5.7%) ● 講師の質の向上 (2 件、2.3%) ● 1 年目と 2 年目で同じ講座がある (1 件、1.1%)

⑤町内会・自治会の活動開始時期

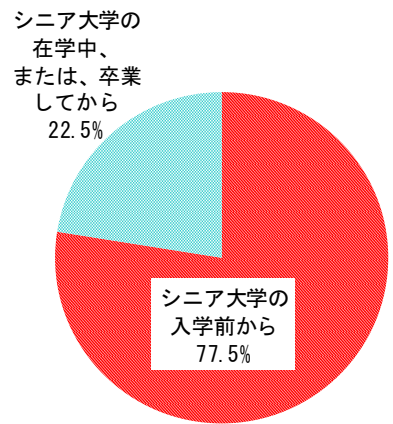


図 3-5-1 町内会・自治会活動開始時期 (SA: N=40)

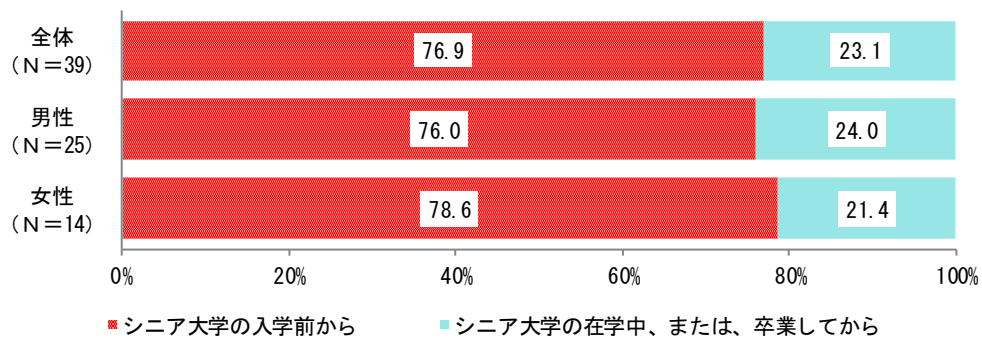


図 3-5-2 性別 × 町内会・自治会活動開始時期 (SA: N=40)

⑥町内会・自治会役員の就任時期

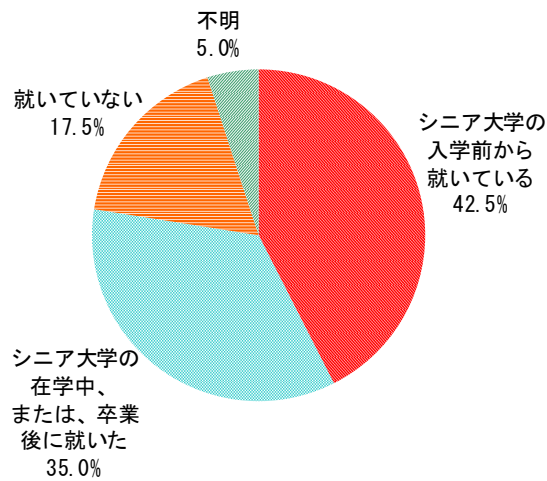


図 3-6-1 町内会・自治会役員就任時期 (SA: N=40)

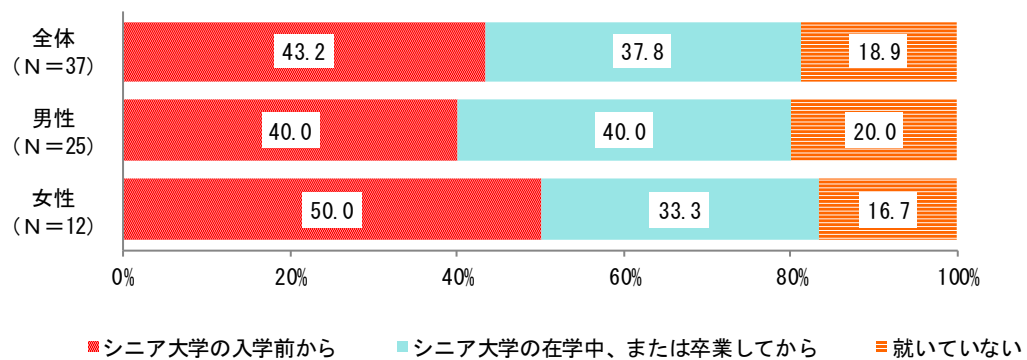


図 3-6-1 性別 × 町内会・自治会役員就任時期 (SA: N=37)

⑦老人クラブの加入時期

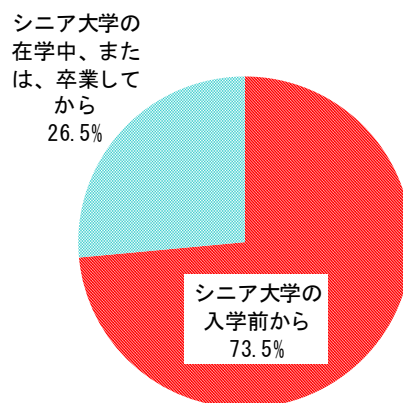


図 3-7-1 老人クラブ加入時期 (SA: N=34)

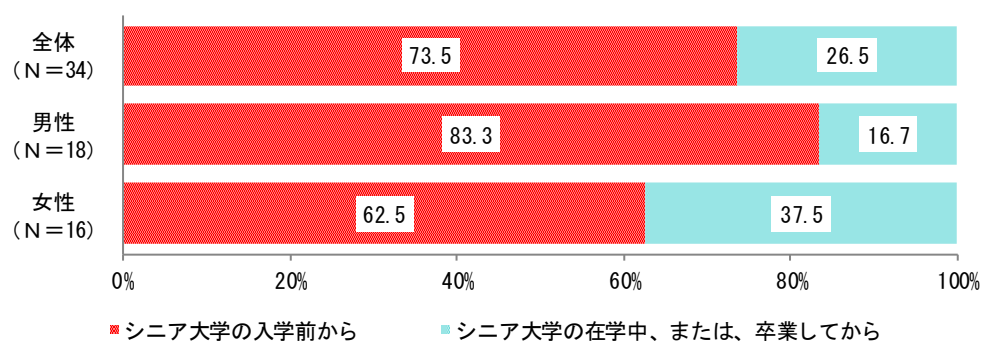


図 3-7-2 性別 × 老人クラブ加入時期 (SA: N=34)

⑧老人クラブの役員経験・就任時期

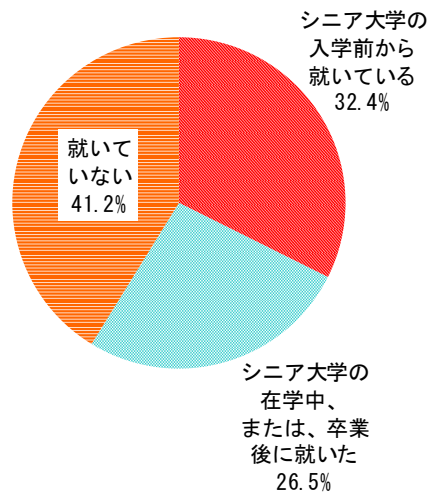
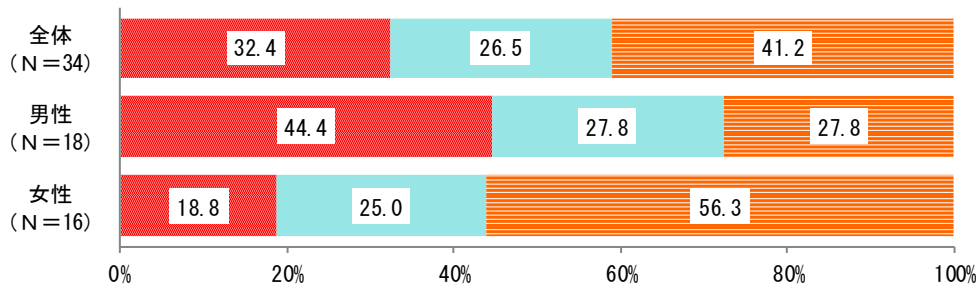


図 3-8-1 老人クラブの役員経験・就任時期 (SA:N=34)



■ シニア大学の入学前から就いている ■ シニア大学の在学中、または、卒業後に就いた ■ 就いていない

図 3-8-2 性別 × 老人クラブの役員経験・就任時期 (SA:N=34)

⑨ ボランティアや地域活動など社会貢献活動開始時期

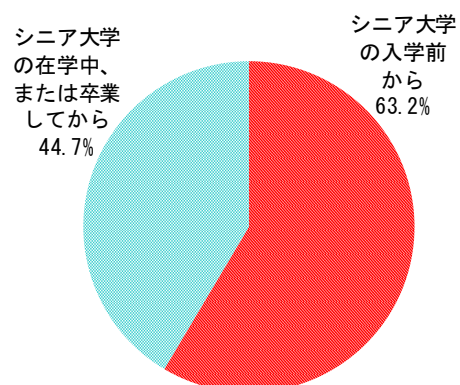


図 3-9-1 ボランティアや地域活動など社会貢献活動開始時期
(MA: N=38)

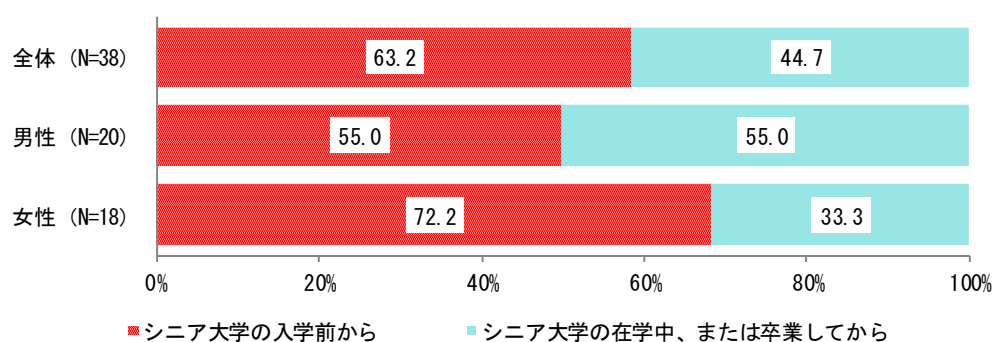


図 3-9-2 性別 × ボランティアや地域活動など社会貢献活動開始時期
(MA: N=38)

⑨-2【シニア大学卒業生限定】シニア大学入学前から始めていた活動内容

表 3-9-1 シニア大学入学前から始めていた活動内容（FA：N＝18）

項目	件数 (件)	主な回答
社会福祉ボランティア	10	●福まち事務局長、日赤奉仕団、更生保護女性部会、老人クラブ活動 ●福まちいきいきサロン ●一人暮らしの見守り ●地域福祉推進委員 ●食生活改善推進員 ●社会福祉協議会（ほっとぷらざ） ●サロン知的障害者施設での作業補助、託児、赤い羽根共同募金 ●老人施設慰問演奏会 ●傾聴ボランティア ●保護司
趣味・講座・健康づくり	4	●桑の木会、囲碁部 ●区のふれあい学園 ●パークゴルフ同好会（3ヶ所） ●厚生委員
老人クラブ	2	●老人クラブにて文化部として旅行案など ●むつみ会（茶話会）部屋から出て、皆で話し合い。
その他	2	●プレゼンインストラクター、パソコン教室講師 ●札幌国際プラザの外国語ボランティア

⑨-3【シニア大学卒業生限定】シニア大学在学中・卒業後から始めた活動内容

表 3-9-2 シニア大学在学中・卒業後から始めた活動内容 (FA: N=23)

項目	件数 (件)	主な回答
社会福祉ボランティア	13	● 市内の福祉 ● 交通安全母の会 ● 高齢者施設でボランティア (3 件) ● ほっとプラザに登録 [福祉除雪・庭仕事] (3 件) ● 食生活改善推進員 ● 西区やまべえ体操普及員 ● シニアサロン、クラブ主宰 ● いきいきサロン ● がん体験の語り手 ● ピンクリボンアドバイザー資格取得
趣味・講座・健康づくり	5	● 豊平区創造学園 (2 件) ● 高齢者大学 (2 件) ● コーラス・料理
その他ボランティア	5	● 防災活動 ● 日本昔話プレゼンター ● 北海道開拓の村ボランティア ● 札幌市観光ボランティア ● 北海道スポーツ連盟役員

⑩活動をしていない理由 (MA: N=3)

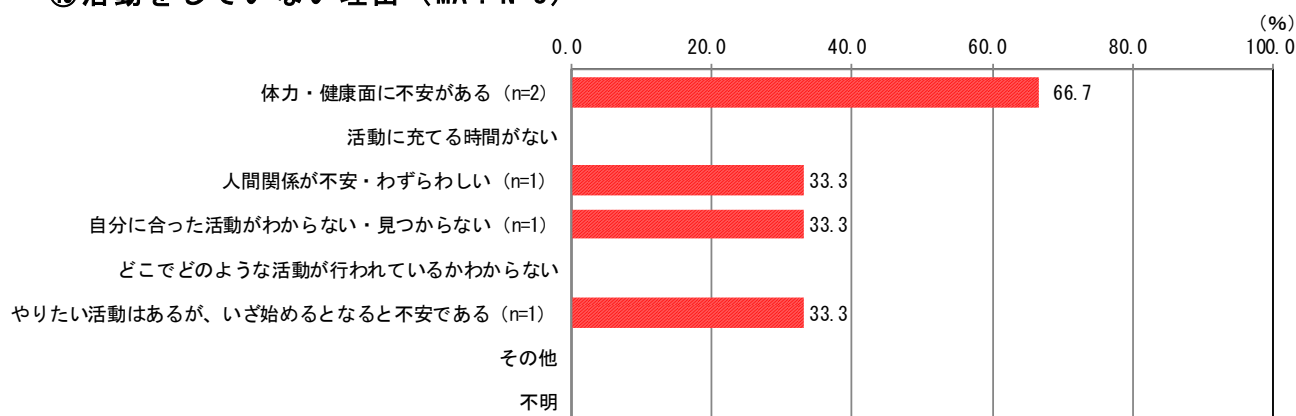


図 3-10 活動をしていない理由 (MA: N=3)

⑪【シニア大学卒業生限定】シニア大学の卒業年度

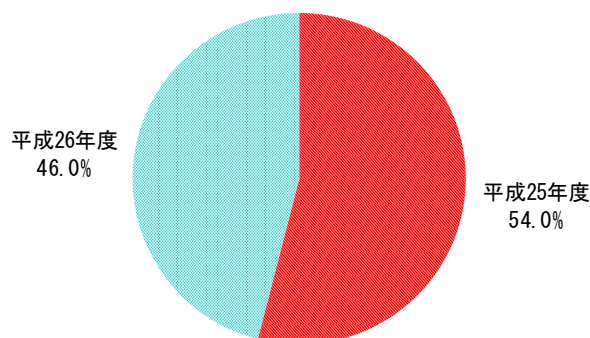


図 3-11 シニア大学の卒業年度 (SA: N=87)
(卒業生のみ)

⑫ シニア大学全般についての自由意見（FA：N=76）

表 3-12 シニア大学全般についての自由意見（FA：N=76）

項目	件数	主な回答
講義への評価	7 (9.2%)	●現在の活動に役立っている(5件) ●今の内容のままで良い(2件)
講義の内容・構成の改善	29 (38.2%)	●講座の充実に要望 ・1年目2年目の講義重複の解消(5件) ・内容が期待外れ(5件) ・講師のレベルアップを希望(3件) ●講座の内容への要望 ・体験・参加型講義の拡充(5件) ・「老人向け」の講義が多すぎる(4件) ・高齢者の生き方・生きがいづくりに関する講義の拡充(2件) ●講座の構成への要望 ・講義数が多い、時間・期間が長い(3件) ・その他[高齢者施設見学が多すぎる、卒業論文は不要](2件)
自治会活動・交流の促進	16 (21.1%)	●自治会役員以外の受講者が全区の受講者との交流できる機会を増やしてほしい(6件) ●仲間・友人ができ、活動の支えになった(4件) ●自治会活動の役割を増やし役員体験者を増やすほうが良い(3件) ●クラブ活動の設置・イベントの増大(3件)
自治会活動・交流に関する配慮	6 (7.9%)	●自治会活動や交流が負担(4件) ●自治会活動に否定的な人への配慮が必要(2件)
地域活動のリーダー育成	7 (9.2%)	●リーダー育成のために、60～70代の若手の受講を増やす(5件) ●シニア大学と地域とのつなぎ・周知が必要(2件)
卒業後のフォロー	5 (6.6%)	●大学院の設置(3件) ●同窓会への支援(1件) ●卒業生の講座聴講企画の拡充(1件)
受講生の募集	3 (3.9%)	●健康状態の確認 ●応募人数が多いので、抽選での可否決定は不公平 ●受講者数が多すぎる
その他	3 (3.9%)	●年齢が高くなると60代の人とのギャップが大きい ●冬の講座が終了したらアンケートを実施しては ●シニア大学に主催者の市職員も顔を出すべき

(4) 介護サポーターについて

①介護サポーターとしての活動状況

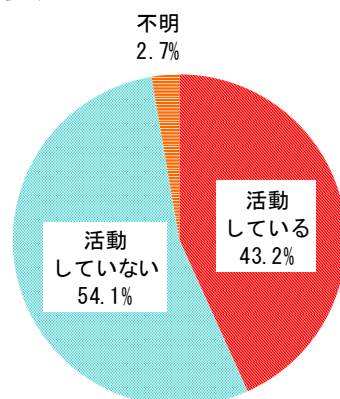


図 4-1-1 介護サポーターとしての活動状況
(SA: N=74)

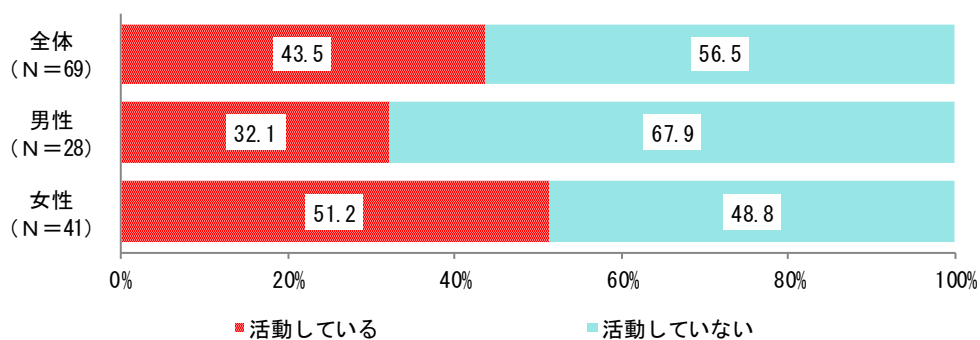


図 4-1-2 性別 × 介護サポーターとしての活動状況
(SA: N=69)

①-2（活動している人のうち）介護サポーターの活動頻度

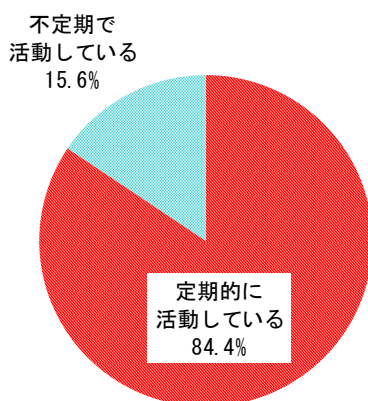


図 4-1-2 介護サポーターの活動頻度
(SA: N=32)

①-3 不定期で活動している人の活動頻度

- 年に3・4回、1回3時間くらい。
- 3か月に1回4時間。
- 要請の声が掛かれば出向いている。頻度は少ない。
- 一時的に仕事をしていた。

②介護サポーターの活動をしていない理由

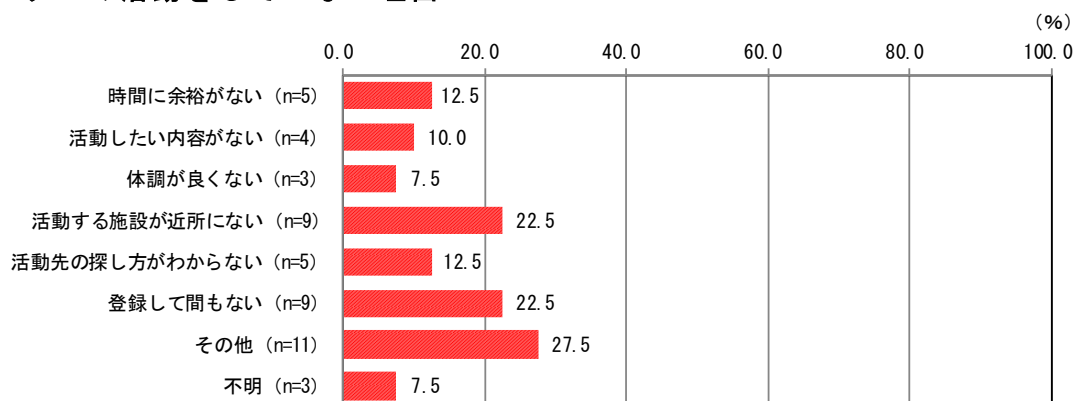


図 4-2 介護サポーターの活動をしていない理由 (MA: N=40)

②-2 介護サポーターの活動をしていない理由[その他]

表 4-2 介護サポーターの活動をしていない理由 (MA: N=11)

項目	件数 (件)	主な回答
まだ登録をしていない	4	●施設への声掛けが難しい ●電話で申し込むのが不得手 ●活動に自信がない など
予定が合わない	3	●自分の親の介護が始まった ●休日しかできない ●近隣の施設には間に合っていると断られた
他の活動をしている	1	●病院ボランティアをしている
その他	2	●今年1回だけ ●7年前に登録していた

③介護サポーターとしての今後の活動希望

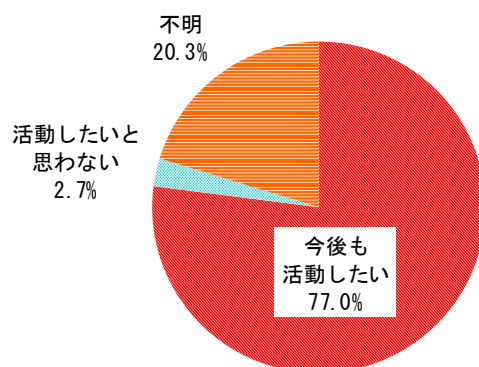


図 4-3-1 介護サポーターとしての今後の活動希望
(SA: N=74)

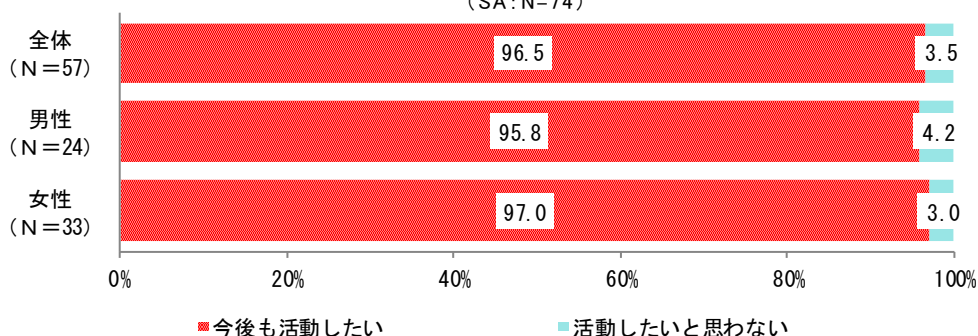


図 4-3-2 介護サポーターとしての今後の活動希望
(SA: N=74)

③-2 介護サポーターとして、今後も活動をしたい理由[自由回答]

表 4-3 介護サポーターとして、今後も活動をしたい理由 (FA: N=30)

項目	件数 (件)	主な回答
自分のため	16	●人の役に立てることが、張り合いになり、学ぶことも多い(10件) ●人を支えることで、自分を高めていきたい(4件) ●介護の大変さをお手伝いしたい。自分もお願いすることがあるかもしれない(2件)
予定があれば	6	●日程などの条件が合うようになったら始める(2件) ●近々始める予定(2件) ●自宅の近所で見つけれたら始める(2件)
ずっと続けている	3	●習慣 ●健康である限り、できるだけ
これから取り組みたい	3	●次第に身近な問題になったので ●休日を有効に使いたい
楽しい	2	

③-3 今後、介護サポーターの活動をしたくない理由 (FA: N=1)

- 自分には向いていないと思う。

④今後、介護サポーターとして受講してみたいと思う講座内容[自由回答]

表 4-4 介護サポーターの活動をしていない理由 (FA:N=14)

項目	件数 (件)	主な回答
認知症について	5	●認知症についての知識(3件) ●認知症の方への対応技術(行動障害・ノウハウなど)(2件)
介護予防等のプログラムについて	4	●脳トレプログラム ●高齢者の金銭感覚 ●傾聴・朗読(2件) ●1時間程度の短時間の講座を数多く
研修・見学	3	●車椅子研修 ●ボランティア活動の現場で研修 ●施設見学会
その他	2	●パソコン ●新しいことは何でも

⑤介護サポーター全般に関する自由意見

表 4-5 介護サポーターの活動をしていない理由 (FA:N=11)

項目	件数 (件)	主な回答
活動の場を増やす アイデア	4	●周りの理解が少ない。必要性や行動事例を周知したいが資金もな くどうしたらよいか悩んでいる ●札幌市内各高齢者施設の受け入れ内容説明書 ●介護施設への受け入れ促進の働きかけ ●介護サポーターになっても、実働しない人への呼びかけ
やりがいがある・楽しい	3	●高齢でも活躍できる場所があるので嬉しい ●活動を通じて自分が成長できている ●どんなことでも学んでいきたい
その他	2	●資格を活かしていきたい ●家族でなく友人・知人が認知症になったときの支援の仕方を知り たい

⑥「介護サポーターフォローアップ講座」の理解度

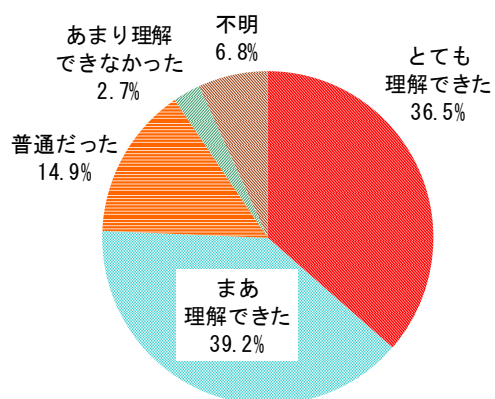


図 4-6「介護サポーターフォローアップ講座」の理解度
(SA: N=74)

⑥-2 介護サポーターフォローアップ講座が「あまり理解できなかった理由」(FA: N=2)

- 認知症の方への対応方法は、その場その場での状況が多いと思う。その対応方法をもっと数多い事例で知りたい。
- 講義は理解できたが、認知症の内容そのものが不完全。

資料2 アンケート調査票・依頼状

1. シニア大学在学学生

★ 札幌シニア大学2年生のみなさまへ ★

札幌シニア大学生の「交流・社会参加活動」調査への ご協力をお願い

平素より札幌市の高齢者福祉事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

人生 90 年時代を迎え、札幌市では、高齢者のみなさまがいきいきと社会で活躍し、いつまでも健康であることができる地域づくりを目指しています。

そこで、札幌シニア大学2年生のみなさまに、地域や社会で人と関わる活動をはじめたきっかけや、活動への意欲についてお伺いし、より多くの方が社会で活躍するための施策を検討したいと考えているところです。

つきましては、ご多忙の折に大変恐縮でございますが、趣旨をご理解いただき、本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 11 月 20 日 札幌市保健福祉局高齢保健福祉部

調査概要

- 調査への回答・参加は強制ではありません。できる範囲でご協力をいただければ幸いです。
- 本調査は以下の2つの方法で実施いたします。

1. アンケート調査

本日行います、別紙のアンケート用紙にご回答をいただく調査です。

2. 「いきいき生きる！シニア大学生インタビュー」の実施

後日実施いたします。カフェなどのくつろげる場所で、日頃の交流活動や暮らしの中の楽しみ、張り合いなどについてお話しいただきます。みなさまの体験をぜひお聞かせください。

「インタビュー」の詳細は別紙アンケート調査票の最終ページをごらんください。
ご協力いただける方は、最終ページの記入欄にお名前・ご連絡先をご記入ください。

ご回答・ご協力にあたってのお願い

- 回答は調査票に直接、あてはまる番号に○をつけるか、(カッコ)の中に具体的な内容をご記入ください。
- 本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定される形で公表されることは一切ありません。
- 「インタビュー」にご協力いただける方の連絡先をお聞きますが、個人情報には厳重に管理するとともに、調査結果においても個人が特定される形で公表されることは一切ありません。

調査の実施体制

- 本調査は札幌市高齢保健福祉部高齢福祉課が企画し、株式会社ノーザンクロスが受託事業者として、アンケートの集計や個別インタビュー調査の実施等を行います。

★本調査についての問い合わせ先

株式会社ノーザンクロス 担当：依谷（たわら） 〒001-0041 札幌市中央区大通東2丁目3-1 第36 桂和ビル7 階
TEL011-232-3661 FAX011-232-4918 URL <http://www.northerncross.co.jp>
※調査の趣旨について：札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課 TEL011-211-2976

札幌シニア大学生の「交流・社会参加活動」調査 アンケート調査票

※本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定されることは一切ありません※

1. 「シニア大学」についておうかがいします。

問1 シニア大学で学んでいることは、地域社会活動や生きがいがづくり、日々の生活に役立っていますか。(〇は1つ)

1. 役立っている	)
(役立っている講座内容:	
2. 役立っていない	)
(理由:	

問2 シニア大学受講により、得ることができたと思うことを教えてください。(あてはまるもの全てに〇)

1. 地域社会活動に対する意識が高まった	)
2. 地域社会活動を始めるきっかけになった	
3. 健康づくりや介護予防に対する意識が高まった	
4. 地域社会活動や健康づくり、介護予防に関する知識が習得できた	
5.一緒に活動する仲間ができた	
6. 特にない	
7. その他 (	

問3 受講期間(2年間)は適当だと思いますか。(〇は1つ)

1. 短いと思う(理由:	)
2. 適当である	
3. 長いと思う(理由:	)

問4 シニア大学に取り入れたら良いと思う講座内容等があれば記載してください。

--

問5 シニア大学全般について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

--

★裏面につづきます。引き続きご協力をお願いいたします。★

2. 「交流・社会参加活動の状況」についておうかがいします。

問6 あなたは現在、シニア大学の受講以外で地域や人と関わる活動をしていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1. 町内会や自治会の活動 | 2. 老人クラブの活動 |
| 3. シニア世代向けの仕事・アルバイト(シルバー人材センター登録など) | |
| 4. 1～3以外のボランティアや地域活動、社会貢献活動 | |
| 5. 学習・教養を高める講座・教室 | 6. スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動 |
| 7. 健康増進・介護予防のための教室 | |
| 8. その他 [] | |

問7 シニア大学の受講や、問6にあげた活動(以下、「交流・社会参加活動」と言います)を始めたときに、あなたの人生の中で節目になるような出来事がありましたか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|------------|
| 1. 就職した | 2. 転職した | 3. 職場の環境が変わった | 4. 起業・独立した |
| 5. 退職した | 6. 配偶者が退職した | 7. 結婚した | 8. 転居した |
| 9. 子どもが生まれた | 10. 子どもが入園・入学した | 11. 子育てが落ち着いた | |
| 12. 子どもが独立した | 13. 親と同居した | 14. 親の介護が始まった | |
| 15. 自分が病気になった | 16. 家族や友人と死別した | 17. 特に何もなかった | |
| 18. その他 [] | | | |

問8 「交流・社会参加活動」を始めたきっかけは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|----------------|------------------------|----------------|
| 1. 広報さっぽろを見て | 2. 公共施設の掲示板・配布物などを見て | |
| 3. 公共施設で紹介を受けて | 4. 新聞やテレビ・ラジオ・雑誌などの報道で | |
| 5. 地域情報誌を見て | 6. 友人・知人に誘われて | 7. 家族・親族に勧められて |
| 8. 活動団体から誘われて | 9. 活動を実際に見て、イベントに参加して | |
| 10. その他 [] | | |

問9 「交流・社会参加活動」をしている理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|--------------------------|------------------|-------------|
| 1. 時間的な余裕がある | 2. 収入が得られる | 3. 活動自体が楽しい |
| 4. 活動を通じて人との交流が充実している | | |
| 5. 地域や社会、人の役に立っていると感じられる | 6. 能力や技術を身につけられる | |
| 7. 責任や義務感、人間関係への配慮のため | | |
| 8. その他 [] | | |

問 10「交流・社会参加活動」をしている中で、課題や問題となることは何ですか。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 活動内容が多く、忙しい | 2. 期待していたより、収入が得られない |
| 3. 思ったより経費がかかる | 4. 活動について家族や周囲の理解が得られない |
| 5. 活動を通じた人との交流が少ない | 6. 地域や社会、人の役に立っているように思えない |
| 7. 能力や技術を身につけることができない | 8. 責任が大きい |
| 9. 人間関係がわずらわしい | |
| 10. その他 (|) |

3. あなたご自身のことについて、おうかがいします。(4. 以外はいずれも○は1つ)

1. 居住区	1. 中央区 2. 北区 3. 東区 4. 白石区 5. 厚別区 6. 豊平区 7. 清田区 8. 南区 9. 西区 10. 手稲区
2. 満年齢 H27 年 10 月 1 日現在	1. 60～64 歳 2. 65～69 歳 3. 70～74 歳 4. 75～79 歳 5. 80～84 歳 6. 85～89 歳 7. 90 歳以上
3. 性別	1. 男性 2. 女性
4. 同居者 (あてはまるもの全てに○)	1. ひとり暮らし 2. 夫婦2人暮らし 3. 子と同居 4. 親と同居 5. 孫と同居 6. 兄弟・姉妹と同居 7. その他 () ●3～7. と回答した方にうかがいます。(人数を記入) ご自分を含めて、何人で暮らしていますか _____ 人
5. 自宅形態	1. 自分または家族の持ち家(一戸建て) 2. 自分または家族の持ち家(マンション) 3. 民間の借家(一戸建て) 4. 民間の借家(マンション・アパート) 5. 道営・市営住宅・公団住宅 6. 高齢者向け住宅 7. その他 ()
6. 現在の 就業形態	1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 無職(退職後 _____ 年) 10. 職業についたことがない 11. その他 ()
7. 最長の 就業形態	●あなたが最も長く働いていた就業の形態は… 1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 職業についたことがない 10. その他 ()
8. 現在の 余暇時間	●余暇時間=1日のうち生活に必須な家事・通院等を除いた時間は… 1. 2時間未満 2. 2時間以上4時間未満 3. 4時間以上6時間未満 4. 6時間以上
9. 外出頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に3～4日 3. 週に1～2日 4. 2週に1日 5. 月に1～2日 6. ほとんど外出しない 7. その他 ()

札幌シニア大学生の「交流・社会参加活動」調査

「いきいき生きる！シニア大学生インタビュー」 ～あなたの体験をお聞かせください～

協力者募集中！

- 札幌市では、豊かな経験や生活の知恵をもつシニア世代の方々の「交流・社会参加活動」が、より盛んになることで、誰もが「いきいき生きる！」まちづくりにつながると考えています。
- そこで、札幌シニア大学2年生のみなさまに、ご自身の「交流・社会参加活動」を振り返っていただきながら、活動していて楽しかったことや苦労したこと、やりがいなどについてインタビューをさせていただき、より多くの方がいきいきと活躍できる地域づくりのヒントを発見したいと考えています。
- お一人お一人のペースで、日頃感じていることを気がねなくお話いただく場にしたいと考えていますので、ぜひご協力をお願いします！
- お聞きしたお話が、個人が特定される形で公表されることは一切ありません。



ご参加いただいた方には、会場までの交通費と、
「元気ショップ（授産施設製品販売）」商品のセレクトセットを進呈いたします！

※写真は商品イメージです。



●開催予定：平成28年1月上旬～2月上旬の間 ●募集人数 約15名

●会場・日時：参加者様のご都合等をうかがった上で、後日調整いたします。

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了解ください。

「協力してもいいかな」と思われた方は、下記に必要事項をご記入ください。
受託事業者株式会社ノーザンクロスより、連絡をさせていただきます。

お名前	ご住所	電話番号

※個人情報は厳重に管理し、本調査「インタビュー」の事務連絡以外に使用することは絶対にありません。

2. シニア大学卒業生

平成 25・26 年度札幌シニア大学卒業生のみなさまへ

「札幌シニア大学生の卒業後における交流・社会参加活動調査」への ご協力をお願い

平素より札幌市の高齢者福祉事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

人生 90 年時代を迎え、札幌市では、高齢者の皆様が生き生きと社会で活躍し、いつまでも健康でいることができる地域づくりを目指しています。

そこで、札幌シニア大学を卒業された皆様に、地域や社会で人と関わる活動をはじめたきっかけや、活動への意欲についてお伺いし、より多くの方が社会で活躍するための施策を検討したいと考えているところです。

つきましては、ご多忙の折に大変恐縮でございますが、趣旨をご理解いただき、本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 11 月 13 日 札幌市保健福祉局高齢保健福祉部

調査概要

- 調査への回答・参加は強制ではありません。できる範囲でご協力をいただければ幸いです。
- 本調査は以下の2つの方法で実施いたします。

1. アンケート調査

アンケート調査票にご記入をいただき、同封の返信用封筒に入れ、平成 27 年 11 月 30 日（月）までに切手を貼らずに、ポストに投函してください。

2. 「平成 25・26 年度札幌シニア大学卒業生による“交流・社会参加活動”座談会」開催

後日開催いたします。5～6人でお茶を飲みながら、テーマに沿ってお話しいたします。係の者もテーブルに入り、一緒に楽しく話せる工夫をしますので、お一人様も安心してご参加いただけます。

「座談会」についての詳細は、別紙アンケート調査票の最終ページをごらんください。

ご参加いただける方は、最終ページの記入欄にお名前・ご連絡先をご記入ください。

ご回答・ご協力にあたってのお願い

- 回答は調査票に直接、あてはまる番号に○をつけるか、() の中に具体的な内容をご記入ください。
- 本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定される形で公表されることは一切ありません。
- 「座談会」にご協力いただける方の連絡先をお聞きしますが、個人情報厳重に管理するとともに、調査結果においても個人が特定される形で公表されることは一切ありません。

調査の実施体制

- 本調査は札幌市高齢保健福祉部高齢福祉課が企画し、株式会社ノーザンクロスが受託事業者として、アンケートの発送・回収・集計、座談会の実施等を行います。

★本調査についての問い合わせ先

株式会社ノーザンクロス 担当：依谷（たわらや） 〒001-0041 札幌市中央区大通東2丁目3-1 第36 桂和ビル7 階
TEL011-232-3661 FAX011-232-4918 URL <http://www.northerncross.co.jp>

※調査の趣旨について：札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課 TEL011-211-2976

「札幌シニア大学生の卒業後における交流・社会参加活動調査」

★アンケート調査票★

※本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定されることは一切ありません※

1. 「シニア大学」についておうかがいします。

問1 シニア大学で学んだことは、地域社会活動や生きがいづくり、日々の生活に役立っていますか。(〇は1つ)

1. 役立っている

（ 役立っている講座内容： ）

2. 役立っていない

（ 理由： ）

問2 シニア大学で得られたものを教えてください。(あてはまるもの全てに〇)

1. 地域社会活動に対する意識が高まった

2. 地域社会活動を始めるきっかけになった

3. 健康づくりや介護予防に対する意識が高まった

4. 地域社会活動や健康づくり、介護予防に関する知識が習得できた

5. 一緒に活動する仲間ができた

6. 特にない

7. その他

問3 受講期間（2年間）は適当だと思いますか。(〇は1つ)

1. 短いと思う（理由： ）

2. 適当である

3. 長いと思う（理由： ）

問4 シニア大学に取り入れたら良いと思う講座内容等があれば記載してください。

問5 シニア大学全般について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

★裏面につづきます。引き続きご協力をお願いいたします。★

2. 「交流・社会参加活動の状況」についておうかがいします。

問6 あなたは現在、地域や人と関わる活動をしていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 町内会や自治会の活動 | →問7に回答してください |
| 2. 老人クラブの活動 | →問8に回答してください |
| 3. 1～2以外のボランティアや地域活動、社会貢献活動 | →問9に回答してください |
| 4. シニア世代向けの仕事・アルバイト(シルバー人材センター登録など) | 問11に進んでください
 |
| 5. 学習・教養を高める講座・教室 | |
| 6. スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動 | |
| 7. 健康増進・介護予防のための教室 | |
| 8. その他() | |
| 9. 特にしていない | →問10に回答してください |

問7 問6で「1. 町内会や自治会の活動」と回答した方にうかがいます。

(1) 活動を始めた(参加した)のはいつからですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------|
| 1. シニア大学の入学前から |
| 2. シニア大学の在学中、または、卒業してから |

(2) 町内会(自治会)の役員に就いていますか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------------|
| 1. シニア大学の入学前から就いている |
| 2. シニア大学の在学中、または、卒業後に就いた |
| 3. 就いていない |

問8 問6で「2. 老人クラブの活動」と回答した方にうかがいます。

(1) 老人クラブに加入したのはいつからですか。(○は1つだけ)

- | |
|-------------------------|
| 1. シニア大学の入学前から |
| 2. シニア大学の在学中、または、卒業してから |

(2) 老人クラブの役員に就いていますか。(○は1つだけ)

- | |
|--------------------------|
| 1. シニア大学の入学前から就いている |
| 2. シニア大学の在学中、または、卒業後に就いた |
| 3. 就いていない |

問9 問6で「3. 1～2以外のボランティアや地域活動、社会貢献活動」と回答した方にうかがいます。その活動を始めたのはいつからですか。また、その活動内容などを教えてください。（あてはまるもの全てに○）

1. シニア大学の入学前から

（活動内容、名称：

）

2. シニア大学の在学中、または、卒業してから

（活動内容、名称：

）

問10 問6で「9. 特にしていない」と回答した方にうかがいます。

その理由を教えてください。（あてはまるもの全てに○）

1. 体力・健康面に不安がある

2. 活動に充てる時間がない

3. 人間関係が不安・わずらわしい

4. 自分に合った活動がわからない・見つからない

5. どこでどのような活動が行われているかわからない

6. やりたい活動はあるが、いざ始めるとなると不安である

7. その他（

）

問11 以降、全ての方にうかがいます。

シニア大学の受講や、問6にあげた活動（以下、「交流・社会参加活動」と言います）を始めたときに、あなたの人生の中で節目になるような出来事がありましたか。

（あてはまるもの全てに○）

1. 就職した

2. 転職した

3. 職場の環境が変わった

4. 起業・独立した

5. 退職した

6. 配偶者が退職した

7. 結婚した

8. 転居した

9. 子どもが生まれた

10. 子どもが入園・入学した

11. 子育てが落ち着いた

12. 子どもが独立した

13. 親と同居した

14. 親の介護が始まった

15. 自分が病気になった

16. 家族や友人と死別した

17. 特に何もなかった

18. その他（

）

問 12 「交流・社会参加活動」を始めたきっかけは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 広報さっぽろを見て | 2. 公共施設の掲示板・配布物などを見て |
| 3. 公共施設で紹介を受けて | 4. 新聞やテレビ・ラジオ・雑誌などの報道で |
| 5. 地域情報誌を見て | 6. 友人・知人に誘われて |
| 7. 家族・親族に勧められて | 8. 活動団体から誘われて |
| 9. 活動を実際に見て、イベントに参加して | |
| 10. その他 [] | |

問 13 「交流・社会参加活動」をしている理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 時間的な余裕がある | 2. 収入が得られる |
| 3. 活動自体が楽しい | 4. 活動を通じて人との交流が充実している |
| 5. 地域や社会、人の役に立っていると感じられる | |
| 6. 能力や技術を身につけられる | 7. 責任や義務感、人間関係への配慮のため |
| 8. その他 [] | |

問 14 「交流・社会参加活動」をしている中で、課題や問題となることは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 活動内容が多く、忙しい | 2. 期待していたより、収入が得られない |
| 3. 思ったより経費がかかる | 4. 活動について家族や周囲の理解が得られない |
| 5. 活動を通じた人との交流が少ない | |
| 6. 地域や社会、人の役に立っているように思えない | |
| 7. 能力や技術を身につけることができない | |
| 8. 責任が大きい | 9. 人間関係がわずらわしい |
| 10. その他 [] | |

3. あなたご自身のことについて、おうかがいします。(4. 以外はいずれも○は1つ)

1. 居住区	1. 中央区 2. 北区 3. 東区 4. 白石区 5. 厚別区 6. 豊平区 7. 清田区 8. 南区 9. 西区 10. 手稲区
2. 満年齢 H27年10月1日現在	1. 60～64歳 2. 65～69歳 3. 70～74歳 4. 75～79歳 5. 80～84歳 6. 85～89歳 7. 90歳以上
3. 性別	1. 男性 2. 女性
4. 同居者 (あてはまるもの全てに○)	1. ひとり暮らし 2. 夫婦2人暮らし 3. 子と同居 4. 親と同居 5. 孫と同居 6. 兄弟・姉妹と同居 7. その他() ●3～7. と回答した方にうかがいます。(人数を記入) ご自分を含めて、何人で暮らしていますか _____ 人
5. 自宅形態	1. 自分または家族の持ち家(一戸建て) 2. 自分または家族の持ち家(マンション) 3. 民間の借家(一戸建て) 4. 民間の借家(マンション・アパート) 5. 道営・市営住宅・公団住宅 6. 高齢者向け住宅 7. その他()
6. 現在の 就業形態	1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 無職(退職後 年) 10. 職業についたことがない 11. その他()
7. 最長の 就業形態	●あなたが最も長く働いていた就業の形態は… 1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 職業についたことがない 10. その他()
8. 現在の 余暇時間	●余暇時間=1日のうち生活に必要な家事・通院等を除いた時間は… 1. 2時間未満 2. 2時間以上4時間未満 3. 4時間以上6時間未満 4. 6時間以上
9. 外出頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に3～4日 3. 週に1～2日 4. 2週に1日 5. 月に1～2日 6. ほとんど外出しない 7. その他()

アンケートは以上で終わりです。ご回答をいただいた調査票は、同封した返信用封筒(切手不要)に入れ、お近くのポストに11月30日(月)までに投函をお願いいたします。

ご協力をいただきありがとうございました。

★裏面は「座談会」のご案内です。ぜひごらんいただき、お気軽にご参加ください！

札幌シニア大学生の卒業後における交流・社会参加活動調査

平成 25・26 年度 札幌シニア大学卒業生対象

座談会への 参加者募集中!



札幌市では、豊かな経験や生活の知恵をもつシニア世代の方々の「交流・社会参加活動」が、より盛んになることで、誰もが「いきいき生きる!」まちづくりができると考えています。

そこで、平成 25・26 年度札幌シニア大学卒業生のみなさまに、「交流・社会参加活動」についておしゃべりをしていただく座談会を開催し、より多くの方がいきいきと活躍できる地域づくりのヒントを発見したいと考えています。

楽しく、元気が出る場にしたいと考えていますので、ぜひご協力をお願いします!



座談会は5~6人くらいで行います。
進行係が会話を楽しめるよう、工夫しますので、知らない人同士でも、お一人での参加でも心配はご無用です!



ご参加いただいた方には、会場までの交通費と、「元気ショップ(授産施設製品販売)」商品のセレクトセットを進呈いたします! ※写真は商品イメージです。

●開催予定: 平成 28 年 1 月上旬~2 月上旬の間 ●募集人数 約 20 名

●会場予定: 札幌駅前から大通駅周辺の地下鉄駅近くで開催

※日程・会場は参加者のみなさまと後日調整いたします。

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「参加してみようかな」と思われた方は、下記に必要事項をご記入ください。
受託事業者株式会社ノーザンクロスより、連絡をさせていただきます。

お名前	ご住所	電話番号

※個人情報は厳重に管理し、本調査「座談会」の事務連絡以外に使用することはありません※

3. 介護サポーター

介護サポーター・フォローアップ講座 受講生のみなさまへ

「いきいき生きる！シニア世代の交流・社会参加促進調査」への ご協力をお願い

平素より札幌市の高齢者福祉事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

人生 90 年時代を迎え、札幌市では、高齢者の皆様が生き生きと社会で活躍し、いつまでも健康でいることができる地域づくりを目指しています。

そこで、介護サポーターとして活動される皆様に、地域や社会で人と関わる活動をはじめたきっかけや、活動への意欲についてお伺いし、より多くの方が社会で活躍するための施策を検討したいと考えているところです。

つきましては、お疲れのところ恐縮でございますが、趣旨をご理解いただき、本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 10 月 27 日 札幌市保健福祉局高齢保健福祉部

調査概要

- 調査への回答・参加は強制ではありません。できる範囲でご協力をいただければ幸いです。
- 本調査は以下の2つの方法で実施いたします。

1. アンケート調査

本日行います、別紙のアンケート用紙にご回答をいただく調査です。

2. 「いきいき生きる！シニア世代の交流・社会参加促進に関する座談会」開催

後日開催いたします。5～6人でお茶を飲みながら、テーマに沿ってお話しいたします。係の者もテーブルに入り、一緒に楽しく話せる工夫をしますので、お一人様も安心してご参加いただけます。

「座談会」についての詳細は、別紙アンケート調査票の最終ページをごらんください。

ご参加いただける方は、最終ページの記入欄にお名前・ご連絡先をご記入ください。

ご回答・ご協力にあたってのお願い

- 回答は調査票に直接、あてはまる番号に○をつけるか、(かっこ)の中に具体的な内容をご記入ください。
- 本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定される形で公表されることは一切ありません。
- 「座談会」にご協力いただける方の連絡先をお聞きますが、個人情報は厳重に管理するとともに、調査結果においても個人が特定される形で公表されることは一切ありません。

調査の実施体制

- 本調査は札幌市高齢保健福祉部高齢福祉課が企画し、株式会社ノーザンクロスが受託事業者として、アンケートの集計、座談会の実施等を行います。

本調査についての問い合わせ先

株式会社ノーザンクロス (担当) 俵谷 千001-0041 札幌市中央区大通東2丁目3-1 第36 柱和ビル7 階
TEL011-232-3661 FAX011-232-4918 URL <http://www.northerncross.co.jp>
※調査の趣旨について：札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課 TEL011-211-2976

**「介護サポーター・フォローアップ講座」及び
「いきいき生きる！シニア世代の交流・社会参加促進調査」アンケート調査票**

※本調査は統計的な処理をいたしますので、個人が特定されることは一切ありません※

1. 「介護サポーター」についておうかがいします。

問1 本日の講座内容は、どのくらい理解できましたか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|-------------|----------|
| 1. とても理解できた | 2. まあ、理解できた | 3. 普通だった |
| 4. あまり理解できなかった(理由:) | | |
| 5. 理解できなかった(理由:) | | |

問2 現在、介護サポーターとして、実際に活動していますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---|------------|
| 1. 活動している | → | 問3に進んでください |
| 2. 活動していない | → | 問4に進んでください |

問3 問2で「1. 活動している」と回答した方にうかがいます。現在、どのくらいの頻度で活動していますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 定期的に活動している | (1カ月に _____ 回くらい、1回あたり _____ 時間くらい) |
| 2. 不定期で活動している (どのくらいのペースか: _____) | |

問4 問2で「2. 活動していない」と回答した方にうかがいます。

現在、活動していない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|-----------------|------------------|-------------|
| 1. 時間に余裕がない | 2. 活動したい内容がない | 3. 体調が良くない |
| 4. 活動する施設が近所がない | 5. 活動先の探し方がわからない | 6. 登録して間もない |
| 7. その他() | | |

問5 今後も介護サポーターとして活動をしたいと思いませんか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------|
| 1. 今後も活動したい | (理由:) |
| 2. 活動したいと思わない | (理由:) |

問6 今後、受講してみたいと思う講座の内容をご自由にお書きください。

問7 「介護サポーター」全般について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

2. 「シニア世代の交流・社会参加」についておうかがいします。

問8 あなたは介護サポーター以外に、地域や人と関わる活動をしていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1. 町内会や自治会の活動 | 2. 老人クラブの活動 |
| 3. シニア世代向けの仕事・アルバイト(シルバー人材センター登録など) | |
| 4. 1～3以外のボランティアや地域活動、社会貢献活動 | |
| 5. 学習・教養を高める講座・教室 | 6. スポーツや趣味を楽しむ同好会・サークル活動 |
| 7. 健康増進・介護予防のための教室 | |
| 8. その他 [] | |

問9 あなたが、問8にあげた活動や「介護サポーター」の活動(これらを以下、「交流・社会参加活動」と言います)を始めるときに、あなたの人生の中で節目になるような出来事はありましたか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | | |
|---------------|-----------------|---------------|------------|
| 1. 就職した | 2. 転職した | 3. 職場の環境が変わった | 4. 起業・独立した |
| 5. 退職した | 6. 配偶者が退職した | 7. 結婚した | 8. 転居した |
| 9. 子どもが生まれた | 10. 子どもが入園・入学した | 11. 子育てが落ち着いた | |
| 12. 子どもが独立した | 13. 親と同居した | 14. 親の介護が始まった | |
| 15. 自分が病気になった | 16. 家族や友人と死別した | 17. 特に何もなかった | |
| 18. その他 [] | | | |

問10 「交流・社会参加活動」を始めたきっかけは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|----------------|------------------------|----------------|
| 1. 広報さっぽろを見て | 2. 公共施設の掲示板・配布物などを見て | |
| 3. 公共施設で紹介を受けて | 4. 新聞やテレビ・ラジオ・雑誌などの報道で | |
| 5. 地域情報誌を見て | 6. 友人・知人に誘われて | 7. 家族・親族に勧められて |
| 8. 活動団体から誘われて | 9. 活動を実際に見て、イベントに参加して | |
| 10. その他 [] | | |

問11 「交流・社会参加活動」をしている理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|--------------------------|------------------|-------------|
| 1. 時間的な余裕がある | 2. 収入が得られる | 3. 活動自体が楽しい |
| 4. 活動を通じて人との交流が充実している | | |
| 5. 地域や社会、人の役に立っていると感じられる | 6. 能力や技術を身につけられる | |
| 7. 責任や義務感、人間関係への配慮のため | | |
| 8. その他 [] | | |

問 12 「交流・社会参加活動」をしている中で、課題や問題となることは何ですか。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 活動内容が多く、忙しい | 2. 期待していたより、収入が得られない |
| 3. 思ったより経費がかかる | 4. 活動について家族や周囲の理解が得られない |
| 5. 活動を通じた人との交流が少ない | 6. 地域や社会、人の役に立っているように思えない |
| 7. 能力や技術を身につけることができない | 8. 責任が大きい |
| 9. 人間関係がわずらわしい | |
| 10. その他 (|) |

3. あなたご自身のことについて、おうかがいします。(4. 以外はいずれも○は1つ)

1. 居住区	1. 中央区 2. 北区 3. 東区 4. 白石区 5. 厚別区 6. 豊平区 7. 清田区 8. 南区 9. 西区 10. 手稲区
2. 満年齢 H27 年 10 月 1 日現在	1. 65～69 歳 2. 70～74 歳 3. 75～79 歳 4. 80～84 歳 5. 85～89 歳 6. 90 歳以上
3. 性別	1. 男性 2. 女性
4. 同居者 (あてはまるもの全てに○)	1. ひとり暮らし 2. 夫婦2人暮らし 3. 子と同居 4. 親と同居 5. 孫と同居 6. 兄弟・姉妹と同居 7. その他 () ●3～7. と回答した方にうかがいます。(人数を記入) ご自分を含めて、何人で暮らしていますか _____ 人
5. 自宅形態	1. 自分または家族の持ち家(一戸建て) 2. 自分または家族の持ち家(マンション) 3. 民間の借家(一戸建て) 4. 民間の借家(マンション・アパート) 5. 道営・市営住宅・公団住宅 6. 高齢者向け住宅 7. その他 ()
6. 現在の 就業形態	1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 無職(退職後 年) 10. 職業についたことがない 11. その他 ()
7. 最長の 就業形態	●あなたが最も長く働いていた就業の形態は… 1. 経営者・役員 2. 正社員 3. 契約社員・嘱託 4. 派遣社員 5. パート・アルバイト 6. 自営業・自由業 7. 主婦・主夫 8. 内職 9. 職業についたことがない 10. その他 ()
8. 現在の 余暇時間	●余暇時間=1日のうち生活に必須な家事・通院等を除いた時間は… 1. 2時間未満 2. 2時間以上4時間未満 3. 4時間以上6時間未満 4. 6時間以上
9. 外出頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に3～4日 3. 週に1～2日 4. 2週に1日 5. 月に1～2日 6. ほとんど外出しない 7. その他 ()

いきいき生きる！シニア世代の交流・社会参加促進調査

座談会への 参加者募集中!



札幌市では、豊かな経験や生活の知恵をもつシニア世代の方々の「交流・社会参加活動」が、より盛んになることで、誰もが「いきいき生きる！」まちづくりができると考えています。

そこで、介護サポーターのみなさまに、「交流・社会参加活動」についておしゃべりをしていただく座談会を開催し、より多くの方がいきいきと活躍できる地域づくりのヒントを発見したいと考えています。

楽しく、元気になる場にしたいと考えていますので、ぜひご協力をお願いします！



座談会は5～6人くらいで行います。進行係が会話を楽しめるよう、工夫しますので、知らない人同士でも、お一人でのご参加でも心配はご無用です！



ご参加いただいた方には、会場までの交通費と、「元気ショップ（授産施設製品販売）」商品のセレクトセットを進呈いたします。※写真は商品イメージです。

●開催予定：11月中旬～12月中旬の間 ●募集人数 約15名

●会場予定：札幌駅前から大通駅周辺の地下鉄駅近くで開催

※日程・会場は参加者のみなさまと後日調整いたします※

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます※

「参加してみようかな」と思われた方は、下記に必要事項をご記入ください。
受託事業者株式会社ノーザンクロスより、連絡をさせていただきます。

お名前	ご住所	電話番号

※個人情報は厳重に管理し、本調査「座談会」の事務連絡以外に使用することはありません※

